

金星と〈金星人〉イエス特集

UFO contactee

SINCE 1961
GAKU JAPAN NEWSLETTER



UFO/超能力/宇宙哲学
コンタクティー

高度に進化した金星人の実態

WINTER
1990

111

金星から転生してきたイエスの大地へ
長野県に出現した巨大UFO
美しいUFOが赤城山付近を飛ぶ
松本市にもフットボール型UFO
北海道に現れたアダムスキー型円盤
私のテレパシクな不思議人生
UFO-宇宙からの完全な証拠



〈巻頭言〉 烈日	1
高度に進化した金星人の実態	G. アダムスキー 2
金星から転生してきたイエスの大地へ	久保田八郎 6
UFO目撃旅行	14
長野県に出現した巨大母船型UFO	村田 正道 20
美しいUFOが赤城山付近を飛ぶ	番場 博次 22
松本市にもフットボール型UFO	茶谷 健一 23
北海道に現れたアダムスキー型円盤	堀江 健一 24
天国?を撮影したソ連の惑星探査機	26
科学-SCIENCE	28
GAP短信	30
新潟UFO写真展、驚異的入場者数	31
私のテレパシクな不思議人生	郡司 典子 32
UFO-宇宙からの完全な証拠(連載第13回)	ダニエル・ロス 37
本誌バックナンバー掲載記事目録	46
〈投稿欄〉 ユーコン広場	47
英文版ユーコンNo.6 / 編集後記	48
〈予告〉 第3回秋田・青森合同支部大会	49
〈広告〉 新アダムスキー全集	50
日本GAP全国月例研究会案内	51



◀ 金星人からジョージ・アダムスキーに伝えられた金星のシンボルマーク。2箇の図形の内、左側は宇宙の女性原理(陽)、右側は母性原理(陰)を意味する。円は宇宙をあらわしている。

GAPについて

GAPは「知らせる運動」という意味の世界的なグループ活動で、世界中の人々がUFOの真相について“知る”機会を与えられるべきであるという見地に基づいて1959年にジョージ・アダムスキーによって創始されました。彼の願いは「最大多数の人が現代の真実を発見して、来たるべき時代に眼を転じること、人間はすべて“コスミック・パワー”の子であり、そのパワーの諸法則が宇宙に遍満している事実を確信をもって知ること」にありました。この諸法則は他の世界(惑星)から来る友好的な訪問者からもたらされた“生命の科学”の研究と理解を通じて体得できます。

日本GAPの目的はUFOとスペース・ブラザーズ問題を関心ある人々に伝えることにあり、奉仕活動を通じて真実の解明と宇宙の法則の実践を呼びかけることにあります。その中心思想は次のとおりです。

1. この太陽系の他の惑星群には偉大な発達をとげた人類が居住しているが、米ソ等の大国政府はこの真相を隠している。
2. 他の世界から来る人々はこの世界の政治家や科学者とひそかにコンタクト(接触)しており、危機にひんした地球に対して救援の手をさしのべている。官民を問わずスペース・ブラザーズとコンタクトしている人々が少数存在すると思われるが、通常その真相は洩らされていない。
3. ジョージ・アダムスキーがもたらした哲学は、人類の精神の向上と地球の輝かしい未来を築くために不可欠のものである。

本誌は他の団体・個人と対立するものではなく、政治・宗教と関係のない非営利刊行物です。本誌が読者に対して多少とも役立てば幸いです。

表紙写真

日本GAP海外研修旅行「ローマ・エルサレム・ガリラヤ聖域の旅」に参加した伊東芳和氏(東京)が1990年8月16日朝8時45分頃、バスでオリーブ山を下る途中、中腹上空に出現したUFOを8ミリビデオカメラで撮影。

イラクのクエート侵攻により世界は騒然となった。あわや第三次世界大戦になるかと思われたキューバ危機に匹敵するという観測もあるようだが、当時の米ソ冷戦時代からみると様相はかなり変化している。まず第三次の発生を危惧する必要はないだろうが、それよりもフセインという一個人に振り回されている列強の焦燥と不安は一体どうしたことか。

歴史的な大事件は個人で起こされるという法則みたいなものがあるようだ。古代ローマの歴史は言わずもがな、世

〈巻頭言〉

烈日



界の戦争史をひもとけば、一個人か数名の決断によって大戦争が勃発し、数十万、数百万の人命が失われている実情が判る。現代の代表的な仕掛け人は第二次大戦の張本人、ナチスドイツのヒトラーである。世人は言う。地球人はわずかな独裁者のために命を落とす宿命をになつていくらしい。

だが地獄のようなこの惑星にも救いの接点はある。平和憲法か、否、そんなものは人間の創作にすぎない。

では何か。

それはある種の人間を『悪魔』とみ

る善悪二元論の駆逐だ。フセインを悪魔とみる限り第三者の見た目では悪魔のごとく振る舞うだろう。彼を善人と見れば善人として変貌するだろう。

宇宙には『絶対善』だけが存在するのだが、善悪の二極分割が行なわれる限り、この世界には善と悪が存在しつづけるだろう。光の子と闇の子の戦いは果てることがない。

いま日本人の1割がフセインに対して強烈な良き想念を発するならば、彼は奇跡的にマインド（心）の大激変を起すだろう。中東は平和になり、ひいては世界が平安になるだろう。

彼に向かって放射する想念はただひとつ。「あなたは絶対に善人なのだ」という想念波動である。この想念波動は必ず彼に届く。そして彼の内部のコズミック・コンシャスネス（宇宙の意識）が受信し、それが彼のマインド（心）に伝達するのである。

アラブ人のメンタリティー（もの考え方）は西欧人のそれとは異質であると言われている。確かにイスラムの戒律には我々の理解を超えたものがある。エルサレムの汚い石畳の上にひれ伏してメッカの方向を礼拝する老人の姿は我々に奇異な感覚を起させるのだ。

だが、アラブ人にも素晴らしい立派な人がいることを編者は知っている。アラブ人は一体に日本人に対して友好的なのだ。それは中南米のインディオ

が友好的なのと同様である。なぜか。彼ら是有色人種としての親近感を起すからだ。このアラブ人の親近感をなぜ日本人は理解しないのだろうか。

今世紀末に世界的な大変動が発生し、地球は廃墟と化すがごとき流言飛語を書物にして出す風潮が高まっている。これは金儲けか、または恐怖心に駆られた人の妄言にすぎない。大体に世紀末ともなれば根拠もなく人心は動揺し、不安感に襲われやすい。ひところの心霊ブームが下火になつて、今度は世紀末ブームが発生しかつた頃に、運よく？イラク問題が発生した。そこでこれを大戦争に結びつけようとする傾向が起こつた。この地球世界では些細な変事をやみくもに大変動の前兆とみなす癖があるらしい。

だが失望は禁物だ。たとえ地球がどのように変化しようとも絶対に失われぬものがある。それは万物を支えているコズミック・コンシャスネス（宇宙の意識）である。このコズミック・コンシャスネスに相当する中枢をイスラム教がアッラーという唯一絶対神として知覚しているからには、これが正しく理解されるならば、イスラム教徒は素晴らしい宇宙的な発達をとりこになるだろう。

世界の偉大な先覚者が教えているのは、大宇宙には善悪の二元は存在しないという簡単明瞭な法則である。地球人が精神的にこの域にまで発達しな

い限り、地球上から戦争は消滅しないだろう。

だが、いつかこの世界からあらゆる闘争が雲散霧消して金星のような楽園が出現すること編者は確信する。遙かなる未来のことかもしれないが、いかに遠い未来であろうとも一つの希望を持つことは、持たないよりも良い。なぜならば希望のない人間には希望のない人間にふさわしい人生が展開し、希望を持つ人には希望に満ちた人間にふさわしい人生が展開するからである。

人間は自己の描くイメージどおりの未来を実現させ得る。誰でも自分の想念どおりの人間になる」とは、アダムスキーの『第二惑星からの地球訪問者』の中でスペースビープルが説いていることだ。

アダムスキーは世紀のペテン師だつたと喧伝する人があつたを絶たないが、この単純さのほうに編者にはよほど信じ難い。これはNASAの公式発表なるものに文句なしに飛びつく単純さというよりも、常識豊かであったアダムスキーという人の立場を思考する力のなさを意味する。

ともあれ、隠されている事で洩らせられないものはない」という法則に従つて、いつかアダムスキーの真実性が世界に伝播する時が来るだろう。科学の方から真実が現れて、しかる後に人間の認知力が向上するだろう。

G. Adamski Talks about the Highly Advanced Culture on Planet Venus

高度に進化した金星人の実態

● ジョージ・アダムスキー／久保田八郎訳

太陽系内の地球を含む全惑星には人類が存在して高度な文明を築いていると主張したアダムスキーが金星人の実態を伝える貴重なインタビューをここに収録。

● 高度な感受力を持つ金星人

私のこれまでのコンタクトは主として金星人と行なわれましたので、ここで金星人の人間関係や態度を地球人のそれと比較してみましょう。

彼らは自然界を詳細に研究し、「宇宙の父」が母なる惑星にはらませて物質を生み出し、万物に「宇宙の息」を吹き込み、それによって万物が成長して互いに役立ち合っているのであることを知っています。彼らはきわめて感受力が高いために、草の葉の鼓動や岩石の呼吸を感じ取ることが出来ます。彼らにとっては全人類は宇宙の息の現れであり、その「息」が各個人に生命と

エネルギーを与えているのです。

彼らは樹木、草花、岩石、小鳥、動物などを研究し、これらが創造された目的を遂行している有様を観察していますので、「自然とは神自身の法則の働きである」という結論に達しています。したがって自然界は至上なる英知の母であるといつてよいでしょう。至上なる英知が現れるのはこの母を通じてであるからです。母体ははらんでいる小さな幼児に必要な栄養を供給すると同様に、母なる自然はその母体から生みます。万物の必要物を供給します。こうした観察によって彼らは地球人よりもはるかに「父」とその目的とをよく知っているのです。

● 出生

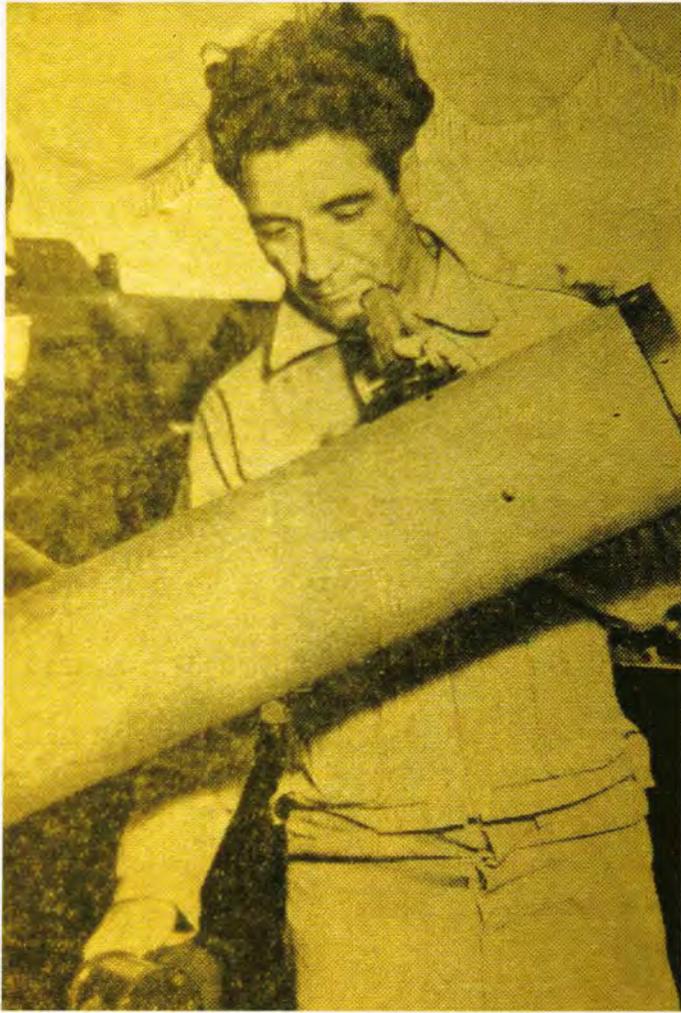
彼らの子供たちは、常に以上の点を考えにおいて受胎され、育てられ、尊敬されます。彼らが生み出すように特権を与えられている一つの新しい肉体は、それ自体が限らない体験を経ていることを彼らは知っています。そして肉体という神殿の中の「住人」を神の原理の現れとして尊敬します。受胎は愛のなかに行なわれ、婦人の妊娠期間中は性行為は避けられています。しかるに地球ではこのような慈愛の念は払われず、行為がつけられるために不具者が生まれたりします。

● 幼児期

幼児がきわめて小さいとき、その心は周囲の環境からあまり多くの印象を感受しません。その人体の内奥には「生命の火花」から放射される概念と感覚とがあります。そしてその肉体の作り手である「全包容的英知」は自由な状態にあります。金星の両親はこのことを知っていて、子供たちから多くを学び取るのです。

● 生まれかわり

ある子供は土星からやってきて金星で生まれかわるかもしれません。これ



▲1930年代のジョージ・アダムスキーと彼の6インチ反射望遠鏡

は本人がそれまで知らなかった生命のある分野を学ぶためであり、また各惑星人の知識が均等になるのを助けるためです。これは地球でも行なわれていて、この太陽系のあらゆる惑星上で体験を持ってきた人々が地球で生まれかわっており、それぞれ地球の進歩にたいして知的に文化的に貢献しています。

●日常生活

こうした態度によって彼らの家庭生

いることを彼らは知っています。子の指導や世話はしますが、その個性に干渉しないのです。親に何事が起こった場合は社会が子供の世話をします。彼らの社会は大家族として互いに密接に結ばれているからです。したがって両親なき子供も両親との離別感を起こしません。

活がどのようなものであるかはわかりになると思います。彼らはわれわれと同様に日常の雑用をやりますが、仕事のほとんどはその目的で作られた機械によってなされます。一例をあげますと、家屋から出るゴミを集める機械があります。そして集めたゴミを外へ捨てないで容器の中へ貯えておきます。それをさらに大工場へ運び、そのゴミの中から無機物を選び分けます。彼らは何物をも浪費しないのです。われわれの宇宙の友は地球人の誤っ

た考えを正そうと努力してきました。彼らはわれわれを理解しています。なぜなら彼らも過去において心を訓練し、個人的自我を他人への奉仕経路に転換させる必要があったからです。彼らは自分自身よりもむしろ全体の改善に関心を持っています。彼らは楽しい人々です。それは単なる気分的楽しさではなく、仕事を立派になしとげたことからわき起こる内奥の喜びです。彼らは万物や万人にたいして最大の敬意を払います。美しい建物の基礎に必要な地面を準備する人は、壁に壁画を描く画家と同じほどに高く尊敬されています。あらゆる人が相互に助け合っているのが社会であることを彼らは知っているのです。

●尊敬

この地球ではすぐれた人物であると思われる人だけを尊敬し、ありふれたミソ掘り人夫を軽べつの目をもって見ます。しかし金星人の万物にたいする見方は異なります。彼らが絵を描いたり像を作ったりする場合は、使用する材料にたいして高い敬意を払い、それが生きものであると考えます。そして作った物すべてに自分自身の生命力の一部をしみ込ませます。彼らが作った彫像はあたかも生きていて話しかけるように見えます。それを見れば、製作者の個人的満足感あらわれたいませ

ん。

絶えず宇宙のエネルギーを知覚し、それによって生きている金星人が歳をとらず、肉体の病気にもかからない理由をわれわれが理解するのは容易だと思いません。彼らは医者が必要としません。というのはだれもが肉体の構造や働きを熟知しているからです。事故で骨折しても本人はその傷を治すことができます。彼らは肉体を母なる惑星の材料からできた衣服とみなし、その衣服が各人の個別化された表現のために貸与されていると考えています。

われわれが肉体と呼んでいるこの衣服は長いあいだ愛用され、その有用性と美しさを保ちますが、新しい衣服を持つならばさらに好都合です。新しい肉体が組み立てられるときは、そこに集まる細胞は各自の体験を有しています。各細胞の原子の中には記憶が保たれています。それによってその肉体の所有者は人体の体験から得るところがあるのです。私はこのことを「超能力開発法」と題する著書の中で説明しました。(新アダムスキー全集第2巻)。

●死

金星人は右のことを知っていますので、新しい肉体を得るためには時機がくると喜んで古い衣服を脱ぎ捨てます。ゆえにわれわれの言う「死」という現象を彼らは恐れませぬ。宇宙は絶え間

なき変化の状態にあることを知っているからです。彼らが他の惑星に移動する(生まれかわる)ときは、その惑星の材料から作られる肉体が与えられ、それはその世界の条件によく適合していることを彼らは知っています。それは一軒の家から新しい家へ移動するのと異なりません。古い肉体の化学成分は目的を果たし、ふたたび利用されるために別な変化過程に入ってゆくことを彼らは知っています。

●歴史

金星人は彼らの「記録された歴史の図書館」の中に太陽系の全惑星の記録すなわち惑星の構造、文明の興亡、住民の科学技術や文化の発達などの記録を保存しています。彼らが語ったところによりますと、この地球上には多数の記録文書が残されているということ、それは広大な知識の貯蔵庫となっていたのですが、これらの文庫は破損したり散逸したり、記号類から文章に何度も翻訳されたり各国語に訳されたりしているうちに元の意味を完全に失ったということです。こうした太古の文書には簡単なわかりやすい説明で、物体の創造、惑星や太陽系の発達や変化、人間が「宇宙の父」と一体となつて生きていた「エデンの園」の真の意味などが述べられていたのです。また人間がエゴを強大にすることによって

「宇宙の因」から自分を分離させるときに起こる実例の詳細な説明や人間の墮落と文明の破壊などの発生例もありました。また放蕩息子の帰宅の物語に述べられた永遠に許す「父」、すなわち「宇宙の英知」の意味や、そのとき息子が本来の生得権をふたたび得たという説明などもありました。

こんな記録はわれわれの聖書にありますが、その真の解釈法は失われています。人間が次第に貪欲になり、大衆をエゴの支配下に置こうとして、元の記録を自分の都合のよいようにねじ曲げてしまったということなどをもっと詳細に私が説明できればと思います。しかしこれは必要ないでしょう。というのはこうした利己主義の結果をわれわれは現在あらゆる面で見ることができるところからです。

異星人はこの種の考え方や慣行の結果が終局の破壊に至ることを知っていますので、われわれの誤った態度を指摘することもできます。このことは過去に何度も行なわれたのであり、警告によって、太陽系の一員としての特権を享受する好機を与えられたことがあるのだということです。

●発達

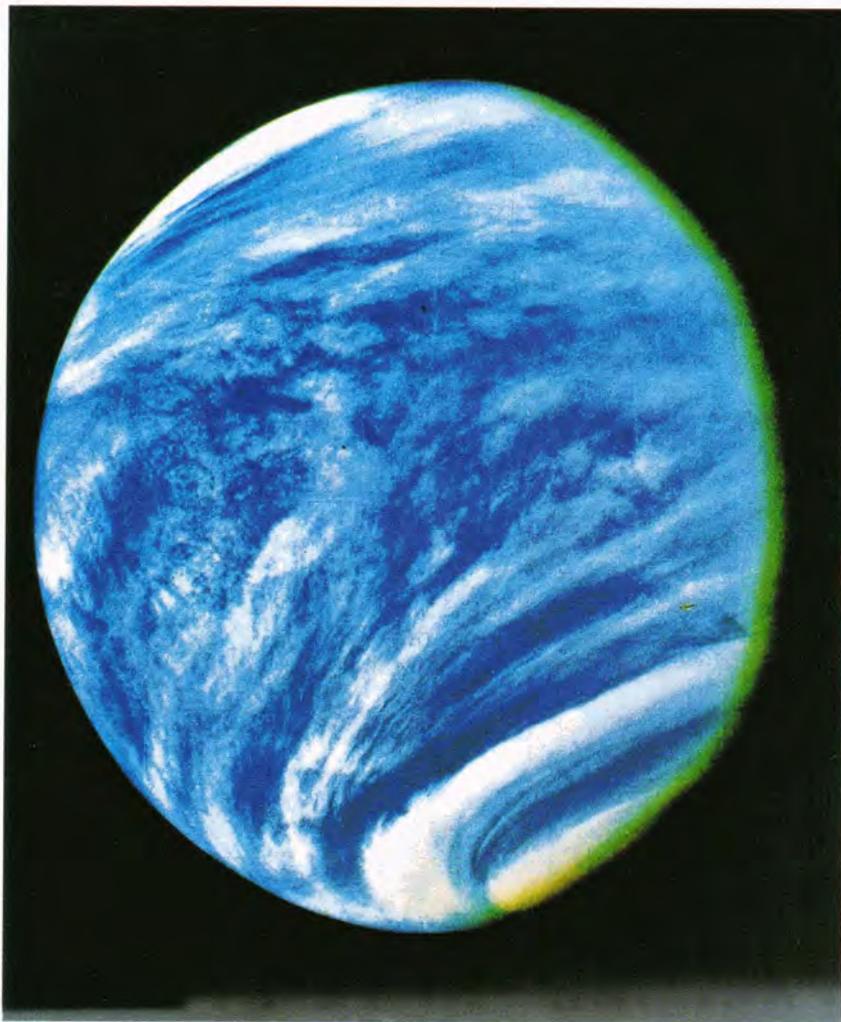
金星人といえども過失をおかすことはあります。これは以前に述べましたように、人間の心の発達の限界を一〇

パーセントとしますと、金星人のそれは約二〇パーセントです。ゆえに彼らも過失をおかすわけです。地球人は多くの過失をおかしてしかもそれを繰り返しますが、金星人は過失を率直に認めてふたたび繰り返しません。しかもそれによって何かを学び取ります。彼らは自分の体験をわかち合います。絶対に他人の行為を非難しません。

●金星人の精神生活

他の惑星の人間は地球人がやっているように神を礼拝するか、教会のような礼拝の場所を持っているのかと多数の人が質問します。金星人は草の葉にさえ現れている「至上なる英知」を絶えず知覚して生きていくということはこれまで説明し尽くされたと思います。

あるとき母船に乗り込んで私はスクリーンに投与された彼らの「映画」を見ましたが、これはテレビに似たもので、画面には彼らの建物が一つ映っていました。入口に通じる幅の広い階段があつて、地球の美しい大寺院の本堂に似た長い室の奥には、大きな壁に「無限の生命」をあらわす肖像画がありました。その肖像が生命で震えていたからです。この「宇宙の生命」の輝かしい肖像の暖かい抱擁の中に立ったときほど神に近づいたという感じのする時は他にないと思います。この建物の内部



▲マリナー10号が撮影した金星。青フィルターをかけて撮られたが、実際には黄白色に見える。

では宇宙の驚異や、宇宙の英知によって促進される「宇宙の働き」の完全な同等活動などについて研究されていません。ところが地球人は「礼拝」という言葉の真の意味を理解するようになるにはまだまだ遠い道を歩まねばなりません。

金星では黄金が豊富に使用されていきますので、古代の預言者たちが黄金でできた「天国の門」とか「黄金をしきつめた道」という説明をしているところをみますと、どうも彼らは金星へ行ったことがあるのではないかと気がもします。それとも金星から来た人が

地球人の生活法と彼らのそれとを比較して描写するために「天国」という言葉を使用したのかもしれませんが。

●金星の家屋と公共建築物

家屋の構造や大きさの相違は地球と

同様に金星でもさまざまです。金星人もやはり建築や家具の型にたいする趣味や好みを持っているからです。各人の住む地域は職業によってさまざまですが、これも地球と同様です。

彼らは美にたいして心中に深い観賞眼、というよりもほとんど畏敬感というべきものを持っていますので、これらは彼らの肉體、衣服、家具、家屋の構造などに反映しています。彼らの仕事の材料は柔らかい優美な色を帯びて震動していますので、それらは生きていくように思われます。

彼らはおだやかな人々ですから、けばけばしいものや極端なデザインは彼らの調和した生き方に適しません。草花、樹木、灌木、蔓草などが豊富に生長していますので、これらは色彩やデザインの美をこらすためのヒントとされます。かつて私がメキシコの熱帯地方の河に沿って旅行していたとき、その景色を見て私はブラザーズが語ってくれた金星のみずみずしく繁茂した青草を思い浮かべました。金星には多量の水分がありますので、風景を美しくするのにほとんど手を加える必要はありません。美しいプールや優雅な彫像、草で覆われた公園や台地などすべてが生活を楽しむためのものとして多く見受けられます。

金星には多量の黄金がありますが、金星人はそれにはたいして金銭的な価値を与えていません。

(以下次号)

Jesus was Reborn Here from Planet Venus
by Hachiro Kubota

金星から転生してきた イエスの大地へ

日本GAP第12回海外研修「ローマ・エルサレム・ガリラヤ聖域の旅」紀行

●久保田八郎 （日本GAP会長）

去る八月二日より二日までの一日間、日本GAPはかねてから企画中の海外研修旅行を実施し、参加者一五名により感動と歓喜の旅を終えて全員無事帰国した。以下はその報告。掲載写真の内、現地資料を除くものはすべて筆者撮影。

まず地球を理解しよう

日本GAPは一九七九年度より毎年八月に海外研修旅行を実施して多大の成果をあげてきた。宇宙問題も大切ではあるが、まず自分達のホーム惑星である地球を理解することによって視野を拡大しようという見地に基づくもので、古代の謎の遺跡見学を主体として諸外国の文化その他を研究することを目的とする。したがってただの物見遊山ではなく、きわめて教育的な色彩を帯びたもので、現地では一流の日本人

ガイドや学者の説明を受け、ときにはホテルの一室で筆者を囲んで宇宙哲学の質疑応答や討論を行なうこともある。すでに訪問した国は延べ数十カ国に及び、外国のUFO研究者や団体と交流、親睦を強化したこともあった。また、旅行が取り持つ縁で会員同士の良きカッブルが誕生した例も少なくない。もっと素晴らしいのは毎回の旅行で必ずUFO目撃事件が発生する点にある。日本GAP旅行団はスペースビールの注目をされているらしい」ということは初期の頃から言われてきた。今回も何度かUFOが出現して目撃者達を驚喜させたが、その件については各自の手記が別に掲載してあるので一読されたい。

イエスは金星から転生してきた

私としては今回でイタリア行き八度

目、イスラエル訪問は三度目になる。なぜこのような国へ行くのかというといずれもアダムスキーに関係の深い土地であるからだ。私達はキリスト教徒ではない。宗教とは一切無関係である。しかし過去二〇〇〇年間、世界の文化に多大の影響を与えたイエスなる人物が、実は地球人に宇宙的な愛の哲学を伝えるために惑星の金星から地球へ転生してきた（生まれ変わって来た）人であることを知っているからである。もともとイエスはキリスト教という宗教を確立するつもりはなかった。ただ地球人に愛の法則に従った生き方を教えただけだが、これを宗教団体化したのは後世の人々である。そして彼の実態や哲学は著しく歪められた。

詳細は彼の著書『第二惑星からの地球訪問者』（中央アート出版社刊『新アダムスキー全集第一巻』）を読まれたい。

早速UFOが出現

私達がイタリア航空（イタリアの航空会社）七八七便で成田を離陸したのは一二日の午後四時一〇分である。「絶対に安全に旅行して、無事帰国したときのイメージをはつきりと心中に描きながら旅をつづけければ、そのとおりを実現する」と、あらためてイメージ法を成田空港で皆さんに伝えておいたので誰も恐怖心は持たないようだ。こうした点でGAP旅行団は抜群の精神



▶成田空港にて。前列左より田中孝雄（横浜）、池田正徳（千葉県）、郡司典子（東京）、福井貴子（大阪）。後列左より久保田八郎（東京）、梅沢明（静岡）、東浩二（大阪）、井口譲（横浜）、氏家明美（北海道）、伊東芳和（東京）、戸塚良司（茨城県）、加藤純一（東京）、田中淳（埼玉県）、田中正（千葉県・添乗）。

波動を放つと私は確信する。

途中、香港とインドのデリーに立ち寄り、小憩の後出発し、日本時間で一日の午前九時三十分頃、私のすぐ前列の右の窓際に座っていた郡司典子さんが「UFOが見える！」と言う。数名が一斉に窓から外を覗く。私にも見よと言うので、体を乗り出して眺め

ると、主翼の上の暗い夜空に点滅するオレンジ色の光体が見える。星のようにも見えたが、後に郡司さんから聞くと、北斗七星は右後方にゆつくりと流れて行くのに、あの光体は主翼のアリタリアのAの文字から少し上の空間にじっとしていた」という。つまり飛行機と等速度で移動していたということになる。点滅も普通の飛行機のライトのそれではなく、もつとゆつくりした点滅状態だった。ということは、やはりUFOなのか。

大体、郡司さんという人は普通の女性と違って、何かしら宇宙的なカルマの強い方で、普段でもよくUFOを目撃するらしい。スペースビープルとテレパシクな波動によって繋がっている人のように見える。この人をそれとなく観察すると、絶えずUFOやスペースビープルのことばかり考えているようだ。私に話しかける内容はいつもそればかり。初めての海外旅行だと、うのに浮き浮きした様子は全くなくて冷静そのもの。

オリーブ山上の 素晴らしいホテル

日本を出てから約三〇時間後にやつとイスラエルのテルアビブ空港に着いた。これは途中、ローマのレオナルド・ダ・ビンチ空港で八時間休憩したからだ。ローマの空港もいつかの機関銃乱射事件後、大幅に改装されて見違えるように奇麗になった。奇跡的な経済発

展の結果かもしれない。

テルアビブでは在米GAP会員・芦田殉子さんがすでにアメリカから来ていてわが旅行団と合流。陽気な彼女の雰囲気でも賑やかになる。

バスでエルサレムに向かう。茶褐色の広大な原野が展開し、旧約聖書時代から悠久四千年の歴史が刻まれたパレスティナの大地が後方に流れる。

約三〇分後、バスはホテル・セブン・アーチズに到着。このホテルはオリーブ山の展望台のすぐ上にあるので、エルサレムの全景が見渡せて眺望絶佳、素晴らしい場所が位置するため一同は大喜びした。特に朝夕の全市撮影にはもってこいの特等席だ。ホテルの玄関から三〇メートルほど降りると、何度か立ったことのある展望台へ行けるのだ。ホテル内部も立派である。

波動感知旅行

当初、今回の旅行ではカメラを一切持たぬこととして手ぶらで参加しようと考えていた。カメラを持つと「目」という視覚器官がファインダーに振り回されてマインド（心）だけが浮かれ騒ぎ、内部のコズミック・コンシャスネス（宇宙の意識）のことは忘れてしまふからだ。そこでカメラなしの状態にし、外部の波動を感知しながら歩こうと殊勝な計画をしたのだが、出発三日前に新宿のヨドバシへ立ち寄ったとき考えが変わって多数のフィルムを購

入ってしまった。ただし今回は重い6×7判カメラはやめて三五ミリカメラ二台に限定した。今はフィルムや現像技術が発達したので、このカメラで充分に印刷原稿が出来るかと判断したからだ。結果的にはカメラを携行してよかったが、なるべく視覚に溺れぬようにし、意識から来るインスピレーションを感じるように努力した。その結果、旅行中は各種の特異な出来事を体験した。

翌一四日は早朝五時半に起床、六時四〇分よりホテル前の展望台から市内を撮影する。オリーブ山は東側に位置するので、八時過ぎには全市が影のつかないベタ日照りになって写真には不向きになることを知っていたからだ。八時四五分より坂下の「主泣きたまう教会」を皮切りに見学ツアーが始まる。ガイドは現地在住の日本人・榊原茂氏。エルサレム在住一九年の大ベテランで、奥さんはオーストラリア人。辛酸をなめつくして大成した方で、牧師の資格を持つ無教会主義の神学者でもある。私達の第一回のイスラエル行きからずっとこの方の世話になっているので今は友人だ。英語と現代ヘブライ語は母国語同様に出来る。

不思議な都市エルサレム

オリーブ山から見て中央正面にそびえる黄金の「岩のドーム」がエルサレムの象徴みたいになっているが、榊原

氏によると、これこそユダヤ教、キリスト教、イスラム教の三大宗教の源泉ともいべきもので、現代の各国間のトラブルの元になっているという。

実際、エルサレムというのは不思議な街で、世界最大の聖地であるとともに、世界の文化を三分した土地であり、また世界から紛争の的にされてきた都市であるとも言えるだろう。その歴史は複雑きわまりないものである。

八月上旬にイラクがクエイトを侵攻して中東情勢が緊迫化した。だが新聞等によってイスラエルがイラク問題を全く相手にしていないことを知っていた私は、イスラエル国内の治安は良好であろうと予測していた。来てみればそのとおりで、イラクの騒ぎなどどこ吹く風とばかり平穏である。榊原氏も

▲オリーブ山で榊原氏の説明を聞く。



イラクの挑発に乗らないほうが賢明だと言っていた。

一六世紀にトルコのシュレーマン大王が建設した城壁に囲まれた旧市外の『岩のドーム』のはるか後方にネズミ色のドームが見える。これがゴルゴタの丘のイエス磔刑跡に建立された『聖墳墓教会』で、城壁の左端を少し離れた位置のシオンの丘には一見三角形に見える『鶏鳴教会』がある。

処刑の前夜、イエスは最後の晩餐を弟子達とともにすませ、その後、この教会横の石段を徒歩でおりてケデロンの谷を横断し、オリブ山のすぐ右手の山麓に見える『万国民教会』に隣接している『ゲッセマネの庭園』で夜を徹して祈った後、ここで大祭司の手下に捕らえられ、再度ケデロンを渡り、降りた石段を登って大祭司カヤバの官邸に連行された。そこが現在の鶏鳴教会である。

そのとき弟子のペテロもあとをついて来たが、官邸の女中から「あんたもあの男（イエス）の一味だろう？」と問われて、否定して外へ逃げ出したとき、ニワトリが鳴いた。そこでペテロは「おまえはニワトリが二度鳴く前に三度私を知らないと言うだろう」と言ったイエスの予言を思い出して激しく泣いたということが新約に出ている。だからこの教会は鶏鳴教会と呼ばれているのだ。

こうした一連の由緒ある場所はオリ

ブ山から展望すれば一目で分かる。ただし資料が必要で、それには展望台でアラブ人が売っているエルサレム市全景写真を買おうとよい。今は解説付きの大きな上質写真を一ドルで売っている。アラブ人達は「ワン・ダラー」と叫んで突き出す。これを広げて実景と対照しながら見ると手にとるように理解できて興味深い。世にも希有なこの絶景に熱心なクリスチャンならば大感動するだろう。キリスト教徒でない私は別な意味で万感胸に迫るものがあった。

教会で覆われた遺跡群

見学は予定どおりに進行了。マダダラのマリア教会、ゲッセマネの庭園万国民教会内部の『イエス苦悶の岩』等を見た後、バスで鶏鳴教会へ行く。前述のように、ここはイエスを抹殺しようとした大祭司カヤバの官邸跡なので、それに関連する地下牢、その他の遺跡が残っている。

ハイライトは教会の横にある長い石段だ。これは近代に発掘されて、これこそイエスが直接に触れた遺跡だと考古学的に立証された価値の高い場所である。今は七年前、最初に来たときと違って鉄柵で囲んである。この石を剝がして持ち去る者があるので、その防止策だという。私達が到着したときには柵の扉に錠がかけてなかった。石段を歩くことができた。よく見ると

◆イエス受難の行動をたどると——処刑前夜、イエスは③の最後の晩餐の部屋で12人の弟子達と夕食をすませたあと、①の大祭司カヤバの官邸横の石段を降りて④～⑤のケデロンの谷を歩き、写真右端の⑯にあるゲッセマネの庭園で夜間祈っていたところ、祭司長達の手下が来て、これらに捕らえられ、ふたたびケデロンの谷を歩いてカヤバの官邸の庭に連行され、翌日⑫のアントニオ要塞にいたローマ総督ピラトの所へ送られて、ここで死刑の判決を受けたあと、十字架をかつがされて（途中でクレネ人のシモンがかつく）ピア・ドロローサ（嘆きの道）を約500メートル歩き、⑩のゴルゴタの丘で処刑された、ということになる。





◀ 鶏鳴教会横のイエスが歩いた石段。

確かに以前よりも石の数がかなり減っている。柵といっても大ざっぱなものなので誰でも中へ入れるから盗掘は今後もつづくだろう。

一体にエルサレムやその他のイエス関係の遺跡のいずれも、やみくもにそれを覆うようにして教会が建てられている。ゴルゴタの丘跡に建立されている『聖墳墓教会』はその典型的なものだ。だからこの石段にしてもこれを教会の建物で覆い、『石段教会』とすれば良好な保存策になって、石泥棒もいなくなるだろう。

聖ヘレナの特異な能力

アラブ人街で美味しいアラブ料理の昼食をすませてから、午後はエルサレム南方一〇キロのベツレヘムへ行く。周知のごとく、ここはイエス誕生地として名高く、ここも誕生地の岩窟を覆って巨大な『聖降誕教会』というのが建てられている。日本ではイエスが馬小屋で生まれたというので、やたら木造の小屋を連想しがちだが、実際に母マリアと夫のヨセフが泊まったのは岩窟の旅館であった。当時は洞窟を家が

わりによく利用したらしい。

誕生の場所というのは教会内部の洞窟の部屋で、幼児イエスが産み落とされた位置は大理石板で覆われて見えないう。その位置を示す星型のマークが床に描かれているだけだ。少し奥に小部屋があり、そこに古い石造の飼葉桶がある。この中へイエスの体を寝かせたのだという。

ここが誕生の場所であることを発見したのは、三二三年にキリスト教を公認したローマのコンスタンティヌス大帝の母親ヘレナである。みずからもキリスト教徒となった大帝はここに教会を建立し、それを六世紀にユスティニアヌス帝が改築したものをさらに十字軍時代に修築した建造物が現存する教会である。

ヘレナは四世紀にエルサレムのゴルゴタの丘を訪れて、そこで十字架の破片を発見し、ここがイエス終焉の地であると断定して小バシリカを建てた。それが現在の聖墳墓教会に発展したのである。このためヘレナはローマカトリックにより列聖され、聖ヘレナとして不滅の名を残すことになった。

個人的推測だが、どうもこのヘレナという女性是一种の超能力者であり、宇宙的なカルマの強い人ではなかったかと思う。または別な惑星から転生してきたのかもしれない。とにかくキリスト教をこうまで巨大な宗教にした原動力になった人だが、この点が案外見

●エルサレム旧市街全景 (この写真は現地入手資料)

①鶏鳴教会 (大祭司カヤバの官邸跡) ②シルワン部落 ③最後の晩餐の部屋 ④聖母昇天教会 ⑤エル・アクサ・モスク ⑥神殿尖塔 ⑦ダビデの塔 ⑧西の壁 (嘆きの壁) ⑨ルーテル教会 ⑩聖墳墓教会 (ゴルゴタの丘跡) ⑪岩のドーム ⑫アントニオ要塞跡 (イエス死刑宣告の場所) ⑬~⑭ケデロンの谷 ⑮アブサロム記念碑 ⑯黄金の門 ⑰園の墓 (アリマタヤのヨセフの庭園跡と考えられている) ⑱ステパノの門 (ステパノが殉教した場所) ⑲万国民教会 (このそばにゲッセマネの庭園がある) ⑳ロックフェラー博物館





▶イエスの石段。かなり石が盗まれているのがわかる。

過ごされているような気がする。だいたい、ほとんど知られていないのだ。

この教会の地下には他にも多くの洞窟があり、四世紀末からヘブライ語の旧約聖書をラテン語に翻訳した名高いヒエロニムスの住んだ洞窟部屋も残っている。ローマの貴婦人だったパウラが彼を慕って来訪し、ここに住みながら翻訳に協力したが、先に病没したため、ヒエロニムスは彼女の遺骸を常に抱いて愛しつづけたというから、愛情の極致といへべきだろう。「骨まで愛して」という日本の流行歌はこのために作られたのだろうと榎原氏がユーモラスな説明をする。

夜は以前二度行ったことのあるナイトクラブの「ハン」へ全員で行く。か

つてここには約一〇カ国語で歌をうたって各国の観光団を喜ばせていたヤツファ・ヤルコーニという素晴らしい女性歌手がいたが、今は引退しており、代わりにダビッド・ドールという中年男の歌手が主役を演じている。主として英語とスペイン語が得意らしいが、ヤツファほどの力量はないようだ。特に日本語の歌をほとんど知らぬので日本人にピンとこない。演出者は中国と日本の音楽の区別がつかぬらしい。トルコのイスタンブールにも各国語で歌う有名な男女の歌手が活躍するキヤラバン・サライという忘れがたいナイトクラブがあった。

日本でもヤツファのような多国語で歌えたりしゃべったりできる歌手を養成して出演させたり、日本の民族音楽や民族舞踊をだしものにするナイトクラブか劇場を東京に作れば外人観光客に大受けするだろうと思うのだが――。

『嘆きの壁』の前の異様な光景

明ければ一五日、快晴下をバスで出発。まずイエス昇天教会へ行く。イエスの足跡と称する足型のついた石が残っている。次にオリブ山を降りて旧城内へ入り、「西の壁」へ行く。「嘆きの壁」ともいわれるこの遺跡はユダヤ人の心の故郷として名高い。

紀元前五九七年、新バビロニアのネブカドネザル二世に征服されて三回に渡って連行された四万五千のユダヤ人

は苦難の『バビロンの捕囚』後、バビロニアを征服したペルシア王キュロス二世によって開放され、紀元前五三七年、六〇年ぶりに帰還第一団が懐かしい故国ユダの地に帰った。こうして前五一五年、エルサレム神殿を再建した。これはソロモンの神殿に対して『第二神殿』と呼ばれている。これをヘロデ王が改修して壮大な建築物とした。

だが歴史は非情である。紀元七〇年、ローマのティトス將軍の大軍によりエルサレムは徹底的に破壊された。そのときに辛うじて残ったのが、この『嘆きの壁』で、第二神殿の一部であるとともにユダヤ人にとっては血肉の一部でもあった。

以来二〇〇〇年、世界に離散したユダヤ人は、一九四八年にイスラエル国を建国後も折にふれてはここを訪れて壁の前に立ち、昔日の栄光の奪還とメシアの来臨のために祈りつづけるのである。

彼らの祈り方は尋常ではない。古い巨石の壁に顔を押しつけながら身を震わせて泣く人もいる。だから別名『泣き壁』とも呼ばれている。黒い帽子に黒服、揉みあげを異様に長く伸ばした全身黒づくめの男達が、旧約聖書のモーゼ五書をブツブツ読みながら、コマツキバツタのように果てしもなく礼拝をくり返す。この凄まじい信仰を批判する気にはならない。現代地球人の習慣の想念もこれと大同小異であるから

だ。

一人の男が私に注意した。ここへ来る者は帽子をかぶらねばならぬと言う。急いでバツグから登山帽を出してかぶると、それならベストだと相手が笑う。ユダヤ人にとって『嘆きの壁』は我々の想像を絶する神聖な場所らしい。

広場では陸軍の一個分隊が旗を持って行進し、自動小銃を持つ兵隊達が分散している。多数の椅子を『壁』の前に並べている若い女兵に「なぜ椅子を並べるのか」と英語で質問すると「今夜ここで集会があるから」と答えた。

想像とかけ離れた ピア・ドロローサ

◀『嘆きの壁』をバックに。





次いでいよいよエルサレム最大のハイライト『ピア・ドロローサ』へ入る。これは『嘆きの道』とも言われる小道で、これこそイエスが十字架を担がされて歩いた歴史的な道なのだ。

まず『鞭打ちの教会』へ行く。ここと道路を隔てた向かい側のエツケ・ホモ教会は、イエスに死刑を宣告したローマ総督ピラトの官邸があったアントニオ要塞の存在していた所で、ここでイエスは死刑の判決を受けて、エツケ・ホモ教会の向かい側階段を上がった所にあるアル・オマリエ・スクールというアラブ人の小学校の校庭になっている位置から十字架を担いで出発した。そしてゴルゴタの丘まで約五〇〇メートルを歩かされた。

ただし現在のピア・ドロローサは当

時よりも約二メートル高くなっており、昔のままではない。エツケ・ホモ教会の地下にはアントニオ要塞当時の石畳が残っており、ローマ軍の兵隊がサイコロ遊びに用いた図版が石畳に彫り込んである。戦車を引いた馬のヒズメが滑らぬように、敷石に無数のスジを彫り込んだ跡も残っている。

映画『ベン・ハー』ではイエスの十字架の道が広い大通りになっているが、あれほどではなかったにしても、もっと広い道だったのだろう。現在は横幅がせいぜい三〜四メートルばかりの小道だ。

一同は拍子抜けしたらしい。これがあの劇的なピア・ドロローサなのか、と驚いたのだろう。もつといけないのは、この日に限って道の両側に並んでいるアラブ人の土産物店がすべて閉店していることだ。聞くところによると、イラクのクエイト侵攻を支援するハマスという宗教グループの煽動に同調してアラブ人達がストを打ったのだという。道は閑散として観光客の姿はほとんどない。普段はごった返して喧噪を極める場所だ。だからよけいに呆然となるのだろう。

だが、この方がスムーズに進行できてよかつたかもしれない。イエスが最初に倒れた位置、二度目に倒れた場所その他の記念すべき位置には表示がしてある。ペロニカがスカーフを差し出してイエスの顔の血と汗をふいたとい

う場所もある。

だが、これらは正確ではない。二メートルも高くなった地面の狭い道路は、けっして昔のままではないから、一四種類もある巡礼所はたぶん観光用に設けられたものだろう。

書物だけでは分からない

いよいよ私達は『聖墳墓教会』へ入った。これはゴルゴタの岩丘を削り取って建てられた巨大な建築物で、その起源は前述した聖ヘレナの小礼拝堂にある。ヘレナがここで見つけた十字架の破片はパチカンへ運ばれたというが、どこに秘蔵されているかは不明。

その初期の教会は六一四年、ササン朝ペルシア軍に破壊され、後に再建されたが一〇〇九年にエジプト軍により再度破壊された。一世紀中葉にはビザンティン皇帝コンスタンティヌス・モノマクスが再建し、一〇〇年後には十字軍によって大改築された。現存の大石造建築は当時のものである。

どだいエルサレムの歴史は建設と破壊の繰り返しであり、メチャメチャに歪められた都市であると言える。したがってエルサレムの歴史を本格的に研究するには、ここに多年住み着いて遺跡を丹念に調査する必要がある。日本の書物による勉強だけではどうにもならない。榊原氏によると、日本から来る神学者や牧師連中の実際の知識のなさには呆れるほかないという。イエ

スが生まれた馬小屋はどこに建っているのか」と聞いたりする牧師がいるらしい。だがこれを笑うわけにはゆかない。私も七年前、ここへ来るまでは何も知らなかったのだ。

真偽を見抜く超常能力の重要性

聖墳墓教会の入口からすぐ右にある急な石段を登ると、イエス最期の場所である十字架の跡がある。祭壇の前に十字架の柱を立てた跡という四〇センチ四方の四角な穴が岩にくり抜いてあり、その四角な穴は床でふさがれて、その位置に小さな丸い穴があけてある。

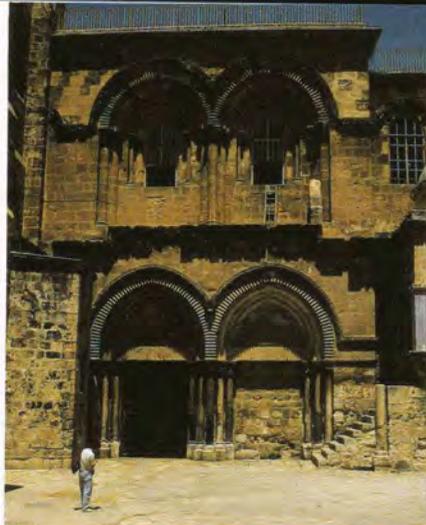
◀ピア・ドロローサ（嘆きの道）。右の黒いドアはペロニカがスカーフを差し出した場所とされている巡礼地第六留。



この主祭壇はギリシア正教会が管理している。正面には十字架にかかった巨大なイエスの像があり、ケバケバしい装飾品が薄暗い空間に吊り下がって息が詰まりそう。一体にこの教会は汚くて薄暗く、内部は複雑で迷路のようになっている。

「実はここは本当のゴルゴタの丘跡ではなく、別な場所にあるゴードンの丘がそうだ」という説がある。第一次大戦中にイギリスの軍人ゴードンが、ダマスカス門の北西にある鬮籠のような見える岩丘がそうだと言い出したのだ。そこへも数度行ってみたが本物だという印象は得られなかった。第一次エルサレム訪問の際に参加した遠藤昭則君も聖墳墓教会の主祭壇前の四角な穴を覗いたとき、青色のきれいなオーロラが見えたけれども、ゴードンの丘では何も感じなかったと言っていた。

◀聖墳墓教会入口。



考古学的、科学的に解明不可能な事象の真偽に関して、最後の決め手となる方法はテレパシクな感知力かオーラ透視等の超常能力である。これがいかに重要な力を発揮するかは、日常生活で応用しても分かるのだ。

だが現代人はこの力を失っている。本当は万人の内部に潜在しているのに気づかない。そして自分自身を盲目にしている。こうした不遜なことを考えながらイスラエルの旅をつづけたのだ。

ユダヤ民族の本質

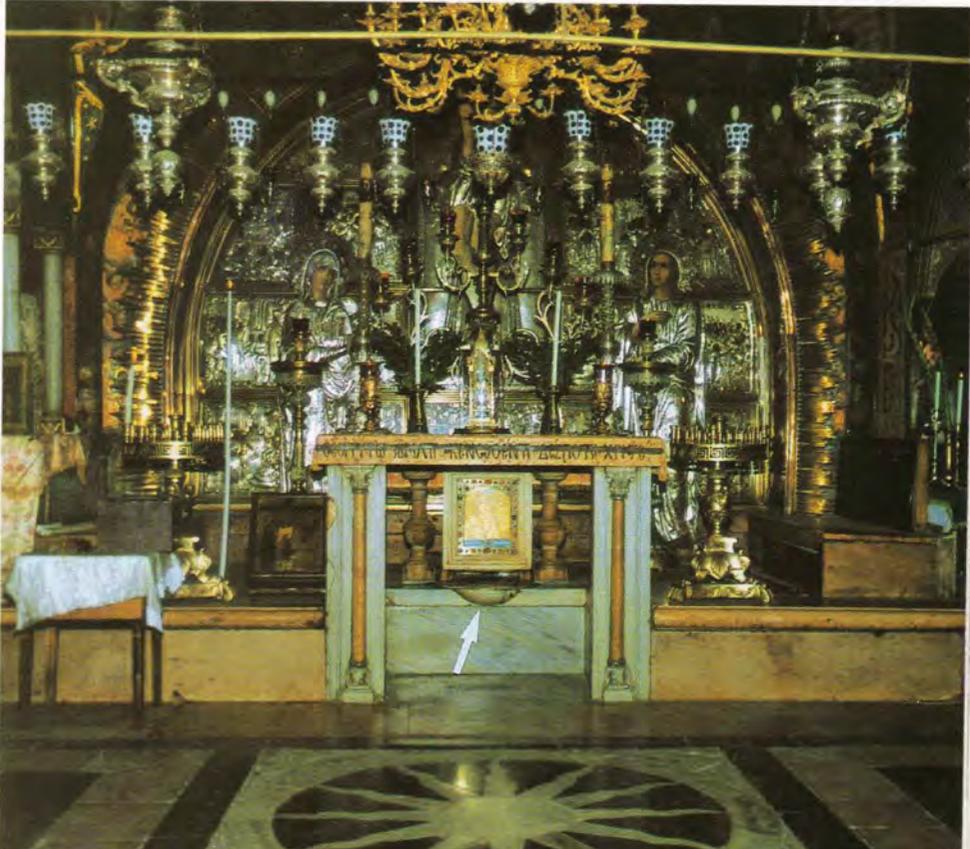
世界的傾向としてユダヤ人を守銭奴として蔑視する傾向がある。また世界を支配しようとする悪魔的人種であるかのごとく書き立てた本も多数出ている。

私の個人的見解だが、世界に特異なカルマを持つ民族が三つある。ドイツ民族、ユダヤ民族、日本民族である。この三民族が最も優秀な民族というのではなく、いわば特殊な宿命を持つ、良い意味において煮ても焼いても食えない民族という意味である。

ずっと以前、ゲルマン民族は火星から移動して来た民族だという話をアメリカで聞いたことがある。このことはアダムスキーが側近達に話したことなのかどうかは聞きもらなかった。ドイツ人が科学に強い点で首肯できる面もある。

●ゴルゴタの十字架の跡

中央の矢印の部分が十字架を立てた跡とされている。この丸い穴の中に岩をくり抜いた四角な穴がある。この場所は聖墳墓教会の主祭壇になっており、ギリシア正教会が管理している。



火星は宇宙船の生産拠点として科学の惑星であるからだ。

「日本人は土星人の子孫だ」というのは、むかしアダムスキーがニュージランドへ講演に行ったとき、地元グループのリーダーにそのように語ったことと、そのリーダーが私宛にそ

のことを知らせてくれた。

ユダヤ人はいかなる惑星と関係があるか。これについてはまだ知識を持たない。私としては或る惑星が浮かんでくるのだが、ここでの断言は控えよう。しかし守銭奴というのは誤解にすぎない。彼らはローマ軍にやられて世界中

に離散して以来、無抵抗主義者となり、敵に襲撃されると逃走するだけだった。そのための資金として金を蓄える習性が身についたので。それも一家族の全員が各自の持ち金を屋内の別々な場所に隠すことを常とした。そうすれば一人の金が奪われても、他の者達の金で逃げられる、という知恵を働かせたのである。

しかしそれよりも看過できないのは旧約聖書に展開するあの深遠雄大な叙述と厳格きわまりない戒律を守り抜こうとした四千年の民族自決精神である。しかも輩出した偉大な預言者達と古代の不思議な現象の数々。これらを手細に検討すればスペース・シリアルとの関連性が強くなるのだ。

「主は彼らの前に行かれ、昼は雲の柱をもつて彼らを導き、夜は火の柱をもつて彼らを照らし、昼も夜も彼らを進み行かせられた」(出エジプト記一三・二一)というのとは別な惑星から来た大宇宙船ではなかったか！

モーゼが頻りに会って指導を受けた『主』とはスペース・シリアルで、モーゼ自体がコンタクティであったことを意味するのではないか！

エゼキエルが遭遇した不思議な物体が別な惑星のスカウトシップであったことはアダムスキも指摘しているし、このことを研究した米科学者もいる。ともあれ古代ユダヤ民族の超絶した民族性がきわめて宇宙的であったこと

を旧約は示しているのである。この民族の祖先は別な惑星から来たに違いない。

このあと旅行は予定どおりに進行。一六日にはエルサレムをバスで出て南下し、まず死海沿岸のマツツアダの遺跡ヘローブウエイで登る。ここは標高四〇〇メートルの大岩山で、西暦七〇〇年、ローマ軍に襲撃されたユダヤ人のうち、最後の九六七人がここに二年間籠城、七人の女子供を残して全員壮烈な自決をとげた場所。

次いで死海に面したエンゲデイ海岸で海水浴。午後は一万年昔の都市跡を残すイエリコの遺跡を見学。摂氏四一度あり猛烈に暑い。そのあと死海文書の出土で名高いクムランへ行く。

翌日はガリラヤ湖を遊覧船で渡り、カペナウムの遺跡、山上の垂訓教会その他を見学。

一八日は新約に出てくるカナの村に入り、ナザレを散策、カイザリアの遺跡を経て、テルアビブ空港からローマへ引き返す。

翌一九日はバチカンのサンピエトロ大寺院その他の名高い遺跡を観光。午後はポンペイの遺跡を視察。二千年前の壁画を見て人間の不変性を感じる。次に予定を変更、世界三大美湾の一つ、ナポリ湾を高台より眺望し、ソレントに宿泊。この夜UFOを見る。翌日、小型船でカプリ島へ向かい、

『青の洞窟』へ行く。海上で遊覧船から小ボートに三、四人ずつ乗り移り、高さ約一メートルの小さな洞穴から、打ち寄せる波が低くなった瞬間を見計らって全員が岩で頭を打たないように仰向けになりながら突入をする。船頭のオール捌きは名人芸だ。

広い洞窟内にはこの世のものとも思えぬ青緑色の海水が溢れ、幻想的な世界が展開して驚嘆！ 小さな入口から入る光線による効果だという。だから入口を拡張しないのだろう。

そのあとカプリ島に上陸し、山上高所の町で散策。沢山の各国観光客でこつた返している。バスで下山の途中、休憩してカプリ島を眺望、美しい光景に一同感嘆の声を放つ。だが、この程度の島は日本にもざらにある。ここで感じる風景の美は、実は密集する白壁の民家が美しいのであって、それに感心しているにすぎない、ということに皆さん気づいたかどうか。

こうして再度ローマへ帰り、一泊後アリタリア機で全員無事に帰国したのは二二日の午後だった。

私達の旅の半分はUFO観測の旅であって、目撃している仲間は少なくない。私も二度見たが、もつと多く見ている人もあるし、伊東芳和氏は8ミリビデオカメラで四度も撮影している。私達の旅行団がスペース・シリアルの注目の的になっていることは間違いない。そのせいか毎年の旅行で事故が全く起



▶サンピエトロ大寺院にて。

こらない。これは添乗の田中氏も毎回不思議がっていることである。来夏八月にもアメリカ西部東部とメキシコの旅を実施するので多数参加されたい。大いなる視野が開けるだろう。

実際、旅ほどに人間の目を開かせるものはない。「可愛い子には旅をさせよ」という諺がある。親の庇護のもとに狭い穴蔵に閉じ込めていたのでは人間が大きくならないという意味だろう。GAPの海外旅行に初めて参加してから人間がガラッと変わった人も少なくない。旅ほどに大いなる学習はないと多くの先哲賢人が言っている。これらうんと生かしたいものである。

UFO 目撃旅行

一九九〇年度日本GAP海外研修旅行はまさにUFO目撃旅行であった。以下は同行者の体験の数々。

波動感受旅行

☆郡司典子

まるでスペースブラザーズからすめられたかのようにエルサレムへ行きました。旅立ちを決めて以来、出発するまでの一ヵ月ほどの間に三度UFOに会いました。この回数は私にとって画期的です。今回の旅は内的必然の旅であり、自分がどこから来たのかを見極めるための旅でした。このような時を人生で持てることは夢にも思わなかったことです。日常生活から離れた所で自分の内部を見つめ、かつ、土地の良い波動が体にしみわたったのです。このために私自身の宇宙の意識とセンスマインドの距離が縮まったと思っています。

デリーからローマへの深夜の飛行機で、窓際の席の私は夜空を眺めていました。流れ星がいくつも流れていましたが、ふと、右前方主翼のすぐ上の所

に赤く光る物を見つけUFOと直感し、隣の氏家さんに声をかけました。彼女が見たときには強く光ったそうです。

それからは席を譲り合いながら約一時間間に多くのメンバーが順次に見ました。私が元の席に戻ったときには光体は横に二つに分かれ、左側の部分がチカチカと点滅していました。

突然、機体が気流の影響でガクンとなつてしまいました。次の瞬間、また元の位置にきてくれました。そして機内の明かりがつく前に姿を消しました。

次はイエリコの遺跡でガイドの榎原氏のお話をベンチで聞いていましたとき、平原の向こうの山の麓に強く光る光体を見つけました。それはジグザグの軌跡を描いて動きました。スピードが大変速かったので自動車ではないと思います。最後の方は久保田先生にも見て頂きました。

ティベリアスでの最初の夜、ふらりと入った店で美人の若い女性二人に声をかけられました。キプツ（イスラエルにおける農業その他の協同生産体）に来ていたイギリスとアメリカの方で、UFOに興味を持ち、GAPシールのWITH COSMIC CONSCIOUSNESS

（宇宙の意識と共に）という文字に感激してくれました。「NASAが真相を隠しているのです」と言う、「そう言う事は考えられません」と言っていました。

写真が出来ましたら英文版ユーコンを送るつもりです。

次の日の午後、ホテルのプールで休んでいますと急に胸がドキドキして強いフィーリングを感じましたので、立ち上がってガリラヤ湖の上空を眺めましたが何も見えません。これはきっと今夜何かが起こる前兆なのだと思います。

その夜、皆で先生を囲んでお話を伺った後、伊東氏から「郡司さん、あれ、何かな」と声をかけられ、慌てて窓から見ると、左手の中空に赤い光体が止まっていました。「UFOよ！」と叫びました。強いフィーリングのために鳥肌が立つのです。

外に出てしばらく眺めていました。二〇分以上はいたと思います。位置がかなり動いたそうです。

その後、皆でベランダのような屋上で懸命に別のUFOを捜しましたが、はつきりしたものは見えません。最後に四人で円を組んでテレパシーで呼びかけを行ないました。

ふと目をあげて上空を見ますと、影のように薄い、オレンジ色のさや豆の形をしたものがサツと天頂を横切りました。窓のような物も見えましたが、これは加藤君と二人で見ました。私の知る限りでは加藤君が最もUFOを数多く見たと思います。

この旅行は私にとって過去世を感知出来たのが最大の収穫でした。この浄

化された状態を維持したいと思っております。

ビデオカメラで撮影したUFO

☆伊東芳和

私の中で「エルサレム」という都市名を意識するようになったのはここ二三年だろうか。今回の旅行も愛機三台（ビデオカメラ一台、三五ミリカメラ二台）をバッグに収め、期待と喜びを胸にエルサレムの地に降り立った。

ベングリオン国際空港からバスで行く途中、お世辞にも肥沃とは言えない台地に懸命に植林を施し、開拓したりして国を守り、発展させているイスラエル国民の努力には思わず敬意と感嘆の念が起こるのを禁じえなかった。

観光の初日は我らのセブン・アーチズ・ホテルのあるオリブ山から始まった。その山麓にあるゲッセマネ庭園の中には直径一メートルはあるオリブの巨木が何本かある。これらの樹齢は二千年とも言われているので、そうだとすればイエスの行動を見届けた数少ない「語り部」ではないだろうか。その横にある万国民教会に保存されているイエス苦悶の岩がある。これらを見ると聖書の世界が昨日のこのような現実感で迫ってくる。

次に鶏鳴教会に向かう。ここには傾斜地から発掘された二〇〇〇年前の石段がある。今は柵で囲まれているが、

幸い中へ入れたので、「全員でこの石段を登る場面をビデオに撮ろう」という先生の提案によって私はビデオカメラをセツトした。

翌日は旧市内見学で聖墳墓教会その他を見る。イエス最後の場所なのに、なぜかこれというほどのフィーリングを感じない。そういうわけで私はエルサレムではシオン山とオリブ山に親しみを感じた。

私は一体に自然に向き合うのが好きだが、ガリラヤ湖もその例にもれず、翌日は朝早く起きて湖畔で静かに腰をおろした。ここで先生にお願いして上空にテレパシーコールを行なう。山上の垂訓教会のテラスに全員集まり、雲一つない青空に想念放射をした。

しかしUFOは出現しない。先生の話だと、この辺りはイスラエルの戦闘機が飛ぶので出にくいのだらうという。そういえばイラクのクエート侵攻事件で極度の警戒態勢に入っているのだらう。

その夜は体調の良くない先生にお願いしてホテルの一室でユダヤ人の歴史と宇宙問題について講義をお願いした。先生の講義が終わってから有志で昼のテレパシーコールを継続した。窓からの黒い夜空を見上げると、西の方向の山並みがある場所から約五度上あたり輝いている物体があった。数名の方はUFOではないかと言っていたが、点滅する様子はUFOのようであり、ま

た大気に揺らぐ星のようでもある。

その「星」が沈む少し前に、その山並みのやや上あたりとおぼしき所を水平に横切ることになり速い光体を二度目撃する。車のヘッドライトにも見られるが、尾根筋に道路があるだろうか。

このように私が目撃する場合は、はっきり肯定できるような状況では出現してくれない。だからつい否定の材料を考え、それから消去法で少しずつ否定しながら絞ってゆく。しかし夜間の光体については断定するのが難しいことが多い。このようなことはその後二度あった。

次の体験はイタリアのソレントのホテルで目撃したものである。部屋からベランダに出たとき、UFO観測にピタリの場合なので、今日は現れるかもしれないと感じた。それで夕食後の民族舞踊の見学をキャンセルして頂き、夕食後はテラスに出た。ここには池田氏もいた。

最初の出現は一〇時半頃である。天頂からやや西の方向にそれた位置でまず目撃した。それは四〜五個のオレンジ色の光体が進行方向に一列に並んで、そのうちの真ん中の光体がひときわ大きく点滅していた。

見た瞬間、飛行機が円盤の母船のどちらかだろうと思ったが、高度が低そうなので母船にしては低空すぎると感じた。しかし飛行機なら翼があるので横の点滅もあってしかるべきだが、そ

れは全然なかった。

この光体は私より先に池田氏が見ていたが、飛行機と思ったので話しかけなかったとのこと。また彼は点滅していた光体の両脇で弱く光っていた残りの光が見えなかったとも言った。つまり一つの光体しか見ていないのである。

私は眼鏡をかけてもせいぜい〇・八がやっとというのに、これは何を物語っているのだろう。この光体はほぼ一直線に西の方向に消えている。これを反対方向に伸ばすと東の方から現れてきたことになる。北東の方に座っている私はついぞそれに気づかなかつた。本当に東の方向から現れたのだろうか。飛行機なら突然に現れることはないのだが――。

その夜は先程の光体を含めて合計四個現れている。この四つに共通していることがある。それは①いずれも飛行機のような直線的な飛び方。②速度はややゆったりとした感じ。③少なくともジェット機ではない。④点滅の状態はつきり見分けられる事を勘案すると、あまり高空を飛んでいない。⑤音が全然聞こえない。⑥出現時間は一回目のが一五〜二〇秒ぐらいいで、他は三〇〜四五秒ぐらいい。

二度目は一時一分五秒ぐらいい。この時は戸塚、東向氏も同席していた。次に出た光体は最初とは反対に西の方向に現れ、東に向かい、山の向こうに消えている。この光体の特徴は二個

が横に並び、左の光のみが点滅し、しかも若干左とフラフラしながら移動していた。この状態は戸塚氏も確認している。

次に一時三〇分頃にまた現れた。方向は二度目と全く同じである。この光体の特徴は横に三個の光体が並んで

▲八月一六日朝八時五〇分、エルサレムから死海に向かうバスが幹線道路に入って左折したときにUFOが出現したのを8ミリビデオで撮った画面の一部。

撮影／伊東芳和





● 陽光にきらめくガリラヤ湖

● エルサレムの夕日 (撮影/2点共久保田八郎 ニコンFE2・ズームニッコール28~50mm・フジクローム100D)



探求する人にはその秘密を漏らす」のだと確信する。

GAPなぶひの 一体感

☆加藤純一

今回の旅行は「初めての海外」ということもあり、不慣れな面が多く、皆さんに迷惑をおかけしないかと心配しておりましたが、幸いにも大きなトラブルがなかったので胸をなでおろしています（一度、先生の三脚を死海写真館に置き忘れて大慌てしましたが）。

旅行中は皆さんと次第に兄弟姉妹のように溶け込むことができて、「これがGAPならではの一体感か！」と一人であらずいていました。

またたびたびUFOの出現がありましたね。先生や会員の方達と旅先で力強いことだと思いました。ですからあの強烈な日差しのなかでも僕はへつちやらでした。そして今回の旅行団のメンバーは皆自分なりの「何か」を見つめるために参加しているのだらうという印象を強くうけました。僕自身も絶えず内部の印象を感じ取るように心を静めたり問いかけたりして、とにかく楽しいフィーリングを保ちながら旅をつづけるように努力していました。

旅を終えて思うところは沢山ありますが、念願かなってイエスの偉業を二〇〇〇年たった今、この小さいな僕が少しでも触れることが出来まして本当

に良い経験させて頂いたと思っております。

僕が二〇歳にしてつかみ取った大きな夢はイメージしたとおりで……いやそれ以上に細かくメロディー、温暖、優しさまでも伴って僕の中に入りこみ、またそれを広げてくれました。

先生がガラリヤ湖での質疑応答のときにおっしゃった「とにかくテレビジョンにならねばいけない」という言葉が今でも忘れられません。

エルサレムの風景が目焼きついて離れません。そして坂の多い街を先生や皆さんとともに歩き、笑ったことも忘れません。死海の日光、夜空が美しいガラリヤ湖畔の波の音、カラッと揚げたセント・ピーターズ・フィッシュ、ガイドのバラさん、カンツォーネを聴きながら手を叩き、身を乗り出したこと、カリブ島の海の青さ等々、今でも見えてくるようです。今回のこの経験が今後の僕の人生で強力に役立つことを確信します。そしてソレントで先生ほか数名の方と目撃したときのUFOのように力強く光り輝いてゆきたいと思えます。

空中から見守られていたか？

☆田中 淳

意識し始めたのはいつ頃だったろうか？ あの地を――。

この夏、そんなあの地にゆくことが

実現した。

太い首をながくして待った出発の日まで、その日が無事に来ることを妙に意識し、事故にあわないよう安全運転したり、夜中に聖書をおもいつきり探したり、ふつと気がつく顔がニタニタしていたり、何回も無意味にカレンダーの日にちを確認したり――。

あんなにあつた処理待ちの仕事が不思議とスムーズに片付き、スケジュールの調整も楽に出来た。そしてなぜか台風一過の晴天の日が発発の日だった。そんなこんなをやつとの離陸。あの地へ向かつて。そう、あの地とは「イスラエル」。

香港、デリー、ローマ経由の三〇時間。イスラエルはテルアビブのベングリオン空港に第一歩を踏んだ。ついにやって来た！

中近東らしい日差しの強い太陽、ベントのタクシー、ボルボのバス、たくましい女性運転手、地中海性気候の気持ちの良い空気。七時間の時差なんか全然感じない。ただしヒゲはぼうぼう。

エルサレムに似合うものは太陽だと思ふ。それも夕陽が一番。エルサレムほど夕陽の似合う街の風景はないだろう。エルサレムの朝日も悪くはない。またすべての水分を吸いつくそうとする昼間の日差しも印象深い。

エルサレムほど人類の意識、関心を釘付けにしている街はないだろう。懐かしく感じられる町並み。中東危機の

ことなどまるで眼中にないかのような平静な人々。エルサレムで骨を埋めたというバラさん（榊原さん）の熱意溢れる説明。ジーンときたゲッセマネの庭園。山上の垂訓教会での一行のリラックしたひととき。イエスが数々の奇跡を起こしたガラリヤ湖。気になるマダガラ。世界最古の町イエリコ。イエスの故郷ナザレ。あの有名なカラシ種の木も発見――。イスラエルの思いは語り尽くせない。

イタリアのソレントでの夜も忘れられない。夕食後のホテルでベランダでのひととき、点滅する光体を目撃。それは飛行機とは思えない飛び方、光り方をしており、光体の輝きは意識的なものを感じさせるように思えた。

この旅では空の高いところから常に見守られているような、暖かくまとわりついたものを感じたように思う。空からの祝福？ やっぱりGAPは空から意識され見守られているのだろうか。この旅行、今までの人生のほんのひと息の句読点。振り返れば長く打つことが出来なかった句読点。今度はいつ打てるか分からないが、頑張つて人生の筆を進めてみようと思う。



日本GAP
企画第13回
海外研修旅行

アメリカ西部・東部・メキシコ宇宙ロードの旅

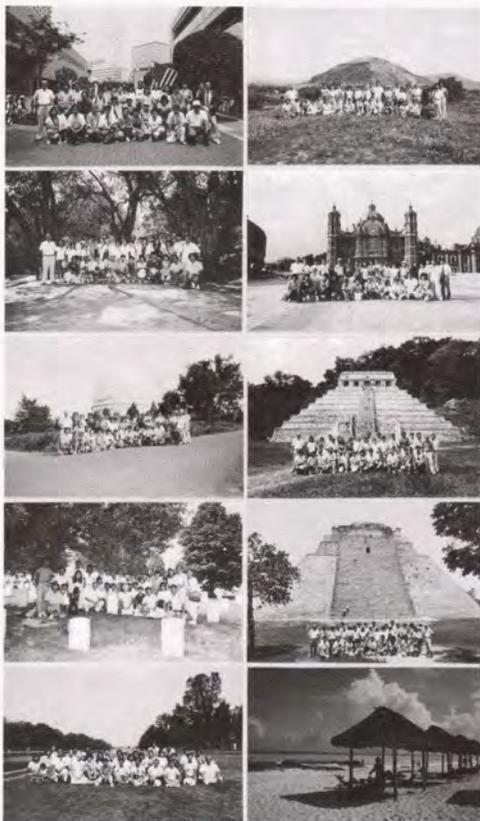
アダムスキー生誕100年記念
日本GAP創立30周年記念

歓喜と感動の日々 アダムスキーの大地！ ムー大陸の光を放つ古代マヤの遺跡！

1991年
8月7日水→18日日
12日間
¥598,000

宇宙的な波動と光芒を放つアダムスキーの故郷とメキシコ・マヤの遺跡！家族的雰囲気満ちた日本GAPの素晴らしい旅！アメリカではダニエル・ロス夫妻、ロサンゼルス在住会員・芦田殉子さん、ニューヨーク在住会員・テイビッドウィッツ邦子さんが合流する予定。

さあ、行こう、肩を組んで、宇宙ロードを、誓いの友よ！



▲左側上から、ロサンゼルス市内/アダムスキーの住居跡パロマーガーデンズ/パロマー天文台/ワシントン市アーリントン墓地のアダムスキーの墓を囲んで/同市のワシントン記念碑をバックに。右側上から、メキシコ・テオティワカンの大ピラミッド/メキシコ市内のグアダルupes寺院/バレンケ・マヤ遺跡の「神の神殿ピラミッド」/ウシュマル・マヤ遺跡の「魔法使いのピラミッド」/夢見るようなエメラルドグリーンのカリブ海とアクマルの浜。

(以上すべて1987年度第2次「アメリカ西部東部・メキシコの旅」で撮影)

~~~~~日程概要~~~~~

1991年8月7日水成田発、同日ロサンゼルス着後市内観光、8日デザートセンターへ。9日パロマー登山、ア氏住居跡と大天文台見学、10日メキシコ・テオティワカンの大ピラミッドと市内観光。11日バレンケ遺跡見学。12日ウシュマル遺跡視察。13日カリブ海岸アクマルで海水浴。14日カンクン経由でニューヨーク入り。15日ニューヨーク市内観光。16日ワシントン市内観光、アーリントン墓地のア氏の墓参り。17日ワシントン発、18日(日)成田着。

詳細案内書は下記へハガキでお申し込み下さい。
(非会員でも参加できます)

ワールドセブントラベル株式会社

〒150 東京都渋谷区東3-24-9

サンイーストビル2F

担当：田中 正 ☎03-499-2461

※夜間は田中自宅

☎0474-77-4728へ。(夜10時以後受付)

●正式参加申し込みメ切り

1991年7月20日

●旅行説明会

第1回目：1991年5月12日 (会場等詳細は)
第2回目：1991年7月28日 (次号に掲載)

企画：日本GAP

主催：株式会社日本旅行 (運輸大臣登録一般旅行業第2号)

取り扱い旅行代理店：ワールドセブントラベル株式会社 (運輸大臣登録旅行業代理店業第1957号)

※参加費用・日程等には若干の変動があることをお含みおき下さい。

A Huge Mothership-type UFO Appears over Nagano-prefecture
by Masamichi Murata

長野県に出現した 巨大母船型UFO

村田正道

前広場。
目撃者

手塚菊夫氏(六三歳、役場職員)。筆者の旧知の人で、とても実直な人物。豊科町在住。

天気

快晴。雲一つなし。

目撃時の状態

梓橋駅に午後七時三十分着の息子さんの帰りを駅前で家用車の運転席に座って待っていた。電車までの距離は約二〇メートル。したがって時間と目撃物体の比較の対象となる電車の大きさは正確に把握できた。

出現の状態

車の運転席に乗り、息子さんを待っている。ウインドウのステッカーの近くに、ステッカーよりも小さな火の玉が、竜が踊るように左回りに一回転して雲から飛び出してきた。一瞬、頭がおかしくなったと思った。

物体の特徴

水蒸気みたいな物と一緒に来た。楕円形の物が白い物を押して来るような状態だった。それはみるみる大きくなり、約四秒ぐらしかけて間近に迫って来た。とてつもなく大きい。先端は球状になって丸く、長さは電車一両よりも確実に長く、先端の球状の厚みは電車の高さよりも大きい。視界にとらえきれないので、ありつただけ覚えておこうと思ひ、先端部付近を注視した。そこは白く光っていた。黒いスジが

あるのではないかと思われるほど輪郭がはつきりしていた。物体の中は薄い緑色だった。突起物はなかった。窓はない(というよりは、分からなかった)。無音だが、凄まじい勢いだった。手塚氏の奥さんもそのとき車の後部座席に乗っていて目撃した。奥さんも「凄かったねえ。早かったねえ」と直後に手塚氏に言った。

出現から約四秒後、物体は駅前の銀杏の老木の向こう側に隠れて見えなくなった。手塚氏の話によれば、奈川渡ダムの上空から常念岳にかけて約二五キロメートル(直線距離)を四秒で飛んだのではないかと言う。帰宅後テレビ局に次々と電話したが、そのような話はないと言われた。

息子さんが夕方七時過ぎに帰宅することは一年に一、二回あるかないかの程度で、そのような時に出現したのは不思議であり、今考えても凄まじい光景であったと手塚氏は語る。

他の目撃者

現場で手塚氏の車の後ろに軽ワゴン車に乗って駐車していた女性の方(三五〜四〇歳位)も物体を見て驚いたと言っていた。他に松本市のすき川堤防から目撃したO氏。地方紙記事に出た学生(複数)等がある。

*

日本GAP長野支部代表・博田文喜氏から編集宛の書簡によれば、氏も手塚氏に会って詳細を聴取し、ここに掲

載した写真の中に物体のイラストを描いてもらった。手塚氏の話では六月の長野支部大会の雰囲気非常に素晴らしくて気に入ったからGAPに入会したいと言ったという。(編者注)今年七月に入会された)

◀写真は左から村田正道、目撃者の手塚菊夫、榎原心一各氏。いずれも日本GAP会員。

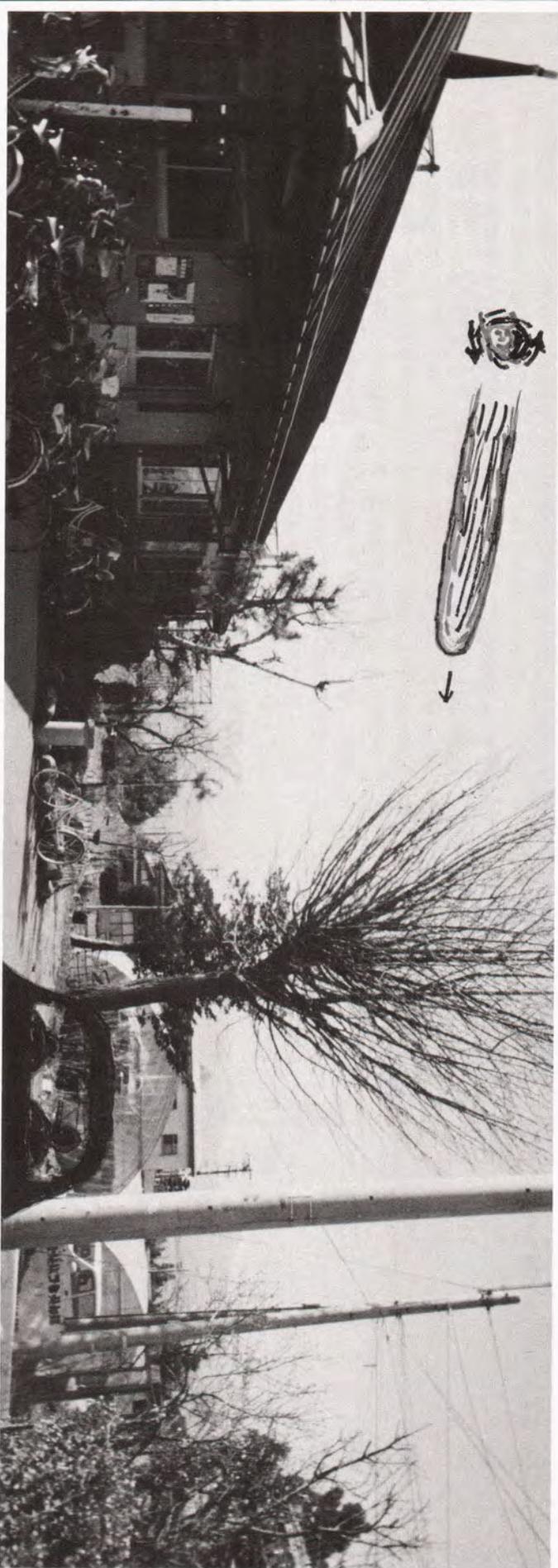


目撃年月日

平成二年二月一三日、午後七時三十分二〇秒〜三〇秒。

場所

長野県南安曇郡豊科町大糸線梓橋駅



▲梓橋駅前に出現した巨大UFO。手塚氏が写真中に描いたもの。右下の自動車も目撃した位置に描いた。撮影／博田文雄



A Beautiful Saucer Flies Near Mt. Akagi
by Hiroji Banba

美しいUFOが赤城山付近を飛ぶ 番場博次

八月に新潟市で新潟支部主催のUFO写真展が開催されて大盛況を呈したが、その報道記事を見た群馬県勢多郡富士見村に住む一老人が星・新潟支部代表に素晴らしいUFO目撃体験記を寄せてきた。以下はその内容。イラストは目撃者・番場氏による。物体はアダムスキー型円盤に似ていたと思われる。

私は赤城山の麓に住む者ですが、昨年八月十九日(土)の朝早く目覚め、時計を見ると四時でしたので、毎日の早朝散歩には早すぎると思い、しばらくして出発しました。時計を見ると四時二〇分でした。

愛犬ジョンをつれて早朝の夏の大気を感じる存分に吸い込みましたが、まことに気分がよい晴れた日でした。

今日はいつもより早いので遠くへ行こうと思い、当村の富士見中学方面を目指して歩きました。そこへ着くとグラウンドで若者が早朝のキャッチボールをしておりました。

しばらくそれを見てから上に登り、群馬用水堀に出ました。用水堀の土手を川下に沿って歩くと小さな橋があり

ました。

愛犬ジョンが橋の欄干で用を足しておりますと、後方に何か気にかかるような「気配」がするので、その方を見ると、図のようなUFOらしい物体が空中に浮いておられます。私の所から何メートルあるか知りませんが、オレンジ色に綺麗に輝いて見えました。

これは一体なんだろうか! はつきり見ておかなくてはと思い、しばらくジッと見ておりました。彼らももし宇宙人なら私と犬を見ているのではないかと思ひ、多少気味悪かったのですが、最後まで見届けるつもりで見えますと、物体は少し横に「ローリング」したと思うと、直線に西方向の榛名山に向かって飛んで行きました。

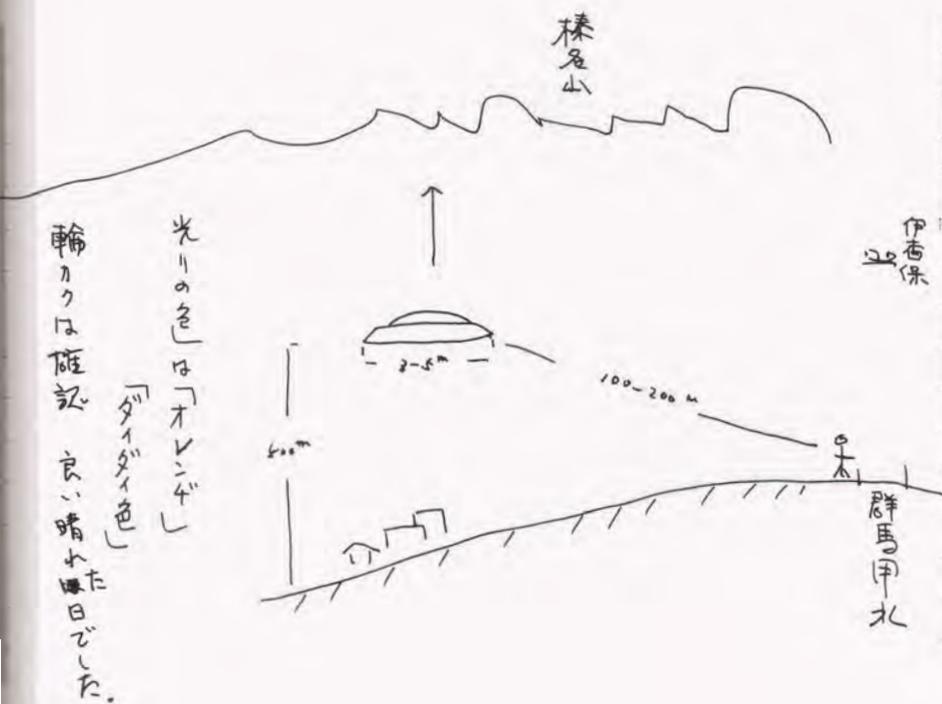
山の懐に入る頃、豆粒のようになり、白く見えました。この場所は前方下に前橋市、右側が榛名山、後ろは赤城山、前の方面が妙義山で、いわゆる上毛三山の見える視界の広い丘であります。しばらくの間、ズーツと物体を目で追いかけておりました。

早速下の道路際の消防署に「見たか」と問い合わせをしましたが「N.O.」!。すぐ家へ帰り着くと六時一五分前でした。

た。早速前橋NHKに電話するも、これも「N.O.」の返事。友人、知人に話をすれど、あまりよい応答なし。なかには「お前、歳のせいであろうかしたのではないか」とか、「酒の飲みすぎではないか」と言われますので、独りでクサッていたのです。

新聞によれば新潟市内のデパートでUFO写真を展示された事のようにすが、差し支えなければ見せて頂きたいと思ひ、この手紙を出した次第です。友人、知人に本当のことを理解させたいと思ひますので一筆書きました。

(イラストは筆者による)



松本市にもフットボール型UFO

茶谷 健一

一方、長野県松本市でもUFOが出現したのを父で目撃するという事件があった。しかも息子さんは熱意あるGAP会員。長野県方面の多発的なUFO目撃事件は何を意味するのか。

今年五月六日(日)、午前九時五五分から一〇時〇五分までの一〇分間、松本市芳野の県営住宅三階の自宅で朝食中、なにげなく南に面した窓の外を見た父(三郎)は、ほぼ真上の空に光る物体を発見した。父は急いで窓をあけ、そばにあった双眼鏡で物体をUFOと確認し、横にいた私をすぐ呼んだので、二人で目撃した。

UFOはフットボール型で音はなく、船体は灰色をしており、船体周囲は銀色の光に輝き、不規則に点滅し、船体を右にゆっくり回転させながら、ゆっくり飛行していた。

約三分間でUFOは真上に位置したため、自宅の屋根に隠れてしまい、見えなくなつた。父と私はあわてて北に面した窓をあけ、「UFOはどこ?」と探したところ、UFOの銀色の輝きが少し大きくなつたので、父と私はふたたび約五分間UFOを目撃した。

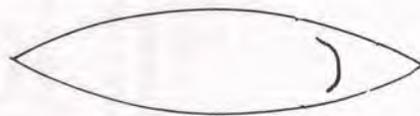
私はUFOを見ながら声には出さず、「UFOであることをもつとはつきり確認させて下さい。お願いします」とテレパシーでとれたところ、突然、UFOが空中で停止し、銀色の光りをさらに大きく輝かせて、不規則に点滅してくれたのである!

その状態が約二分間つづいて、その後空中停止した状態で突然UFOは消滅した。

以上を要約すると、物体の個数は一個。形状はフットボール型。船体の色は灰色。船体周囲は銀色に光っていた。音は全然なし。物体の運動は右にゆっくりと回転。進行方向は南から北西へ。発見した当初の仰角は大体に七〇度。

双眼鏡で見た船体の見かけ上の大きさは約二・五センチ。目撃継続時間は一分間。天候は快晴。雲量は〇パーセント。観測方法は肉眼と双眼鏡(二×五〇)(编者注||倍率一二倍で対物レンズの口径が五〇ミリという意味)。写真撮影なし。目撃者二名。なお、船体が右回転するたびに突起した部分を父だけが確認した。二名ともUFOの目撃はこれが最初。(筆者はフリーアルバイター)

船体の特徴



船体が右回転するたびに突起した部分を確認(父だけ目撃)

双眼鏡で見た船体の大きさは 約 2.5 cm

An Adamski-type Scout Ship Witnessed in Hokkaido!
by Kenichi Horie

北海道に現れたアダムスキー型円盤 堀江健一

日本GAP会員・堀江健一氏(千葉
県茂原市在住)が素晴らしい情報を入
手した。氏が勤務する会社(日立デバ
イスエンジニアリング)の同僚のお姉
さんと、北海道岩見沢市に住む阿部裕
美さんという二五歳の中学校に勤めて
いる女性が、まだ中学生だった一〇年
前の昭和五年の秋のある日の夕暮れ
どき、学校から帰る途中、友人三人と
アダムスキー型円盤を目撃しているこ
とを知り、ただちに目撃者から電話で
詳細を聴取した。以下は対談の内容。

——裕美さんは学校にお勤めなのです
か。
「ええ、そうです」

——事務関係ですか。
「はい」

——来年に結婚されるそうですね。
「ええ、まだはつきり決まったわけでは
ないんですが」

——あのUFOはいつ頃に見られたの
ですか。
「中学の時ですから、今から一〇年前
のときです」

——日時とか季節などは？

「秋のある日の学校からの帰りです
から、時間は三時半か四時頃だったで
しよか……夕暮れなんです」
——下校途中ですか。
「はい、学校から帰る途中で、友達と三
人で歩いていました。結構見晴らし
のいい道路なんですけど、東の方に山
があるんです。低い山で、スキー場
になっているんですけど、その上の方
に月が出ていまして、満月に近いよう
な……。まだ明るいですけど。それ
で友達が『わあ、お月さまが二つで
いる』と言うんです」

——そんなに大きなものだったのです
か。
「ええ、一緒にいた友達が『お月さま
が二つ出ているんじゃない』と言うので
すが、その友達は目が悪かったもので
すから、私が見たんです。そうしたら、
昔から有名なUFOの形……」

——あなたが描いた図を妹さんから見
せてもらったんですが、かなりはつき
りしたものであったようですね。
「なんていうか、半球というか、足みた
いなものが三つか四つぐら底につい
ていて、その上が帽子みたいな形のU

F Oで、窓があって、ひさしみたいな
所の上が一列窓で、それがぐるぐる
と回っているんです。その部分だけが」
——下が回っていたんですか。
「下ではなくて、底には足がありますよ
ね。その上が少し広く帽子のつばみた
いになっていて、その上が丸くなつて
いるんですが、その帽子のつばみたい
になっているところのすぐ上に窓が並
んでいて、その窓の部分がぐるぐる
と回ります。そして、はつきりとU F
Oであることが判ったので、三人で立
ち止まって見ていたんです。そうし
たら結構ゆつくりとぐるーつと回転し
ながら消えたとすよ」
——それは、大変はつきりと見ていま
すね。そのスカート状になった部分の
上にドームみたいなものがあつたの
ですか。
「はい、そうです。斜めになって回転し
ていたのでよく見えたんです」
——斜めという底の部分をごちら側
に見せていたのですか。
「最初は底の部分が見えていたんです
が、それがぐるーつとカーブして、カ
ーブしながら消えていったという感じ
で……」
——山の近くというところ、その山の名前
は判りますか。
「さあ、それは……」
——スキー場は何という名前ですか。
「当時はばんけいスキー場という名前
だったんですが、今はグリーンランド

という名前に変わっています。遊園地
とかも出ています」

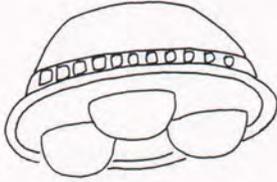
——実際の大きさはどれぐらいに感じ
ましたか。
「とてつもなく大きなUFOという感
じはしませんでした。距離もよくわか
らなかつたですから……そのとき初め
て見たものだから、ただもうびつ
くりして……」

——二〇メートルとか三〇メートルも
ありませんでしたか。
「そんなに大きくはなかつたです。でも
特別小さいものでもありませんでした。
まわりはまだ明るかつたんですが、そ
のなかでもはつきりと分かりました」

——ぼーつと光っていたのですか。
「ええ、月と同じ色です」
——月というのは同じ視野で見たの
ですか。
「ええ、見えました。ですから、はつき
り別な物です。本物の月はちよつと離
れた所にあつました。こつちが月だか
ら違うね」つて話していたんです」

——そのようなものと、完全にア
ダムスキー型円盤というものなのです
が、知っていますか。
「ええ、本で見たことがありますけれど
も、まるつきり同じだと思えます。
以前『ムー』をずっと読んでいた
から」

——アダムスキー関係の書物もありま
すけど。
「それは読んでいません」



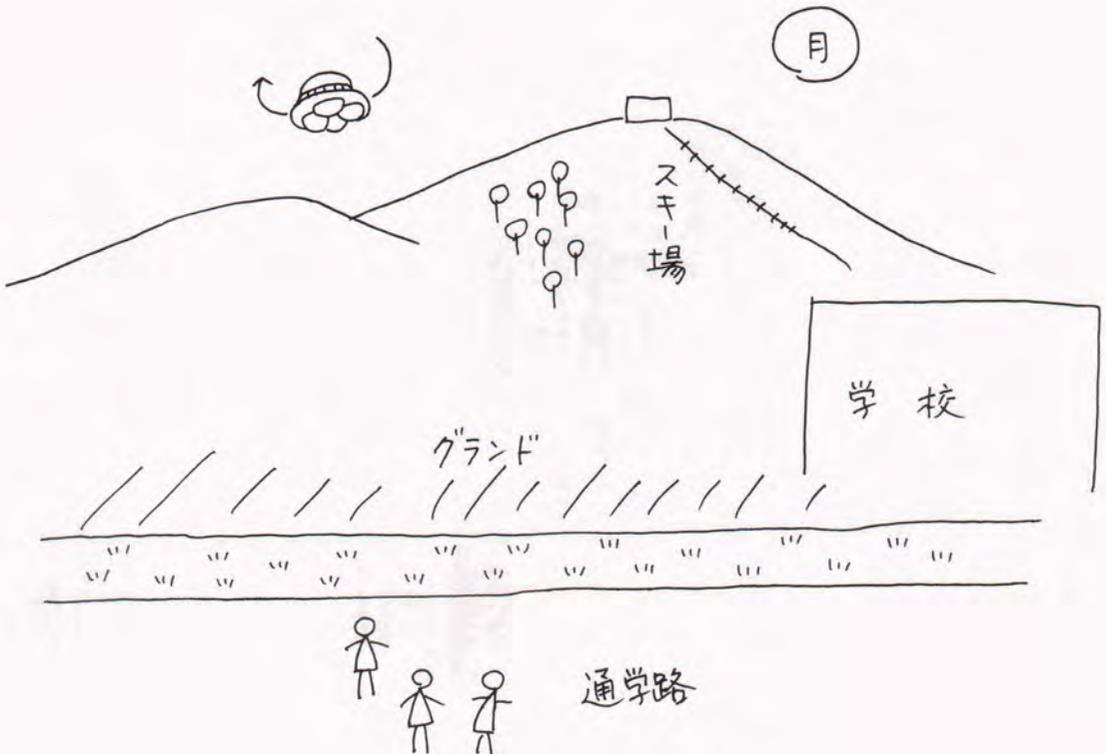
▲阿部裕美さん

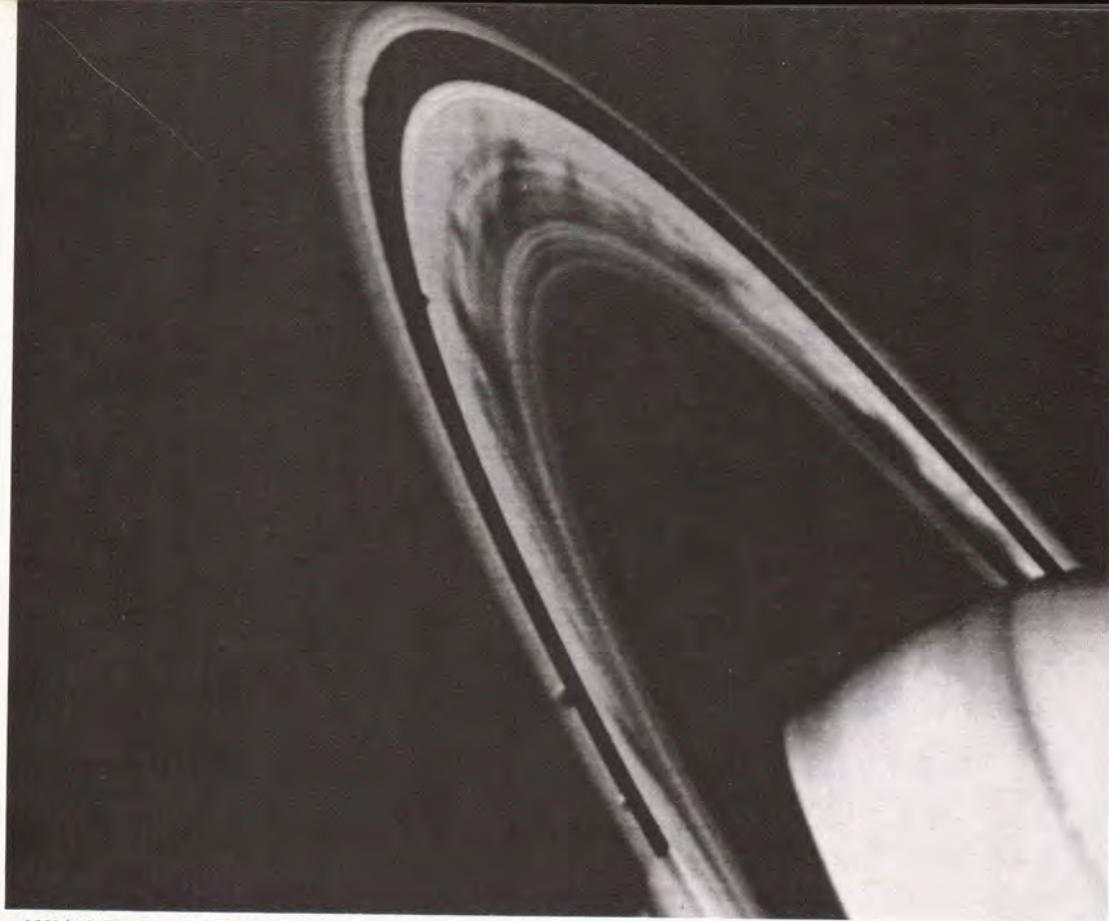
「というところ、全くアダムスキーが見ている円盤と同じ形？」
 「ええ、そうです」
 「失礼ですが、年齢は？」
 「二五歳です。妹と二つ違います。両親も学校の教師をしています」
 「あなたにはテレパシーというものはあるんですか。」
 「イヤ、全然ありません」

- ・色はうすい白というかんじで 光っていました。
- ・足のようなものははっきりと見えましたが、かすはろっかが4つか覚えていません。
- ・まじのように見える部分は回転していました。
- ・ゆっくりとまわりながら はじのほうから 少しまっ 消えて見えなくなりました。

「一緒に見たお友達のなかに特別な能力のある人がいましたか。」
 「関係ないみたいです。でも、その後ろを歩いていたクラスメートの男の子達は UFO に気がつきませんでした」
 「三人の女生徒だけが見たわけですね。」
 「そうです」

▲この頁のイラストと上の説明文は阿部さんによる。





▲1981年8月3日、米惑星探査機ボイジャー2号が撮影した土星のBリング中の黒いスポーク。

Voyager 2 Takes Shots of
the Tenth Planet?

天国[?]を撮影した ソ連の惑星探査機

本誌編集部

一九七七年八月二〇日、タイタン3セントール打ち上げロケットに乗って、遙かな宇宙への旅に飛び立ったボイジャー2号惑星探査機は、今もなおオデッセイア（大冒険旅行）をつづけている。

目的は木星、土星、天王星、海王星を近傍通過し、多数の写真を送ってきたあと、先発のボイジャー1号とともに太陽系を飛び出て、打ち上げ三〇年後の西暦二〇〇七年に恒星間空間の一五〇億キロの彼方から最後の通信を地球に送ることになっている。

一方、ソ連の惑星探査機も遠い宇宙空間を飛翔中だが、驚くべき宇宙の実態を伝えてきたという話がある。

ソ連の宇宙開発技術に協力しているドイツの天体物理学者クルト・パウアー博士が洩らしたところによると、なんと「天国」を撮影したというのだ。「その写真は探査機が冥王星を通過して深遠な宇宙へ向かう途中で撮影されたもので、送信された写真は数百枚にも及んだ。それには暗闇が次第に虹色の光のトンネルに代わり、その中を探

査機が進行し、この世のものとは思えない緑と黄色が写っていた。

さらに、遠方に金色に輝いた高い壁に囲まれた街があり、門から出入りする人々の姿が見事にとらえられていた」

と博士は言う。

どうやら冥王星の外側にある一〇番惑星か一一番惑星の文明をキャッチしたのかもしれないが、この太陽系に一二個の惑星があることを知らぬ科学者は、この一連の写真を死後の世界の「天国」と思い込んだらしい。

これについて、パウアー博士をよく知るフランスの超心理学者マーク・ドゥゴア博士はこのニュースを聞いて、次のように言っている。

「この写真の存在については、パウアーはそうしたものを見る機会がある立場にいるから、かなり信憑性の高い話だ」

ドゥゴアも死後の世界の写真だと思っ込んでいたようだ。

この写真類は最高機密扱いとなつているので、当分は公表されないだろうという。

ともあれ、アダムスキーの主張する太陽系一二個惑星説と全惑星群の高度な文明存在説は、すでに探査機群によって充分に確認されているが、我々の主張は以上の情報でも正しかったと言えるだろう。

下のテープの中から、お好みのテープを

●無料で効果を試せるチャンス!!
 あなたはどこまで変われるか?

日本全国で話題になっているβ波音楽に耳に聴こえないメッセージを同調させた『サブリミナルテープ』。その人気シリーズのベーシックテープを、下記のシステムにて無料でお届けします。

1本無料進呈!!



BGMとして聴くだけで効果が!!

このサブリミナルテープ、耳に聴こえるのは、うっとりするような美しいメロディーの心がゆたたりとくつろいでくる静かな音楽だけです。(日本の曲をいはいは、喜多郎の音楽にイメージが似ている。この音楽だけでもストレスを解消し、気分をさわやかにするすぐれた効果がある。)しかし、実はこの音楽に、ハルパーン博士を始めとする専門家の手によつ

て高度な音響テクノロジーを駆使して、ある心理学的な言葉のメッセージが耳に聴こえない周波数に変換されて入っているのです。(潜在脳に独特の刺激を与える音楽の波長が、耳に聴こえないメッセージの波長を潜在脳へ運び、植えていきます。)

この音楽に交って入っている「耳に聴こえない心理学的メッセージ」に、ただテープの音楽を聴いている手でお試下さい。

無料でお届けするサブリミナル・ベーシックテープのタイトル

(下記のシリーズの中から1つお選び下さい。)

シリーズ名	ベーシックテープのテーマ・タイトル
① 恋愛成功(BM)シリーズ	「女性への緊張感の除去」
② 積極的性格(PC)シリーズ	「本来の自分を取り戻す」
③ 魅力的性格(AS)シリーズ	「自分自身への自信」
④ 脳力開発(AD)シリーズ	「自分の能力への自信の強化」

① **これで女性も思いのまま**
 恋愛成功シリーズ(BM)シリーズ
 BMシリーズのお届けする各テープの内容は、●個性的魅力を出す●女性と理想的関係を持つ●理想的パートナーを得る●女性への絶対的自信●積極的思考の習慣●失敗への恐れのない完全克服●達成能力の獲得●他人を無条件で引きつける●自己エネルギーの強化●思い即行動●自分への絶対的信頼●あふれるばかりのエネルギー

② **内気な脱却し社交的人間に**
 積極的性格シリーズ(PC)シリーズ
 PCシリーズのお届けする各テープの内容は、●積極的自信●自己意識の過剰な抑制●人見知り克服●シャレートな感情表現●異性への積極性の獲得●女性を身につける●積極的な自己主張の習慣●ダイナミックな行動力の強化●陽気な笑顔の習慣●強烈なエネルギーを放つ●積極的性格の表現

サブリミナルテープ(ベーシックテープ)申込み要項

サブリミナルテープ頒布会各シリーズのベーシックテープを、次のようなシステムにて無料でお届けします。以下の要項を良くお読みになり、ご希望のテープをお申込み下さい。

●ベーシックテープは、各シリーズの、第0回目を頒布テープとしてお届けいたします。

●お届けするベーシックテープは、お申込みになられたシリーズの、第1回目以降のテープご購入の有無にかかわらず、無条件で無料です。高まる。仕事・勉強の能力が驚くほど上がる。知らず知らずのうちにまわりの人が好かれるようになってしまふ。という現象を引き起こす秘密なのです。

「本を読んだり趣味に熱中しているだけで夢がかなってしまふ」このアメリカの苦勞いらすの科学的プログラムの効果を素直に自分自身の手でお試下さい。

以下に、4,800円(送料3,000円)に、4,800円(送料3,000円)の、第1回目およびそれ以降もテープ到着後5日間の無料試験期間を設けていますので、気に入らない場合は自由に返品できます。又、途中退会も可能です。

●ベーシックテープを、使用の結果満足いただけなかった場合は、テープ到着より1週間以内に「キャンセル」のご連絡を電話か書面にていただければ、第1回目以降のテープは発送されず、そのまま「退会」となります。

●「キャンセル」の場合でも、お届けしたベーシックテープの返品品は必ず要ありませぬ。そのまま「愛用」ください。

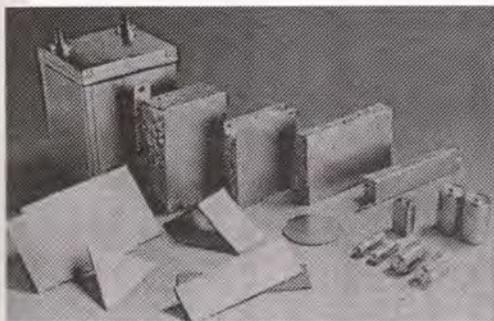
●ベーシックテープを3種類以上お申込みの場合、無料でお届けさせていただきます。原則として、無料でお届けする各テープは、ただ1種類(1本)ですが、複数のベーシックテープのお申込みに関しては、

以下に、お申込みいただいた回数、1本につきまたは、第1回目以降の頒布テープご購入の有無に関係なく無料。他の何本かは、同じシリーズの第1回～第3回までの頒布テープをご購入になった場合のみ無料。ご購入いただいた場合は、2本目以降のベーシックテープ1本につき3,000円(送料込)を申し受けられます。

●申込み限度は3種類(3本)まで。●申込方法
 左記の○シリーズのベーシックテープ申込みと電話かガキでお申込みください。通常お申し込みの「頒布会申込み」の混乱を避けるため、必ず「ベーシックテープ申込み」とハッキリ明記ください。

〒110 東京都港区南青山1-26-4
 アーカイブライブラリー社 366係
 電話 03(476)0004
 (受付AM8:00～PM4:00 日曜日受付中)

▼電池のカンツメ



〈国内有力紙に掲載された科学記事を抜粋紹介。各記事本尾のカッコ数字は掲載年月日を示す。〉

新しい電気のカンツメ

いすゞ自動車と富士電気化学は一六日、一〇秒程度の短時間で充電ができて蓄電能力も一般のコンデンサーの数万倍の能力を持つ新タイプの「電気保存体」の共試作に成功したと発表した。補助電池としてバッテリーが上がった車のエンジン始動用として実用化するのを手始めに、乾電池を使った家電製品、太陽や風力エネルギーの保存など幅広い用途が考えられ、両社は二年後をメドに商品化に踏み切る考えだ。

この保存体は、二つの電極の間に絶縁体をはさんだ二重層コンデンサーと同じ構造。これまで活性炭と電解液が湿った砂のようにペースト状に混ざっていた電極を固化し、化学反応させる必要がなくなったのが大きな特徴で、この結果コンデンサーに比べて内部抵抗が一〇〇分の一程度に減り、蓄電容量が五〇倍程度

に増えた。両社は「構造的にはコンデンサーの一種だが、容量が大幅に増えたことでバッテリーの仲間にも入る画期的な電気保存体」だと言っている。

大きさは直径三センチ、厚さ約六ミリの基本タイプで一ポルト三〇ワットの蓄電が出来る。またコイン型の電気保存体を縦や横に並べて板状や円筒状など自由な形状が出来、乾電池型や車のパンパー内に取り付けられることなども可能。乾電池程度の大きさなら一〇秒で充電が済み、車のバッテリーと比べると出力一ワットあたりの重量は二〇分の一、瞬間的な出力は四〇倍という。

寿命は半永久的で、素材が活性炭のため公害などの心配もなく、量産化すればコストも既存のバッテリー以下に抑えられるという。

将来は太陽電池との併用による電気自動車、自家発電装置、航空宇宙産業など幅広い活用を狙っている(4・17毎)。

宇宙望遠鏡ふた開く一五年観測へ

大気には邪魔されずに宇宙の彼方を鮮明にとらえようとスペースシャトル「ディスカバリー」から地球周回軌道に放出された「ハッブル宇宙望遠鏡」は米東部時間四月二七日午前一〇時三分、地上からの通信指令で、筒本体のふたが完全に開いた。「ふた」は直径三メートルのアルミ製で、これまで鏡の汚染や損傷を防ぐために閉じていた(4・28読)。

人の脳細胞増殖に成功

米ジョンズ・ホプキンス大学のソロモン・スナイダー博士のチームは、人間の脳細胞を実験室で培養して成長させることに成功、四月発行の米科学誌「サイエンス」で発表した。脳細胞を分裂、増

殖させたのは世界でも初めての成果という。博士は「将来は培養細胞を新薬の試験やアルツハイマー病などの患者への移植に使うことが可能になるかもしれない」と話している(5・5読)。

発ガン物質、光でビタリ

東北大農学部の木村修一教授らのグループは、発ガン性が分かっている芳香族を簡単に検出・測定する方法を開発、五月一日、仙台で開かれた日本栄養・食糧学会で発表した。

木村教授らのグループは肝臓で代謝される過程で発光する芳香族の性質に着目。ピーナッツなどにつくカビが出すアフラトキシン類や、工場の煙、自動車の排ガスなどに含まれるニトロアレン、焼き魚のこげに含まれるヘテロサイクリックアミンなど、発ガン性の芳香族を脂肪の粒に溶かし、体内の条件に合わせた上で高感度の測定器に入れ、光を点としてカウントしたところ、食品添加物の色素に含まれるアド化合物を除くすべての芳香族で光が測定できた。また発光の強さは発ガン性の強さに比例していることも分かった。これで輸入食品の発ガン物質の検査が短時間でできるようになるだろうという(5・11読)。

地球温暖化防く「住宅」を建設

二酸化炭素の上昇による地球の温暖化防止を住まいの面からも促進するため、建設省は今年度から化石燃料に代わって太陽熱などの自然エネルギーを使う住宅の開発にとりかかる。日本の二酸化炭素排出量の一五パーセントは家庭用エネルギーから出ており、「住宅で抑えればかなりの効果が期待できる」という。

化石燃料に代わるエネルギーとして利

用を促進するのは、太陽の熱や光、風力を利用した自然エネルギー、発電の過程で失われる熱を利用する高効率エネルギー、ビルや生活排水から出る排熱利用エネルギー、地熱のような地域エネルギーなど。建設省はクリーンエネルギーを利用するモデルプランを一戸建て、中高層住宅、団地などの居住形態に応じて作る(4・14朝)。

光コンピュータの試作に成功

現在よく使われている電子式コンピュータの次に来る、光を用いたコンピュータを、米電信電話会社(AT&T)のベル研究所のアラン・フアン博士らが世界で初めて試作に成功した(4・11朝)。

金星のわき上がる雲を確認

米航空宇宙局(NASA)の木星探査機ガリレオが最終目的地である木星へ向かう途中に接近した金星の画像の内、三枚を地球に送ってきた。これは金星から約一六〇万キロの地点で撮影したもの(2・17河北新報)。



天体接写——米の宇宙望遠鏡

四月二四日にスペースシャトルで打ち上げられた「ハッブル宇宙望遠鏡」が米東部時間二〇日午前一一時一三分、試験的に宇宙観測を開始し、天体写真の初撮影に成功した。画像データはデジタルの電気信号に変換され、米航空宇宙局（NASA）ゴッダード宇宙飛行センターに送られた。同センターでコンピュータ処理して写真を公開した。

写したのは南天の星座「りゅうこつ座」にある「NGC3532」という一二六〇光年彼方の散開星団の一部。地上撮影との対比で、南米チリのラス・カンパナス天文台が撮った写真と見比べると、恒星にじみがない上、地上撮影ではよく区別がでない写真上方の二重星もくつきり見える。大気に邪魔されずに写した威力が歴然としている（5・21説）。

火星探査機に日本製TVカメラ

ソ連が一九九四年に計画している無人火星探査計画「火星94」の探査機に、日本製テレビカメラを積んで火星表面を撮影する計画が日ソ学者間の話し合いで五月二二日まとまった。まだ金額的な詰め

▲(左)はハッブル宇宙望遠鏡がとらえたりょうこつ座にある散開星団「NGC3532」。最上部の大きな星がわ

が残っているが、実現すれば惑星探査に日本が協力する初のケースになる。

来日中のソ連科学アカデミー会員、ロナルド・クレムネフ氏ら四人と、日本側の学者で組織する「火星94日本委員会」（委員長・坂田俊文東海大教授）および日本のメーカー五社が技術的可能性を討議した。

火星94計画は気球と突入機（ペネトレーター）で火星大気と地表調査を行なう。テレビカメラは地表に食い込む突入機の上部に付けられ、強い衝撃と氷点下一〇〇度の厳しい環境に耐える必要があるため、ソ連は日本のハイテク技術による開発を求めている（5・23説）。

浮上力、従来の三〇〇倍

民間企業四六社が共同で超伝導の基礎研究を勧めている超伝導工学研究所（田中昭二所長）は、このほど従来の約三〇〇倍もの浮上力（反発力）がある新しい超伝導体の開発に成功した。

この超伝導はイットリウム、バリウム、銅のほかに銀を加え、同研究所が昨年開発したMPMGと呼ばれる製法で作られた。直径三センチ、高さ二センチの円筒

んを上から覆ったように見える重星であることが分かる。(右)のチリのラス・カンパナス天文台の写真では一つの星に見える(ロイター)



形。液体窒素温度（氷点下一九六度）で約三キロもの浮上力が確認された。金魚が泳ぐビーカーを葉々と持ち上げる能力だ。超伝導体による磁石の浮上効果はマイスナー効果に有名。だがこれは浮上力に限界があり、重い物を持ち上げる力は一〇数グラム程度だった（5・30説）。

高性能電気力・登場

新日本製鉄が一回の充電で二四〇キロも走れる高性能電気自動車「ナブ」（の開発に成功した。ナブの特徴は新素材の磁性材により製作可能になったコンパクトなモーターを四つのタイヤ内に設置、七〇馬力の出力を実現できた点だ。しかもモーターと車軸が直結しているため、変速機などが不要となり、従来の電気自動車の置き所だった車両の重さ、スペースの狭さをガソリン車並みに改善した。

こうしたことで、これまで一〇〇キロ程度だった走行距離を倍以上伸ばし、最高速度も従来の八〇キロ程度から一一〇キロへと大幅に飛躍した（6・2説）。

新方式立体テレビ、実用化成功

英ロンドンのベンチャー企業がこのほど世界初の本格的な立体映像テレビの実用化に成功した。発明家数人が設立したデルタ・グループ社で、製品名は「ディープ・ビジョン」。

これまでの立体映画やテレビの試みはすべて二色に分かれた特殊な眼鏡を顧客が着用する煩わしいものだったが、新製品は普通のテレビセットの画面に予想価格五〇一〇〇ポンド（一万三千元ないし二万六千元）の特殊なスクリーンを装着するだけという簡便さが売り物。機器は今年のクリスマスにも一般に発売される予定。

この新技術の要素は「観客の頭脳そのものをシステムの一部として活用している」こと。人間の頭脳は両眼の網膜が感知した平面画像を総合し、立体として知覚する。ディープ・ビジョンは撮影済みの映画、ビデオフィルムや撮影中のカメラ映像そのものにコンピュータ処理で網膜が感知すべき二つの平面画像の微妙なずれを組み込み、特殊スクリーン型のデジタル解読機を通して、画面をどの位置からどのような距離で眺めようとも、観客の頭脳には現実に近い立体として感知されるという（6・4説）。

金星にも火山や断層がある

ハワイの火山やカリフォルニアの断層に似た地形が地球の隣の惑星にもあった。米国の金星探査機マゼランがレーダーで初めてとらえた金星表面の画像が、米航空宇宙局（NASA）ジェット推進研究所から発表された。その表面は起伏に富み、山や谷が姿をあらわしている。この画像は先週撮られた（8・22朝）。

切らずにガンを「消去」、松下開発

炭酸ガスレーザーを使って早期ガンやポリープを蒸発させてしまう手術装置を松下電器が世界で初めて開発。六月八日に発表した。胃カメラなどの内視鏡に光ファイバーを通し、胃ガンや直腸ガンなど体内の患部だけを簡単に消し去ることができるという。

新しく開発された光ファイバーは塩化銀と臭化銀の結晶を直径〇・四ミリの軟らかい動続の繊維にしたもの。レーザーは吸収されず、無害なので内視鏡による体内の治療に使え。胃ガンや直腸ガン、関節内の治療のほか肺ガンやボウコウの手術などに利用できるという（6・9説）。

★今年度海外旅行終了

去る八月二日より二日まで一日間実施された第一二回海外研修旅行「ローマ・エルサレム・ガリラヤ聖域の旅」は大成功裡に終了して、全員無事に帰国した。詳細は本号記事「金星から転生してきたイエスの大地へ」と「UFO目撃旅行」を参照。

★日本GAP総会

かねてからの予告通り、九月二四日、東京中央区銀座七丁目の銀座ガスホテルで年一回の今年度総会が開催された。今年は二連休の二日目で翌日が平日のためか遠隔地からの参加者が減少気味であったが、それでも予想以上の出席者があり、盛況であった。詳細記事は本号に間に合わなかったので次号（来年月発行）に掲載の予定。

★新アダムスキー全集刊行続く

今年四月より刊行が開始された新アダムスキー全集第一巻「第二惑星からの地球訪問者」の出版以来、好評裡に刊行が続く全集は九月末に第五巻「金星・土星探訪記」が刊行された。詳細に関しては本号50頁の広告を参照し、注文は中央アート出版社宛にしたい。不明な点は同社または日本GAPへ。

★新潟支部UFO写真展空前の盛況

去る八月一日より一日まで新潟駅前前のデパート「プラールカ新潟」ゆいとびあホールにて新潟支部主催のUFO写真展が開催され、四日間で計四〇〇〇人の入場者があり、同ホール始ま

つて以来の最高入場者記録を樹立した。詳細記事は左頁に出ている。

★秋田・青森合同支部大会

秋田、青森両支部は来たる一月三日（祭日）、秋田市の秋田県社会福祉会館で合同支部大会を盛大に挙げる。前号の予告によるプログラムを一部変更し、今回は東京本部役員の高藤昭則氏も講師として出席し、超能力開発指導を行なう。詳細は本号49頁の予告を参照。

★来年度支部大会開催予定

来年度地方支部大会は左記の二支部が開催を予定している。

①山形・仙台合同支部大会

五月四日（三連休中日）天童市にて。

②旭川・札幌合同支部大会

六月二三日（日）旭川市にて。以上二件の詳細は本誌次号に発表。

★各地支部月例会に関する変更

①山形支部 今年一月の月例会は第三日曜日に変更。来年一月の月例会は第二日曜日に変更。
②旭川支部 月例会場をこれまでの「勤労者福祉会館」から旭川市五条四丁目「旭川市ときわ市民ホール」一階三〇二研修室へ六月より変更。新会場は新築の素晴らしい建物。

③青森支部

六月より月例会を従来の第三日曜日から第四日曜日に変更。

★東京月例会テキストを変更

東京月例会では従来使用してきた講義用テキストを一月の月例会から次

の書物に変更するので注意されたい。

新アダムスキー全集第二巻「超能力開発法」（中央アート出版社刊）。

★デンマークGAP大会で会長講演

前号本欄で予告したとおり、今年一月一七日にデンマークのホルディングにてデンマークGAP大会が開催され、久保田会長が招待講演を行なう。会場は出席者多数を見越してホテル「スカンディコン」から「スカンディック」ホテルに変更された。夕方七時開演、一〇時まで三時間会長はスライドを使用しながら「アダムスキー問題と日本GAP」と題する講演を行ない、これをデンマークGAPの創立者で会長の盟友ハンス・ビーターセン氏が英語講演をデンマーク語に通訳する。会長と同年齢のビーターセン氏は退役空軍中佐でアダムスキーと親交のあった人。ダニエル・ロス氏の話によるとビーターセン氏は会長のことを常に「アワーフレンド・クボタ（我らの友クボタ）」と呼んでいるという。デンマーク行きの同行者は清水正、郡司牧人、佐塚崇子、田中信代の四氏。出発は一月一四日、帰国は二二日。大成功が期待される。

★来年度海外研修旅行

九一年度日本GAP企画第一三回海外研修旅行はアダムスキー生誕一〇〇年・日本GAP創立三〇年記念としてアダムスキーゆかりのアメリカ西部・東部とメキシコを回る旅に決定。す

に前評判は上々で多数の参加が予想される。詳細は本号19頁の予告を参照。

★会員同士のおめでた

日本GAP会員・小島岩男氏と宇賀地孝子さん（いずれも東京出身）は来たる一月三日、都内世田谷区上北沢の松沢資料館で結婚式を挙行後、一カ月後の一月二日（日）午後五時三〇分より左記の場所で会費制により立食形式の披露パーティーを開催する。GAP会員なら誰でも出席できる。

会場Ⅱ都内、千代田区九段北四二

一五五「私学会館」☎〇三一一二六一

九九二一 中央線「市ヶ谷」駅下車、

三分。会費一万円。出席希望者は左記

へハガキで一月末までに予約された

い。

千一六八東京都杉並区和泉四一四二

二九、手塚ビル二〇三、小島岩男

☎〇三一一七一四一五九

その他、来年度はさらに数組のカッ

プルが誕生する予定。すでに数十組の

GAPカップルが幸せに暮らしている。

★書店卸しボランティア募集

日本GAPは宇宙のカルマを持ちながら本誌の存在を知らぬ人々を発掘する目的で書店卸しを行なっている。すでに約一〇〇名の会員がこれに協力中であるが、まだ未開拓地は無限にあるので多数のご協力を期待している。詳細に関してはハガキで照会ありたいに案内書をお送りする。毎号数十冊完売という店もある。

UFO Photo Exhibition 新潟UFO写真展 驚異的入場者数

八月一日より一四日まで四日間、日本GAP新潟支部主催UFO写真展が新潟市駅前デパート「プラカ新潟」ゆーとぴあホールで開催された。四日間で計四〇〇〇名の入場者があり、これは写真展としては同ホールの創設以来最多入場者数であり、驚異的な記録であると同ホール関係者が驚いていたという。

写真の展示だけでなく、新潟支部

制作のオリジナルスライドを毎日四回映写し、いずれも大盛況。このスライド解説の中で新アダムスキー全集についてPRしたところ、著しい効果があり、同全集四三冊、ユーコン二三冊を販売した。

会場でビデオコーナーを設けて一日中放映、常に人だかりができて好評だった。「ジョージ・アダムスキーとは」と題する拡大年表を制作して掲示した。また、ダニエル・ロス氏の記事を主体にした「GAPニュースコーナー」を設けて、科学的な角度から解説記事を紹介した。

宣伝としては新聞折り込み広告を利用。新潟日報の八月一〇日付朝刊にB

4サイズのチラシを一万枚折り込んだ。さらに新潟日報、朝日、読売などの新聞とタウン情報誌にUFO写真展の紹介記事が掲載された。

以上、星・新潟支部代表その他支部会員一同の大活躍により稀有の観客動員記録を樹立したことは、アダムスキー問題を主体にしたUFOと宇宙にたいする一般人の視野拡大に絶大な貢献をしたことになる。

今後の新記録樹立を旨としてさらに新潟支部は新たな活動を企画中であるとのこと。大いに期待したい。

今回の新潟支部主催UFO写真展はたぶん世界でも例のない画期的なイベントであったと思われる。タウン情報

誌月刊「にいがた」の「情報クリップ」欄には「私の心をゆさぶるUFO」と題して次のような紹介記事が出た。

「会員数一三〇〇名を擁する国内最大のUFO研究グループ「日本GAP」主催の第五回UFO写真展が開催される。この写真展はアメリカの有名な研究者ジョージ・アダムスキー氏が撮影された信憑性の高いUFO写真で構成されており、UFOや地球外文明に関心のある人に情報を提供し、人類の未来と異星人との友好的な関係について考えてもらおうというもの。約七〇点のパネル展示のほか、ビデオやスライド映写による解説もある」

▲上から会場入口、展示会場、星代表の説明、関連図書販売コーナー



My Telepathic Life
by Michiko Gunji

私の テレパシクな 不思議人生

郡司典子 〈1990年7月の東京月例会講演より〉



▲郡司典子さん(東京月例会にて) 撮影/松村秀之

私は神奈川県平塚市で生まれました。家は父方の祖母と両親の四人暮らしで、九歳まで一人っ子でした。

祖母は日蓮宗の行者の免状を持っておりまして、激烈にお題目をあげる人でした。父はどちらかと言えば無神論者でした。母はクリスチャンではないのですが、ミッションスクールを出まして、掃除のときには賛美歌を歌っていました。後には別な宗教に入りました。

私はキリスト教には大変好感をもっておりまして。父は私が一歳のときに結核で亡くなりましたが、亡くなる前の日には谷口雅春氏の『生命の真相』を読んでおりました。そのせいか大変死に顔が美しかったのです。

父の死後、私もその本を読みましたが、幼かったためか、影響を受けたかどうかはよくわかりません。

祈りで物事がうまくゆく

一〇歳のときに軽い結核になりました。三カ月ほど秦野市の国立病院の小児病棟に入院いたしました。そこに尼僧さんがときどきお見えになって、キリスト教の絵カードを配っておられましたので、私はその綺麗なものが欲しくて、集めていたのです。

そのせいだと思うのですが、子供向けの聖書通信講座を受けました。それから毎晩——最初のうちの朝晩だけだったので——寝る前に主への祈りを唱えておりました。そして困ったときには祈りが通じるためか、次の日には物事がうまく進んでゆきました。

そのせいか、第一志望の大学へ入ることが出来ました。そこは先生方は全員クリスチャンなのですが、学生は宗教は問われません。私は礼拝などにもときどき出席しまして、何かがあれば正式にクリスチャンになろうという気はあったのです。私は聖書を特に読むタイプではありません。祈るほうが好きだったので。でも何か一つ足りないうものがありません。

必修科目に『聖書入門講座』というのがあります。そこで預言者達とヤハウエの話がありました。ユダヤ民族は砂漠の過酷な状況のなかで生きていたために、神は唯一神であり、人格神であり、自分の外に在るもので、人間は神と契約を結ぶことによって神とつ

ながるものであると言われた上、そのために西洋の社会では契約というものが重要になるのだと言われたのです。

神は自分の内部に存在

そこで私は違うなと思いました。私にとつての神は最初から私の内部に存在するものだったので。このような『神』を信ずる所はないものかと思いましたが出会えませんでした。

このことで次第に現実の宗教から離れたのです。ちょうど学生運動が起りまして私もそれに参加しました。その頃は唯物的な考えをもつようになりまして、人間中心の考え方でした。当時フランス文学の先生が「詩人は神の方からやってくる言葉に出会うのだ」とおっしゃったのですが、それは自分の意見とはまるきり反対の意見として珍しく聞いたことを覚えています。でも人間の考え方がよくわかったので、その間のことはそれで良かったと自分では思っています。

聖骸布に心を動かされる

結婚してしばらくたってから、新聞の映画の宣伝の欄が夕刊の端に小さく出るので、それに『世界の七不思議』という映画の宣伝が載っていたのです。本当に小さな宣伝記事でしたがその七不思議の一つにイエスの聖骸布の写真が出ていました。

それを見たとき私はその写真が光つ

ているように感じたのです。今で言えば波動を感じたのだと思うのですが、「これは本物だ。イエスは実在したのだ！」と思ったのです。

その後、小学生になった私の子供が「お母さん、イエスは本当にいたの？」と聞きましたとき、私は「いたと思う。聖骸布というものがある。あれは本物だと思うから」と答えました。

話は飛びますが、つい二年ぐらい前に図書館で楽しみながら手にした本『異星訪問奇談』に出会ったのです。その中で春川氏のおっしゃった「聖骸布は本物だ」という言葉と「人は自分の神を出来るだけ高く持たねばならない」という箇所で心臓がドキドキして、涙がポロポロと出てきました。今までいろいろな本を読んできましたが、これは最も心を動かされた本です。

読み終わってから、春川氏と一緒に UFO を見ようと思いました。そして早くもイメージが浮かんできて、その年の一月二三日に実現したのです。息子二人も、「この本は僕達が先に見つけたのだから、借りておくれよ」と言うのを嬉しく聞いていました。

(编者注Ⅱ)イエスの体を包んだと言われる聖骸布は、数年前、カトリック教会が布の薄片を各地の大学へ送って調査させたところ、本物ではないという結果が出た。しかし春川氏は、これはキリスト教界内部の闘争による工作であって、実際は本物なのに偽物にされ

てしまったのだと言っている。

『異星訪問奇談』は、かつて本誌に連載した春川正一氏(仮名)のコンタクト体験談を単行本化した題名。現在は絶版)

過去世々々を見る

UFOは前から好きで、テレビのUFO番組は必ず見ていました。そしてGAPに入会しましたが、久保田先生にお会いする前に頂いたユーコン誌一〇四号の先生のお写真に波動を受けてクラクラとしたのです。

東京月例会に最初に出席しましたとき、晴れた日でしたが、心底から嬉しくて楽しくて、ふだんは大きな声で歌などを歌わない私ですけれど、歌を歌いました。そして会場でお話をうかがっているあいだ、私はふだんはオーラは見えないのですが、そのときはこのGAPの金星文字に真っ白いオーラがかかっているのがみえたのです。

二度目に月例会に参加しましたとき、長男をつれて来ました。家に帰りましてから、寝床にいる私に向かって「お母さんも過去世も見てごらんよ」と長男が声をかけてくれました。「うん」と返事をしましたが、そのとき楽しい気分だったせいでしょいか、目の裏に緑豊かな高い円錐形の樹木がぎっしり生えている風景と、薄い空の色が見えたのです。

それで「ここはどこだろう? 地球

ではないのではないか」と希望をもって見ながら、しばらくしてると、なぜか下の方に二〜三歳の女の子がいるような気がしたのですけれども、それは見えません。

見終わってから、とても温かい懐かしいような気分がわき起こりました。その他の事から考えてみても、私は過去世では森の中に住んでいたのだらうと思っっています。

夢でジェームズ・ティーンに

日本GAPに入ってから以来、アダムスキーの「すぐれた教師は、その人の持っている物を引き出す」という言葉どおり、忘れ去っていた三〇年前のテレパシクな少女時代のことが思い出されてきました。輪廻転生を考えて、何度も生まれ変わったら地球は一杯になつてしまふ。その方達はどこへ行くのだらうと考えていたのです。そのとき星空をみながら「そうだ、きつと他の星へいくのだ!」と考えたことや、人間は相手の考えていることが分かつてしまふのではないかと思つたり、私は逆に恐れを抱いて「そんなことはない。言葉でしか通じないのだ」と無理やり思つたことや、また、人体内部がすごく嫌いで、これはまったくの少女的な嫌悪感にすぎなかったのですが、「自分の内部は絶対にあんなふうになつてはいない。水色になつていなのだ」と強引に思っていました。

思い出した不思議な事の一つにジェームズ・ティーンのことがあります。中学生の私は彼のファンになり、熱烈にプロマイドなどを集めました。そのとき彼はすでに亡くなつていたのですが――(编者注Ⅱ)ジェームズ・ティーンはアメリカの有名な映画俳優。自動車事故で死亡した)あんまり夢中になつて、ある日、夢にまで見たいと強烈な想念を起こしたので。今までこれほど人のことを思つたことはないくらいです。自分としては少女らしく楽しく語り合っている風景でも見られたら良いと思っていました。

ある夜、夢のなかに彼が現れてきたのです。姿は見えません。意に反して、そのとき宇宙空間が見えました。そして彼は最初一言か二言、呼ばれたから来たと言い、すごく優しい愛情のこもつた言葉をかけてくれました。

そのあと、「あなたの生涯では、もう二度と私に会うことはないだろう」と言いました。私は喜びの頂点から突き落とされたような気持ちで、「六〇歳になつても七〇歳になつてもだめなの?」と聞きました。

次の朝になつてから母に「昨夜ジェームズ・ティーンが来た」と言つたのです。母に「何を言ってるのよ」と軽くあしらわれるかと思つていたのですが、母は「それで、どうだったの?」と真剣に聞くではありませんか。

私は最初のあたりのことは恥ずかし

くて言えなかったのですが、「二度と会えないんだって」と言いました。そういう思い出がごさいます。

怒りのファミコンが壊れる

次に軽い話ですが、下の子供が中学三年の頃だったと思います。その子がファミコンに夢中になって年から年中それをやっているものだから、私は怒りを爆発させて、しょっちゅうカンカンになって怒っていたのです。

そしてあるとき子供が「お母さん、ちよつと待って。それ以上怒らないで」と言うのです。なぜ？と聞き返したら、「それ以上怒るとファミコンがだめになる。ゲームが壊れる」と言うのです。それで見ていたら本当にゲームが壊れて、二人とも呆然となったことがあります。

UFOに出会うのは本誌一〇八号に体験記を掲載して頂くまでは、はつきりとした形で見たことはありません。その件につきましましたは、すでにユークンに載せて頂きましたから、今日は省かせて頂きます。

月の五倍のUFOを見る

UFOに出会ったのは一月初めでした。そして昨年一二月の半ば頃だったと思います。満月のときでしたが、自宅では犬を飼っていますので、夜の一〇時過ぎには必ず犬をつれて散歩に出かけるのです。大抵その時間にも子

供が行くのですけれども、その日は子供の都合がつかなかったために、私が出かけました。

夜の遅いコースは決まっています。す。ちよつと東に向かって行った終点です。けれども、空に大きな黒い雲がかかっているんです。

しかもその雲の下にすごい金色の物体が光っているのです。自然界でこんな素晴らしい金色の物体はみたことがありません。本当の金色がビューツとさしているのです、私は「あつ」と思い、母船かなと思つたのです。それで犬を連れてその方向へ夢中で駆けて行きました。

その東側には家並が少し切れますと、農地がずっと広がっており、右側には今三階建ての建物が建っていますが、その頃はそれもなくて、その向こう側にも二車線の道路が続いて、その向う側には二階建ての家が建っているくらいですから、視界は一八〇度空が見通せるような状態です。

そこへ行って立ってみましたら、私はその左側に立つたのですが、左側には例の大きな雲がまだあるのです。その雲から母船が出てくるのではないかと思ひながら、私が立つたのとほとんど同時に、その雲の下から徐々に徐々に月が出てきたんです。

それが普通の月ではなくて、なんと五倍の大きさがあるんです！ものすごく大きいのです。そして完全に金色

に光っているのです。

その最初の出方は今思うと面白いのですが、人を驚かしてやろうという感じではなくて、隠れん坊をした子供がそつと覗き見をしている、というような、すごくあどけない感じでした。

本当のまん丸い金色の物体が出て来まして、母船ではなかったけど、すごいなあと思ひました。約一〇分ほど見ていましたが、まわりには向こう側に人が二〜三人歩いているのですが、誰も見ていません。

その物体は徐々に徐々に右側へ移動するんです。そして移動するたびにほんの少しづつ小さくなってゆきます。そして最後には右側の端っこの方で普通の月の大きさになりました。

私はそんなすごい物を見たというところで、あれは一体何だったのだろうかと考えていたのですが、今回、久保田先生が「それは月に偽装したUFOだ」と教えて下さいました。

(編者注) 月に偽装したUFOは以前に静岡県の朝霧高原で多数のGAP会員が白昼目撃しているし、編者も別な場所で見ることがある。それは筆舌に尽くしがたい凄まじい光景に展開していった)

宇宙空間を昇る不思議な体験

四月の東京月例会の先生のお話で、「宇宙空間は生きた細胞の集合体である」という説明を聞きました。リヴィ

ング・セルズという言葉に播さぶられまして、あとで先生に手紙を書かせて頂きました。

それは私がGAPに入ってからもう頃でしたが、主人が仕事の関係でシャリー・マクレーンの『Out on a Limb』のビデオを見るかと言うのです。私はあまり良い印象を受けなかったために「見たくない」と答えました。

しばらくしたら週刊誌のビデオ評に「このビデオには輪廻転生とUFOが出てくる」と載っていましたので、見てみようかなと思ひ、主人に頼んで持ってきてもらいました。

すると、本のなかでもクライマックスシーンらしいのですが、彼女の先生になる人とインカの岩風呂のようなものの中に入って行きました、トランス状態になってゆくんです。

そして宇宙空間を昇って行きました空間の中で体を横たえるのですが、そのとき彼女の体に金色の紐が繋がっているんです。

その金色を見たとき、「ああ、私はこれを見たことがある！」と突然思ひ出したのです。つまり私がそれを知っていたということなんです。

日本GAPに入会する一年くらい前ですが、夜寝ていまして、私が誰かと話しながら宇宙空間を昇って行くのです。そしてその「誰か」がふつといなくなつたときに私だけが宇宙空間にいるのですが、それは素晴らしい光景で

した。

星が沢山あり、下の方には金色に光っているものがあります。たぶん地球だったのでしょう。まわりの雰囲気は先ほどの「生きた細胞」とも言うべきもので、非常に温かくて、柔らかいのです。「まあ、なんて素晴らしいの！」と叫びました。たぶん宇宙飛行士の方がよく体験されるのと同じだったと思います。暗黒の宇宙ではないんです。冷たい空気というようなものではありません。「わー、素晴らしい！」と言って、ふと自分の下の方を見ましたら、自分の体と地球とが金色の紐でつながっているんです。

それから一呼吸して、寝ている自分に戻りました。その戻った瞬間が分かるんです。

あとで、あれは一体何だったのだろうと思いました。確かに夢ではなかったし、自分は体験したのだけれども、よく分からなかったのです。しかし、しばらくしてから、あれは夢だったのだと、無理やり思い込んで忘れてしまいました。それを思い出したというわけです。

コスモスの花が応答

その手紙を先生に書いているうちにまた一つの事を思い出しました。

私がまだ中学生の頃でしたが、玄関の庭先にコスモスの花が沢山咲いていました。そのコスモスに向かって心の

中で「綺麗だね、可愛いね、とても素敵だね」と語りかけたんです。

そうしたら、そのコスモスの一つがクルツと首を動かして、横の二つがフッフッフと動いたんです。

それからしばらくして玄関の戸を開けた途端に、今度は沢山のコスモスが一遍にザザッと動いて倒れたんです。後にもう一回倒れたことがあります。

私はなぜ倒れたのかさっぱり分からず、すごく衝撃を受けて、「花が倒れた」と自分で思っていました。

二〇歳ぐらいまではそのときのことを覚えていましたが、それ以後は忘れてしまいました。

朝の犬の散歩に出たとき、道の横に立っていました。私はコスモスのことを懸命に思い出そうとして頭がボーッとなっていました。

すると向こうの方向から言葉が入ってきました。「今日は全く天気がよくて気持ちがいいなあ」という言葉です。「えっ？」と見ましたら、ちょうどお寺の向こう側に満開の八重桜が咲き誇って、上に向かってフッフッフと言葉を言っているんです。私は感激して、「そうねえ」と言いながら桜と一緒にになった気持ちで喜びました。

不思議な夢

六月一三日には別のことで先生にお手紙を出しました。それは先程一二月二三日テレビの観測会で秋山（真人）

さんにお会いしたと申しましたが、あのとき秋山さんとお話ししていたときに秋山さんは胸の所にクリスタルのペンダントを下げていらつしやつたのです。そのとき私は自分では言うつもりではなかったのですが、言葉が思わずポコッと飛び出たのです。

「アダムスキーも水晶の玉を持っていたね」

すると秋山さんは「いいえ、アダムスキーは玉ではなくてペンダントです」とおっしゃつたのです。それで私は「えーっ」と思いました。

少し前のことですが、朝方に夢を見たのです。でも寝ていてはつきりと声を聞きました。手と手が見えて、その真ん中に水晶の玉が真ん中にあつて、「アダムスキーに渡された」という声から聞こえたのです。しかし私としては前からそれに関する知識があつて、そのためにも書いてないんです。

久保田先生にお聞きすれば分かるでしょうが、もしお聞きして「アダムスキーはそんな物を持つていなかった」と言われたら、自分が否定されたような気持ちになりますので、恐ろしくしてお聞きできなかったのです（編者注：この時点まで郡司さんはアダムスキーの水晶玉に関して全く知らなかった）
そうしましたら、五月の東京月例会

の会場で買いましたユーコン九号の裏つかわの方に、アダムスキーはインディアン女王から水晶の玉をもらったという記事が載っていました。それを見て「やつぱりそうだったのか！」と、先生にお手紙を書きました。

そのような事があつてから三日後に篠さんからお電話を頂いたんです。それは今回のお話をするように（七月の東京月例会で会員体験講演を行なうこと）というご依頼の電話でした。ですから、これはぜひとも皆さんにお話しするべきことだと思いました。

アダムスキーが語りかける

次にお話しすることは私自身がパニックになりました、まさか私にそんなことが！というような事なのです。これは私にとつて非常なプレッシャーがあつたのです。

さきほどお話ししましたクリスタルペンダントに関する手紙を書いたから一日半ぐらいたつた昼間のことです。ついにながら私はアダムスキーという名前は子供の頃から知っていました。小学校の五年生だつたと思いますが、朝日小学生新聞というのをとつていて、その別冊でいろいろと趣味の本があり、その中に空飛ぶ円盤の特集があつたのです。アダムスキーが別な惑星の方に会つたという事も書いてあつたと思います。マンテル大尉の事件とか、その

他いろいろと書いてありました。

その頃はまだライカ犬が宇宙を飛んでいなかったと思いますが、空飛ぶ円盤に対して非常に好意的で優しい書き方がしてありました。

(編者注) 一九五七年二月三日、ソ連は世界で二番目の人工衛星スプートニク二号に実験用のライカ犬を乗せて打ち上げた。ライカ犬というのはブルドッグ型で、シベリア特産。この犬は人類に奉仕するために命を捧げたのであると『第二惑星からの地球訪問者』の中で異星人がアダムスキーに語っている。

その手紙を出してから一日半ほどしてから九九号の写真、つまりテレホンカードに載っているアダムスキーよりももつと若い写真を見て突然波動を受けたのです。

私が波動を受けたという場合は、アダムスキー全集などを読んでいるときに、ある言葉の所で文字がクラクラッとするんです。そして私自身の内面もクラクラッとしますが、そういうことを何度か経験していますが、そのときもアダムスキーの写真を見たときにもクラクラツとして、「この人には会ったことがある。知っている！」という感じがしたのです。

ある夜、寝る前に、どうしらいいか分らず、せつばつまった状態で寝たのです。そうしたら、目の前に一人の顔が現れたのですが、「私はアダムスキ

ーだ」と言ったのです。

その方はすぐ優しく愛情が深く、難しいところのない温かい人でした。

その人が最初に言った言葉は「何々は何かであつて何々である」という形で言葉だつたのですが、その言葉は今どうしても思い出せませんけれど、なぜ思い出せないかと言いますと、一つは言葉の視点が地球人とは違つていたことにありました。すごく優しいフィードリングです。

そのあと、「私は金星にいる」と言つていました。最後の場面はすぐそばにアダムスキーが立つていて、地面があつて、すごい紺色の空で、上の方が白っぽくなつていようような空が見えました。私はその夢をみながら「ああ、これは金星の朝なのだ」と思つたのです。

次の日の朝、朝ご飯の支度をしながら主人に「昨夜は素敵な夢を見たのよ」と言いますと、主人は私の嬉しさが移つたのか「そうか」と嬉しそうに言つてくれました。

その夢には紺と金色のイメージがありまして、体の細胞が上から下までピチツと締まつたような、凄く気持ちのよい感覚がありました。今までこんな素敵な夢はみたことがない、という感じでした。

二三日たつてから、なんであんな夢を見たのかと自分で考えてみたくて、その夢を見る前にアダムスキー型

円盤というのがすごく好きになつちやつて、よい言葉だなという感じはあつたのですが、それだけでもつてあの夢を見た理由がないんです。

というのは、私は完全に夢だと思つていたのですけれども、金星に人が住むなんて信じられなかつたからです。UFOが来るといっても、どこか遠い天体からやってくるのであつて、金星などは科学でいろいろと調べていますので、人がいるなんて、自分自身の発想からして全然出てこないんです。

たぶん私が困つて苦しんでいたから神様が良い夢を見せてくれたんだと思つていました。

このことを考えていましたときに、別の夢を思い出しました。私が高一か高二のときに私がこの状況を夢に見たのだからと思つていました。

というのは私が人前に立つて話をしている夢だったので。それは自分の未来のことだということがそのときに分かつたのです。自分が先生になるのかしらと思つていました。その頃私が人前に立つて話をするなんて考えられない性格だつたので、絶対に嫌だと思つて教職課程も取らなかつたのですが、今考えてみますと、このこと(東京月例回で講演すること)だつたのかと思つて、スペースプラザーズに向つて感謝すると同時に「もし私に役目があるのでしたら、務めさせて下さい」という想念を送りました。

UFO

宇宙からの 完全な証拠

金星、火星、月に関する真相
●ダニエル・ロス／久保田八郎訳

連載第13回

第11章 生命に満ちた太陽系

時代遅れの教科書科学者

金星、火星、そして月——これら我々の近隣惑星は、地球から近いためにその居住可能な環境を観測し易いという点で、とても重要な天体である。

以前からこれらの惑星はUFOの故郷、あるいは基地であると考えられていたため、一九六〇年代および七〇年

一つは、いわゆる正統派科学者達が、それまでに自分達が慣れ親しんだ固定観念から脱却するには能力不足だったこと。

そしてもう一つは、宇宙計画に関わったトップ高官たちにより、徹底した秘密主義と検閲主義が行使されていたことである。

ところで、この太陽系内にあるその他の惑星群はどんな環境を持つのだろうか？ それらの惑星にも人々は住んでいるのだろうか？ 地球とよく似た環境で、もしそこに行ったら、私達は宇宙服無しでその表面に立つことが出来るのだろうか？

ジョージ・アダムスキーは、かなり早い時点から、スペースビープルからの直接の情報を基に、それらの惑星群にも人々が住んでいることを主張していた。

一方、教科書科学者達やジェット推進研究所のスタッフ達によると、それはあり得ないことだということになる。しかし、彼らの主張は、ただ古臭い伝統的理論を基にしたものに過ぎず、その主張を裏付けるに足る科学的なデータ類を彼らは一切持っていない。

つまり、これまで地球からの探査機がそれらの惑星の大气の下に入ったこととはなく、それらの表面に達した観測装置も皆無であるため、科学者達にとって、それらの惑星の環境を正確に知る術は全くないというのが現実なのである。

さらに、太陽エネルギー、重力、磁場に関する真の知識を持たない彼らの推測が、常に真実から掛け離れたものとなりがちであることは否めない。

これまでの宇宙探査で、それらの惑星群に関して成されたことと言えば、ほんの瞬間的な通過時に、遠距離からの極めて初歩的な写真を撮ったことだけである。

例えば、ボイジャー探査機が木星と最近近したときの距離は、二十六万七千キロメートルもあった。それほど距離からの観測結果など、単なる仮定以外の何者でもない。

そして、地球上空のUFOに関する事実、および、金星、火星、月に関する真実を知らない科学者達が、さらに遠くに存在する他の惑星群に関して何を論じようとも、そんなものを受け入れなければならぬ理由は一つも存在しない。彼らの推測は、今や科学的ドグマとなつてしまった古臭い理論の単なる延長でしかないのである。

彼らの理論を証明する科学的データは何も存在していないのだ。そしてもちろん反証するデータも存在していない。つまり、水星、木星、土星などの環境は、科学的にはまだ何も分かっていないと言つていいのだ。土星以遠の惑星群についても同様である。

水星は太陽に最も近い軌道を回る惑星であるが、この天体に関して論じる

代の米宇宙計画では、これらの惑星の探査や写真撮影が徹底的に行なわれた。

その結果、本来であれば、これらの惑星群における生命存在の事実は、明らかかな事実として、全ての人々の心に何年も前から定着していかるべきだった。

しかしながら、次の二つの理由により、その正しい知識の定着は完全に阻まれてしまった。

ためには、まず、宇宙空間におけるその相対的位置関係およびサイズに関する正しい理解を得なければならぬ。

様々な本、教科書、雑誌等載っている太陽系の略図は、限られたスペースに収めなければならぬために、ほとんどの場合は不正確で、水星と太陽が極めて接近しているような印象を与えがちである。

しかし、太陽から水星までの実際の距離は、五千四百七十万キロメートルもあるのだ。

太陽系の姿

次に広い運動場に、太陽系の正しい姿を再現してみよう。

まず、太陽を既定サイズのバスケットボールだとする。すると、地球はそこから二七・四メートル離れた地点にあるBB弾ということになる。その場合水星は、バスケットボールから一〇メートルの距離にある、やや小さめのBB弾である。さらに、金星は一九・八メートル、火星は四〇メートル離れた位置にあるBB弾ということになる。ちなみに、BB弾の実際のサイズは●である。一度目をつぶって、それぞれの天体の位置及びサイズを良くイメージしてみたい。

バスケットボールから一〇メートルの距離にあるBB弾が水星だとすれば、そのサイズと距離を考え合わせるとき、

宇宙空間における両者の距離が、決して至近距離だとは言えないことが良く理解出来るよう。

一般に、水星の表面は月に良く似ており、その内部は地球に似ていると言われている。

また一九六二年には、電波天文学者たちにより、この天体の夜側の半球の表面がかなり温かいことが突きとめられた。その現象はまさに、昼側から夜側に熱を運ぶ大気存在を示唆するものである。

さらに詳しい電波観測により、水星の薄い大気存在が確認された。それは、月の大気観測に用いられたのと同じ方法によって求められたものである。ということは、月の場合と同じように、今後より進んだ観測法が開発された場合には、その濃度の数値がかなり上方に修正されることになるのは間違いない。また、水星の正確な大気の濃度が判明することになれば、そのとき私たちは、その表面気温がとても温暖なものであることも同時に知ることになるだろう。

マリナー10号の水星探査

これまでの米宇宙計画では、水星に向けてわずかに一機の探査機を送っただけである。その宇宙船マリナー10号は、正確な軌道に乗り、一九七四年三月から一九七五年三月までの一年間の

飛行中、水星への三度の接近を果たしている。

それら正味一日半の接近飛行は、この惑星を初めて間近から眺めることを可能とした。そしてそれは、水星の磁場、および、それと太陽風の相互関係を調査する良い機会だった。

この調査飛行ではまた、電波天文学で確認されていた、微かな大気が、より正確に探知されるものと考えられていた。しかし、マリナー10号の観測装置が大気による効果を探知する能力に欠けていたのか、あるいは、NASAが意図的に水星大気存在を隠したのかは定かではないが、結果的には、月のときと同様、NASAは水星大気存在を全面的に否定したのである。もしそこに大気がなければ、この天体はとうの昔に崩壊し、宇宙のチリとなっていたはずなのに……。

マリナー10号は、常に水星の夜側を通過する軌道にあつたため、最接近時の写真撮影は出来ず、撮られた写真は全てかなり遠方からのものばかりだった。実際、その軌道は水星の明るい表面を撮影する上では最悪のものであり、それによってジェット推進研究所の科学者たちは極めて困難な想像を強いられることになった。

さらに、X線発信器搭載の要求を議会が経済的理由で否決したことにより、撮影された写真の解像度も、とても満足できるものではなかった。マリナー

10号の撮影した写真群を見るときには、これらの事実を充分に考慮する必要がある。

それらの写真は白黒で、一般に流布する月の写真と極めて似た情景を映し出していた。

マリナー10号が観察したのは昼側の半球のみで、まず最初の軌道周回中に二枚の全体写真が撮影された。一枚は、水星に向かう途中、一九七五年三月三〇キロメートルの彼方から、もう一枚は、水星を通過後、二〇万九〇〇〇キロメートルの彼方から撮影されたものである。

表面の接近写真群は、探査機がこの惑星まで一七七〇〇キロメートルの空間に接近したときと、その夜側を通過した直後に振り返るようにして撮影されたが、それらの写真に現れた水星は、初期のレインジャー探査機が撮影した月の姿と生き写しだった。

この探査機は六カ月後の一九七四年一月二一日、水星に二度目のアプローチを果たしている。そのときの最接近距離は、四八〇〇〇キロメートルだった。

そして一九七五年三月の最終アプローチ時には、九六〇〇キロメートル以内にまで接近している。そしてその時に撮影された写真は、かなりの至近距離ゆえにやや進んだ解像度を示していたが、地球のアンテナ装置の故障があったというので、その撮影範囲は極



▲筆者ダニエル・ロス氏とパメラ夫人。

めて限られたものだった。
しかしながら、その内の二〜三枚の
写真ではほぼ三キロメートルのま
でが確認出来、ある地域の、現在
は干上がっている河川、あるいは水路の跡
が明確に確認された。

しかし、正統派科学者達は、
「写真に現れたこれらの地形は、流砂現
象により形成されたもののようなだ」
などという、相も変わらぬ全くおか
しな解釈に終始している。
その他の接近写真群には、平原、ク

レーター、入江などが散在する、月の
表側と極めて良く似た情景が映し出さ
れていただけだった。

驚くべきパウ・シヨック

しかし、この探査で科学者達が特に
驚いたのは、水星の予想以上に大きな
「パウ・シヨック」であった。

惑星の持つ磁場には、太陽の破壊的
エネルギーから惑星を守るシールドの
役目があり、その存在ゆえにいわゆる
「パウ・シヨック（太陽風が磁気圏とぶ
つかつて起こる衝撃）」が発生する。

科学者達は、水星のそのパウ・シヨ
ックの大きさが、地球のそれに匹敵す
るものであることを発見したのだ。

しかしその他の多くの観測結果は、
それとは極めて矛盾した結論を導き出
していた。そして結局、水星の磁力の
強さは、地球のパーセントというこ
とにされてしまった。

しかしながら磁場や重力に関してま
だ充分な知識を保有していない地球の
科学者たちの作った観測装置が、正確
な磁力を特定することなど、どだい無
理だと考えるのが筋というものである。

また、写真撮影の結果、六カ月周期
の三度の接近時に、水星が常に同じ半
球を見せていたことから、この惑星の
極めて遅い自転速度（五十九日）が確
証されたとも報じられた。

それは確かに、水星は太陽を二周す

るあいだに三回の自転をしているとい
うこれまでの理論、つまり、「二対三理
論」を見事に証明しているようにも見
える。しかしながら、もし自転周期が
三の倍数であるならば、たとえそれが
どんなに大きな数であっても、六カ月
周期の接近時には常に同じ半球を見せ
ることになるのだ。

強いパウ・シヨックは、強い磁場と
太陽風との相互作用で発生し、天体の
強い磁場は、一般にその天体の早い自
転によって作り出されるとされている。
その観点からすれば、科学者たちの唱
える「水星の遅い自転」説は、極めて
矛盾したものに感じられるのだが。

大衆は、写真付きで雑誌などに紹介
される宇宙探査の最終結果のみを知ら
され、それをまるで宇宙からの「生中
継」であるかのように考えてしまう傾
向にある。

しかし、実際に使用されている探査
装置類は、大気振動、電波、太陽エネ
ルギー、磁場、宇宙線群を正確に探知
するにはあまりにも幼稚なものであり、
その探査活動は、まさに暗闇の中を手
探りで探検しているに等しいとさえ言
えるのである。

写真撮影技術一つをとっても、惑星
表面の明るさの強弱を、限られた性能
の装置が電子探知して微かな信号とし
て地球に送り、地球のコンピュータ
が画像処理するというものである。

様々な装置が、曖昧な探知結果を、

極めて微かな信号として、とてつもなく遠い宇宙の彼方から送っているのだ。あまりに微かなために、それらの信号を宇宙自身が発している通常の電波ノイズと区別するのさえむづかしいと言われる。ときには、地球の受信装置の発する高周波ノイズとの識別さえも困難なことがあるという。

程度の低い観測装置

マリナー10号のある紫外線分光器による観測結果が、8スキャンの信号で送られて来た。そしてその信号は当初、水星の月の存在を示すものと解釈された。そのとき計画に従事していた科学者達は、水星を回っている月を発見したと色めき立ったが、それはまもなく、何光年も彼方に存在する、五等星ほどの輝度で輝く全く別の星からの電波であることが判明したのだ！ これまで様々な惑星の大気の「主観的分析」に用いられて来た装置類の性能は、せいぜいこの程度なのである。

我々の宇宙探査機は、全く未知の世界において、広大で複雑な惑星の磁場、重力場の中に存在するほんの一部の波動を捕らえているにすぎないのだ。あの振動数が微かに探知され、その結果が微弱な信号として地球に送り届けられる。そしてその信号を、正統派理論を徹底して教え込まれた科学者達が解読するのである。

我々の宇宙探査は、暗闇の中の手探りの探検にすぎない。それはまさに水の分子構造を、電子顕微鏡ではなしに虫眼鏡で観察しているようなものなのである。

写真26(原書)に示したマリナー10号撮影による水星の写真は、月の写真と極めて類似したものである。事実、その環境は月の環境ととても良く似たものかもしれない。

しかし、読者もお気づきのようには、月には、NASAはまだ否定しているが生命を保持する環境と進歩した文明が存在するのだ。もし月の完全で正しい姿を宇宙局が発表するようであれば、彼らが水星に関しても正しい情報を我々にもたらすであろうことを期待してもいいだろう。

より進んだ探査機を送ることに、月におけると同様、水星においても、そこが居住に適した環境であることが判明するはずである。

マリナー10号の探査能力では、水星の生命を正確に肯定することも否定することも出来なかった。純科学的観点から言えば、それに関してはまだ何も分かっていないと言っている。

しかし、虫眼鏡では見えないものを電子顕微鏡では見ることが出来るように、探査装置の性能がやがて一万倍も進歩したならば、そのとき我々は、水星の本当の姿を見ることが出来るだろう。木星、土星、さらにその他の惑星

群に関しても同様である。

ドレイクのすぐれた研究

W・R・ドレイクは、数々の古典文学や古代書物の中に、水星に関する多くの記述を発見している。

まず、聖書から削除された記述の一つである『エノクの書』には、エノクが宇宙空間に運ばれ、水星を含む様々な惑星に連れて行かれた様子が記されている。そしてその宇宙旅行で彼は、太陽系全体の姿やその動きに関する説明まで受けたという。

さらにこの『エノクの書』には、地球が球形をしており、地軸がどのようにかたむいてるかに関する記述も見られる。こういった知識は、宇宙の進んだ文明との接触なしには、絶対に得られないものである。(W・R・ドレイク一九七五年著、『過去の記録に見られる神と宇宙人』四一頁)

エノクは、スメリア文明の発祥期における偉大な予言者としての道を歩んでいる。

紀元前四〇〇年ごろに活躍したインド人のサンスタリット文法学者で歴史家としても知られるパーニニは、自分を含む何人かの人々が、友好的な宇宙人達に連れられて水星と金星を訪問したときのことを書き記している。(W・R・ドレイク一九六八年著、『古代東洋における宇宙人』六五頁)

一八世紀の優れた哲学者、科学者、神学者、天文学者としても知られる、エマヌエル・スウェーデンボリ(スウェーデンボルグ)は、幅広い分野における科学的発見および様々な理論構築等の偉大な業績をなし遂げたあとで、彼の知識はテレパシク直感によりもたらされたもので、それはもとを正せば水星人たちから送られて来たヒントを傍受したものであることをほめかしている。(W・R・ドレイク著『過去の記録に見られる神と宇宙人』二二七頁)

一八六六年、三人のプロ天文学者たちは、水星の夜側の半球に説明不可能な光を発見しているが、M・K・ジェサップは、その光を、月面付近で観測されつづけている光点群とおなじように、水星の表面付近で輝くUFOであったに違いないと結論付けている。(M・K・ジェサップ一九五七年著、『増加するUFO目撃』一三六頁)

これらは水星に関して遠い昔から記録されて来たことのほんの一部である。水星が生きた惑星であることを知り、それを直接あるいは間接的に主張していた知性溢れる人々が、過去に数多く存在したのである。

近年の宇宙時代を迎えて、他の惑星群における生命存在の可能性が、再び大きく取り沙汰されるようになった。そして現在、トップ高官達は、それらの惑星群における生命存在の事実、中

でも金星と火星における生命存在の事実に関しては、より強い確信を持つに到っている。

しかしこの世界はまだまだ学ぶべきことが多い。地球人類は、未だに創造の神聖なる目的に思いを馳せることを笑い飛ばし、銀河内の一点にすぎないこの地球から数光年以内の天体には生命など存在しないと考え、あげくの果てには、輝くばかりに美しいこの惑星を核の脅威にさらすことまでしている。今や、地球人類の心は、宇宙の原理および直感から著しく分離した状態にあり、それを知的だなどとはとても言い難い。

中世的な科学界

これまでに木星と土星に関する書物も数多く書かれてきたが、それらもやはり、いわゆる信仰的な理論に基づいたものがほとんどだった。これらの惑星は液体の核を持つ大量のガスで出来ているという学説が、一般天文学界で永遠に犯されることのない疑問の予知のない大原則となってきたのである。

科学界の体質は、まさに中世的だと言つてよい。科学界の神学者、つまり権威ある科学者の唱えた学説が、絶対的真理として教えられてしまうのである。

そして、一度科学者として報酬を得るようになると、彼らは次々と論文を

発表する必要に迫られ、権威ある学説に基づいた、意味のない、くだらない内容の書物を世の中に氾濫させることになる。仮定の上にさらに仮定を積み上げてゆくうちに、彼らの真実追求の意欲は徐々にその勢いを無くし、やがては皆無となつてしまう。

アインシュタインは言っている。「実際、現代の教育法が、人々の真実追求の神聖なる欲求を未だに圧殺し尽くしていかないことは、まさに奇跡だと言つてよい」

偉大なるドイツの思想家ゲーテは、こう述べている。

「いわゆる教育なるものは、能力を秘めた者を無能者に仕立て上げるべく考案されたものに他ならない」

木星と土星に関する学説は今日になつても変わることなく、パイオニア及びボイジャー探査機による写真撮影が、それをより一層補強する役割を果たした。

特に、頑丈な船体を持つボイジャー探査機にはより優秀なカメラが搭載されていた。ボイジャー一号が木星まで二六万七千キロメートル・ボイジャー2号が土星まで一〇万一〇〇〇キロの空間を通過して写真撮影を行なったのは一九八一年のことだった。しかしほとんどの写真は、それらの最接近時から遙かに離れた地点に置いて撮影されたものである。そして木星の写真群には、コンピューター処理によつて誤つ

た色彩が施された。

もつともそれらの写真群により、私達は、両惑星の月の接近像や、土星の輪のより詳細な姿を見ることは出来た。公表された木星のボイジャー写真群には、明るいオレンジと赤の縞模様が見られるが、それは、木星の「荒れ狂う大気」の一般的固定観念を支持する目的で、極端に誇張されたものである。

宇宙空間から見える実際の木星の色は、柔らかなブルーと黄色であるというところが、カリフォルニアの天文学者アンドリュウ・ヤングによつて確認されている。彼は、「サイエンス・ダイジェスト」一九八五年九月号に、その記事とともに、自分が入手した木星と土星の最も真実に近い姿を映し出した写真を紹介している。

一般に知られているのとは違い、実際には、この両惑星とも厚い大気に覆われた固い表面を持つ天体であり、表面の様子は地球とあまり変わらない。しかし、これらの惑星に関する古典的理論を正しいものと置き換えるためには、電磁場や宇宙科学に関する大幅に進んだ知識が要求される。

アダムスキーの太陽系の説明

ジョージ・アダムスキーは、これらの惑星及びそれ以外の遠くの惑星群の居住可能性に関して完璧な説明をしている。彼の著書、『UFOの謎』（新アダムス

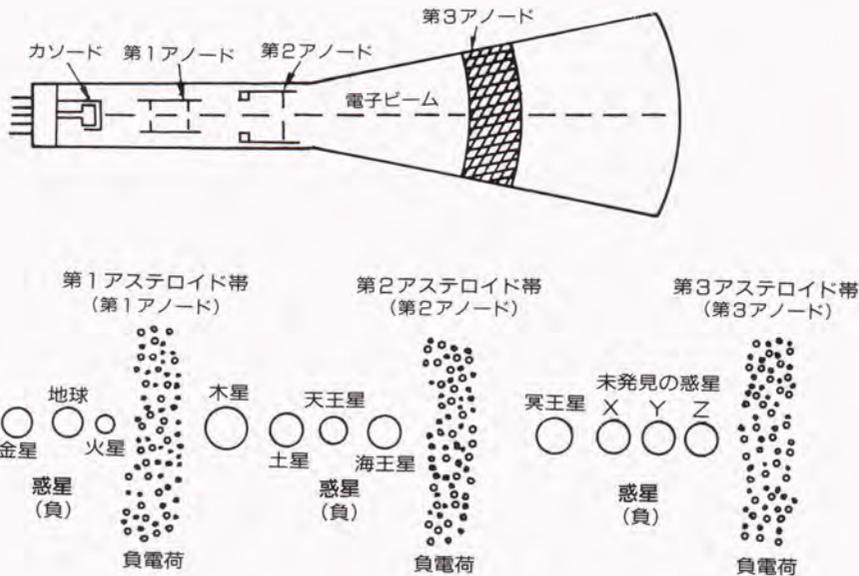
キー全集第六巻）からその箇所を抜粋して次に紹介したい。

「私が宇宙に関する講演をするときにもつとも頻繁に出される問題の一つは、地球よりも遠い惑星には光と熱が欠けているという科学者達の主張である。彼らが私に反対する理由は次のとおりだ。

つまり、あまり距離が遠過ぎると太陽の放射線は極端に弱くなるので、たとえば冥王星などは完全にゼロかまたはそれに近くて、大気は極寒となり、いかなる種類の生命体も存在することは絶対に出来ないというのである。他の惑星から来た人と私が会つたということに対して疑問が持たれるときに、以上の問題が私に投げかけられる主な疑問である。

まず最初に気づかねばならぬのは、太陽は我々が地球上で見えるような形で光と熱を放つているのではないということである。太陽の放射線は、惑星の大気圏へ入って来るまでは、それ自体を光や熱としてあらわしてはいない。大気圏外は我々が知っているように光に欠けている。大気圏外の光は、太陽から放たれる放射線にこたえる微粒子とガスの巨大な雲の燐光に起因する冷たい光なのである。人間の目にとつて大気圏外宇宙空間は多彩な光を帯びた無数の小さな斑点で満たされた暗黒の広大な空間のように見えるが、この小さ

ブラウン管と太陽系との比較図



な斑点はすべて絶え間のない運動と活動の状態にある。太陽の放射線は紫外線、透過力の大きいまたは小さいX線、宇宙線やγ線などで構成されている。これらの破壊的な放射線の大部分は、惑星の電離層と大気圏の上層部によって濾過される。惑星の大気中の無数の微粒子は、その濾過された太陽の放射線によって刺激されると可視光線を放つのである。大地はこれらの放射線を吸収し、かわりに赤外エネルギーを放つ。こうして放たれるエネルギーが惑星を直接取り巻いている大気を活性化し、それによって熱が生じ、これが惑星を温かく保つのである。

太陽から出るエネルギーがどのようにして地球を取り巻くことができるかを知るのは容易である。我々は太陽からわずか九三〇〇マイルしか離れていないのだ。しかし、太陽からもっと遠方にある惑星はどうだろうか？

標準的な教科書によれば、太陽の放射線の強さは、距離の二乗に反比例して弱まって行くという。素人の言葉で言えば、これはもし太陽からの距離が二倍になれば放射線の強さがわずか四分の一に減ってしまうことを意味する。さらにその距離を二倍にすると放射線の強さは一六分の一になってしまう。もし太陽の放射線が実際にこの割合に弱まって行くとすれば外惑星群は確かに永久に極寒の状態にあるだろう。それでは真相はどうか？ 私は個人

的な体験からしてこれらの外惑星群にも我々の地球に似た気候や大気があって文明が栄えていることを知っている。土星や木星のような大きな惑星は、これまで地球の科学者によって推定されていた引力よりもはるかに弱い引力を持つているのである。したがって地球人の引力の説明はある点で間違っているのだ。

さて、この主な問題は引力ではなくて気候に関することである。地球に似た状態で存在するためには、これらの惑星群はどのようにして太陽のエネルギーを充分に受けるのであろうか？ この回答の手掛かりは真空管の中に見い出される。もっと正確に言うと、それはブラウン管の中にある。CRTと略されているこの管は普通の家庭テレビ受像機の中に見られる。この管の中にはヒーターがあつて、それがカソード(陰極)の温度を上げて、カソードが莫大な量の電子を放つのを助ける。電子の性質は負である。正の高電圧が管の中の種々のグリッドやアノード(陽極)に供給される。

電気には正(陽)と負(陰)の二種類がある。電子は負であり、その片割れである陽子は正である。磁石の北極が他の磁石の南極を引き寄せるように、陽子は電子を引き寄せる。磁石の同じ極同士は互いに反発するが、電気でも同じ電荷はやはり反発する。同類は相反し、異種は互いに引き寄せ合うので



▲ラジオに出演するアダムスキー。

ある。

ブラウン管のグリッドとアノードの正の高電圧は、カソードから出る電子を引き寄せる。すると電子は高速度でアノードの方へ引つ張られるが、しかしこのアノードのある構造のために、ほとんどの電子はそれを通り抜けて次のアノードの方へ直進する。理論上で

は、これは種々の異なるアノードと正の高電圧を用いることによって非常な遠距離にまで及ぼすことが出来るはずである。

水星、金星、地球、および火星は十分な放射線を受けるほどに太陽に近いけれども、火星より遠方の惑星になる状況は違ってくる。このような距離

では太陽の放射線も弱まり始めているからだ。しかしこのときその放射線は、太陽系の中心部を完全に取り巻いている第一アステロイド帯によって作り出されるすさまじい吸引力の影響下に入ってくる。そのアステロイド帯の負の電荷は、太陽から来る微粒子を引き寄せるほどに強力であつて、しかもその微粒子を加速して元のスピードに戻す。このアステロイド帯は構造上グリッドに似ていて、無数の隙間や通り道を持つており、空気を流通させる窓の金網に似ているので、微粒子はこれを通り抜けて直進し、次の惑星群の影響下に入るのである。

他のあらゆる惑星がそうであるように、これらの惑星群も本来は負であるので、光と熱を得るのに必要な正の微粒子を宇宙空間から引き寄せる。と同時に無数の同様な微粒子が惑星群を通過して海王星と冥王星の間にある第二アステロイド帯に引き寄せられ、ここでも同じ過程が繰り返される。このようにして冥王星と最後の三つの惑星群にも普通の光と熱が与えられるのである（異星人から聞いたところによると我々の太陽系には全部で一二個の惑星が存在しているということである）。

第三のアステロイド帯は一二番目の惑星の外側にあつて、この太陽系内の空間と近隣の太陽系群の空間とを混和させるための二重の役割を果たしている。と同時にそれは保護フィルターと

して役立っているのであつて、ちょうど惑星を取り巻いている電離層にたとえることが出来るのである。

以上を次のように要約することが出来る。つまり、内側にある二つのアステロイド帯は太陽から来る放射線を集めて、それを加速して外側の空間へ送り出す。いわばこの二つのアステロイド帯は水星のあるあたりから太陽系の最も外側に至る範囲の諸条件を等しくするのであり、第三番目のアステロイド帯は我々の太陽系を他の太陽系群と均衡のとれた状態に保っているのである。地球人がこれまでに気づいていなかったこの宇宙活動のために、我々はこの惑星にも行くことが出来るし、そこで地球に似た大気や気候を楽しむことが出来るのである。

この議論に引き続いてジョージ・アダムスキーは、アステロイド帯が太陽エネルギーの一部を捕らえると同時に粒子群にそこを通過するためのエネルギーを与えることによって、いかにしてある種の誘電体としての働きを遂げるかについて説明している。このいわゆる「交流発生機能」は、アステロイド帯が電磁気エネルギーの「孵卵器」としての役割を果たすことも可能としている。

ボイジャー号の発見

こういったエネルギーシユな活動を
つづけるアステロイド帯をもし宇宙探
査機が通過したならば、そのときそこ
ではかなり大きな運動エネルギーが温
度として探知されることになる。

事実、一九七八年に、ボイジャー1
号が火星と木星間に存在するこのゾー
ンを通過しているが、その探査機はこ
のゾーンを、それまでに観測された太
陽系内の最も高温のスポートであるこ
とを報告して来た。ボイジャー1号の
探知した温度は、太陽表面の温度の少
なくとも一〇〇倍はあるというものだ
ったのである（『サンフランシスコ・ク
ロニクル』紙一九七九年六月一日）
ただし、それは運動エネルギー（カ
イネティック温度）を探知したもので、
一般に考えられるように高熱が存在す
るという意味ではない。なぜならば、
アステロイド帯の存在する宇宙空間は
ほとんど真空だからである。一方、太
陽の周囲には濃密なプラズマ・フィ
ールドが存在している。

アダムスキーが乗り込んだ宇宙船は、
金星と土星からの母船だった。そして、
それらの宇宙船内で彼が会った人々は、
地球が宇宙時代に向かわんとする時代
に我々を援助すべき最も大きな責任を
負っていた三つの惑星、つまり、金星、
土星、火星からの人々であった。

しかし彼は、この太陽系内には地球
を除く全惑星間の親密な協力体制が確
立されていることを聞かされた。さら

に、地球を除くすべての惑星が進歩し
た宇宙船群を持ち、人々が自由に宇宙
を飛び回っていることも聞かされてい
る。

アダムスキーが定期的にコンタクト
していたのは、主にこれら三つの惑星
からの人々であったが、彼はときおり
この太陽系内の他の惑星の人々との接
触も経験している。

一九五七年、メキシコ滞在中に彼は
その地で活動する異星人たちの訪問を
受けたが、その中には、木星からやっ
て来た人と海王星からやって来た人が
一人ずついたという。この情報は、ア
ダムスキーがヨーロッパのある文通相
手に手紙で洩らしたものである。その
中で、これまでに彼はこの太陽系内の
五つの惑星から来た人々に会ったこと
があること、さらに、それらの人々の
姿には、地球上の人種間に存在する外
見上の違い程度の差は存在するが、そ
の他の点に関しては全く相違がなかつ
たことを語っている。そして当然のこ
とながら、その二つの惑星から来た
人々がアダムスキーに与えた情報も、
地球を援助しようとする宇宙的活動に
則した普遍的内容のものであった。

先程も紹介したように、アダムスキ
ーは海王星、冥王星の外側にあつた三つ
の惑星が存在し、結局この太陽系は一
二の惑星で構成されていると指摘して
いる。この事実を始めて彼が知つたの
は、金星の母船内での会話中のことで
あつたが、その様子は、一九五五年出
版の『宇宙船の内部』の中で紹介され
ている。しかし彼のこの主張は、以後
二八年の間まったくかえりみられるこ
ともなかった。

新事実を隠すNASA

一九八三年一月、NASAは宇宙望
遠鏡——赤外線天文衛星（IRIS）を
上空九〇〇キロメートルの軌道に打ち
上げた。それによって、これまでは地
球の厚い大気に阻まれて不明瞭だった
宇宙空間の姿がより明確に観察出来る
ようになった。さらに、地球大気の妨
害を逃れたこの二二・四インチ望遠鏡
は、冥王星上の二〇ワットの電球の灯
さえ感知出来るほどの性能を保持して
いた。

打ち上げ後二〜三カ月間のコンピユ
ーター作動試験を終えたJPLは、同
年の夏前には、新しく発見した彗星群
や、小惑星群、太陽を取り巻くように
して火星と木星の間に存在する不思議
なチリの帯群等に関する簡単な情報を
流し始めた。そして同年の一〇月、報
道機関にある驚くべき発見事に関する

情報が流れたのである。

「天文衛星IRISは、これまでに太
陽を回る新しい惑星を少なくとも一つ
発見しようだ。来週に行なわれる予
定の天文学者たちのミーティング時
には、さらに多くの惑星群の存在が明ら
かにされるかもしれない。アリゾナ州
立大学の赤外線天文学者ニック・ゴ
ーチェは次のように語っている。IRIS
が冥王星、海王星の外側を回る一つ
あるいは二つの新しい衛星の存在を明
確にする確立は極めて高い。」
一九八三年、一〇月三十一日付『USA
トゥデイ』

報道機関が新惑星に関するそれ以上
の情報を得ることはなかった。NAS
Aは、一般天文学界がJPLをさてお
いて発見事に関する見解を公にしたこ
とに苛立ちを隠さず、その情報を流し
た科学者達を叱責し、以後、IRIS
の発見事に関する情報の勝手な公表を
固く禁じたのだ。そして以後のIR
ASの発見事に関する情報は、すべ
てJPLの公式発表を通じてのみとい
うことにされ、次の公式発表が行なわ
れた一二月まで、いかなる情報も外部
にはもらされなかった。

NASAは、公表されてしかるべき
ことの限界を明確に定義していた。公
式発表の席で彼らは、以前になされた
「非公式な発表」の内容をすべて否認



▲木星表面の一部分。アメリカの惑星探査機ボイジャー1号が480万km離れた位置から撮影した。右上の黒い大きな斑点が木星の大赤斑といわれるもの。

し、遙かかなたの銀河の世界に大衆の注意を向けようとして。IRASのデータから科学者達が解明し得たのはまだ全体の二パーセントのみであると言いつつも、彼らは、この太陽系の外には「果てしない驚きの流れ」が存在するとし、宇宙空間のチリやガスで構成された筋のような雲、宇宙全体の持つエネルギー、星々の形成の元になる未知の化学物質、様々な銀河の温度といったことに関する見解を声を大にして語ったのである。

この一二月の記者会見の席で、彼らは先の新惑星の発見に関する議論にも言及したが、それに関して彼らは、「二六光年先のかなたに存在する琴座の一等星ベガのまわりを回る惑星である可能性があり、まさに驚くべき発見である」としらじらしい説明に終始している。さらに彼らは、「そこに到達するには、我々の最新鋭の探査機をもつても二〇万年はかかる」と付け加えるのも忘れなかった。「我々が木造の人形でもないかぎり、それに胸を踊らせないでいるのは難しい」と述べたのはJPLのトップ・スポークスマン、カール・セーガンだった。

IRASのプロジェクト・ディレクター、ナンシー・ボグスは、「すべてのデータが解析された暁には、天文学文献のかなりの部分を書き直されることになるでしょう」と述べている。もつとも彼女は、IRASがこれまで一年

間に集めたデータをすべて解析するには、これから先三〇年程を要するであろう、とも述べている。

しかし、天文学の文献が我々の太陽系の真実を伝えるべく書き直されることはまず考えられない。宇宙発見事はすべてトップ高官達の検閲を受けているのだ。

IRASに関していえば、キット・ピーク天文台の天文学者たちは、冥王星に遠の惑星の発見事実を、その重要性を知らぬままに外部に洩らしてしまつたが、NASAはその重要性を充分に認識していた。そしてそれゆえに公式発表の席でそれをあつさりとは否定したのである。

一般の科学界は、権威によって明確に確証されないかぎり、それを決して事実として受け入れようとはしない。それを熟知しているNASAは、新惑星に向かいかけた科学者達の注意を、何十光年ものかなたの星座やチリの雲への不明朗の空想へと一挙に振り向けることを画策し、それに見事成功した。それと同時に、大衆や報道機関の新惑星に対する興味も、あつというまに消え失せてしまった。

IRASによる新惑星発見に、なぜそれほど重要性があるのだろうか？それは、一九五五年にジョージ・アダムスキーが提供した情報を確認するものだったからである。

本誌バックナンバー掲載記事目録

*印は絶版。在庫なし。お申し込みの際は郵便振替にて日本GAP宛ご送金下さい。バックナンバーに限り送料は不要です。

No.110 平成2年7月25日発行 ¥900

UFOの正体と観測の仕方——本誌編集部
 UFO・異星人との遭遇体験記——藤本定雄
 宇宙哲学で奇跡を起こして安全に生きる方法——久保田八郎
 西郷隆盛の最期を透視——遠藤昭則
 アダムスキー秘書との対話——向井 裕
 アメリカGAP発足ノ(完)——ダニエル・ロス
 UFO-宇宙からの完全な証拠⑩——ダニエル・ロス

No.109 平成2年4月25日発行 ¥900

豊かで素晴らしい他の惑星と生命の連続—G.アダムスキー
 UFO、朝霧高原に出現ノ
 デザートセンター円盤着陸事件②——久保田八郎
 強烈に輝くUFOを見た私たち——川野綾子
 オーラ、宝石、超魔術、チャネラー——遠藤昭則/秋山眞人
 「アメリカGAP」発足ノ——ダニエル・ロス
 UFO-宇宙からの完全な証拠⑩——ダニエル・ロス

No.108 平成2年1月25日発行 ¥900

地球へ救援に来るUFOと転生の法則——G.アダムスキー
 奇跡をもたらす「生命の科学」——久保田八郎
 超能力開発の新しい視点——秋山眞人
 潜在意識としてのDNA——N. H. M. D.
 私は巨大な母船を見た——小瀬村美生子
 私についてきた光るUFO——郡司典子
 GAP海外旅行で目撃した数々のUFO——中根 豊
 ロイよ、来て助けておくれノ——久保田八郎
 UFO-宇宙からの完全な証拠⑩——ダニエル・ロス

No.107 平成元年10月25日発行 ¥900

テレバシー開発法とUFOの実態——G.アダムスキー
 マチュピチュとナスカの謎——久保田八郎
 私はベルギーでUFOを見た——富岡設子
 アダムスキーに会った唯一の日本人(完)——向井 裕
 超能力開発の基礎レッスン——斉藤庄一
 宇宙哲学を生かした超能力開発法——遠藤昭則

No.106 平成元年7月25日発行 ¥900

金星から知的メッセージを受けたマリナー2号——G.アダムスキー
 アダムスキーに会った唯一の日本人②——向井 裕
 宇宙哲学で奇跡を起こす方法——久保田八郎
 ヒーリングとテレバシー——遠藤昭則
 テレバシー現象の医学的考察——N. H. M. D.
 UFO-宇宙からの完全な証拠⑩——ダニエル・ロス

No.105 平成元年4月25日発行 ¥900

デザートセンター円盤着陸事件—久保田八郎/篠芳史/坂本貢一・茂子
 アダムスキーに会った唯一の日本人①——向井 裕
 過去生透視法とその実例②——遠藤昭則
 輝く星々の彼方へ——斉藤庄一
 長野県に巨大UFO出現!——博文文喜
 UFO-宇宙からの完全な証拠⑩——ダニエル・ロス

No.104 平成元年1月25日発行 ¥900

UFO問題と世界の運命——久保田八郎
 アダムスキーの宇宙的カルマと異星人の援助——アリス・ボマロイ
 デザートセンターで円盤着陸痕跡発見ノ—安藤澄雄/久保田八郎
 過去生透視法とその実例——遠藤昭則
 UFO-宇宙からの完全な証拠⑦——ダニエル・ロス
 GAP活動の原理——ダニエル・ロス

No.103 昭和63年10月25日発行 ¥900

アダムスキーの体験は真実だったノ——アリス・ボマロイ
 我らの惑星に愛と希望を——久保田八郎
 カイロ上空に輝くUFOが出現——伊東芳和
 私のUFOコンタクトと宇宙的目覚め——富岡設子
 UFO-宇宙からの完全な証拠⑩——ダニエル・ロス

No.102 昭和63年7月25日発行 ¥900

UFO目撃で驚嘆、大変化した私——後藤泰二
 仙台市上空にUFO長時間出現——遠藤昭則
 富士山周辺でテレバシーに憑るUFO群——長沼宏志
 ミラクルワードとイメージ法で奇跡を起こす——田中 正
 良い想念であなたの環境は良くなる
 UFO-宇宙からの完全な証拠⑩——ダニエル・ロス

No.101 昭和63年4月25日発行 ¥900

宇宙的家族のUFO目撃の日々——坂本茂子
 精神的指導者に対する警告——G.アダムスキー
 円盤の窓から手を振る“異星人”——齊藤庄一
 長野県に出現したUFOの大群——博文文喜
 頻繁なUFO目撃と超能力体験——佐々木八郎
 UFO-宇宙からの完全な証拠④——ダニエル・ロス

No.100 昭和63年1月25日発行 ¥900

UFO問題とアダムスキー——久保田八郎
 富士山二合目から目撃したUFO——遠藤昭則
 私はこうして超能力を開発した——坂本正廣
 アメリカの不思議な土地——水野和彦
 UFO-宇宙からの完全な証拠③——ダニエル・ロス

No.99 昭和62年10月25日発行 ¥700

UFO-宇宙からの完全な証拠②——ダニエル・ロス
 山中湖畔で空中を飛んだ自動車ノ——清水 南
 富士山にUFOが大挙出現——清水敏恵
 (写真)大分市上空のUFO
 アダムスキーの大地とマヤの国へ——久保田八郎

No.98 昭和62年7月20日発行 ¥700

木星の衛星イオに古代都市跡を発見ノ
 UFO-宇宙からの完全な証拠①——ダニエル・ロス
 静岡市上空にUFO頻繁に出現——遠藤昭則
 太陽系惑星にまだ仲間がいる?
 連夜のテレバシー送信に応じて出現した円盤——片岡 豊
 万物の実体と想念の重要性——知念清邦
 私は別な惑星へ行ってきたノ(最終回)——春川正一

*No.97 昭和62年4月20日発行 ¥700

驚異の「生命の科学」と円盤大接近——伊藤達夫
 八王子市でUFOを撮影——降旗和彦
 別な惑星の偉大な人類と文明——G.アダムスキー
 私は別な惑星へ行ってきたノ④——春川正一

*No.96 昭和62年1月20日発行 ¥700

私のオーラ透視とテレバシー現象——清水 南
 京都市上空にUFO5回出現——久保田八郎
 想念放射、透視、UFO目撃——遠藤昭則
 UFOと心霊は無関係——G.アダムスキー
 私は別な惑星へ行ってきたノ③——春川正一



茨城県に巨大な母船が出現

茨城県 久米 清

UFOコンタクトライター誌を初めて読みました。以前からチャネラーと宇宙人の本を読んだことがあり興味があったからです。

秋山眞人氏が超能力の特集を書いておられるので手紙を書くことにしたのですが、秋山氏が二〜三カ月前にテレビのUFO特集番組で、富士山にUFOを呼ぶという生中継番組に出演されました。私はその番組を見ていなかったのですが、妻が見ていて「UFOは来なかったよ」と話をしていたのです。

二〜三日後、仕事の取引先の人から茨城県藤代町の自宅で、その番組の途中から終了後まで約二時間、巨大な母船が上空に滞空し、家族全員と近所の人たちなどかなりの人数で目撃したそうです。秋山氏は「UFOは(富士山より)東の方向に感じる」と番組中で話していたそうです。

取引先の人のお話だと空にかなりの大ききで、輪の中心点に向かって渦巻状に裏のようなものがダイナミックに循環している様子が見えたと見えたというのです。

この頃ビデオというテレビ番組も放映されていますが、そのなかで出てくるUFOの母船も細いドーナツ状の巨大なもので、本物が存在していたとビックリしたそうです。夜

投稿歓迎字数を問わず。匿名発表可なるも住所氏名明記のこと。

間なので高感度カメラでないと撮影できないと重い、写真を撮らなかつたので残念です。ぜひ秋山氏にお伝え下さい。

重要なテレパシー能力

神奈川県 大久保千秋

四月二日付のお手紙を三日後の五日に有難く頂きました。その中であらためて強く感じいった事は、やはりシンクロシティー(同時性)またはテレパシー現象です。実は前回の手紙に「ユリ・ゲラーの反撃」の広告を入れようか入れないかと迷った経緯がありました。私自身、思った事がかなりの確率的中するようになったので、これを(印象を)信じて楽しい事柄をふやしています。

会長が述べられたように、重要な時に重要な事が重なりたりして大変な目にあうのは、生きていければ誰でも遭遇する事実です。いやな目にあう場所とかは確実にありますが、これは霊の仕事ではありません。人間の想念の仕事です。人間の勝手な意見やそれに追従しようとする無定見な無抵抗者がリンクしてさらに悪循環を強くします。要するに生命の全体性(多角性や立体感や流れ)には目もくれず、自分の利害(これだけを求めるのは完全にエゴだ)だけを考

える人々が今もって多数存在します。

私が秋山氏を信じているのは、重要な意見では互いに同じ思いだからです。それ以外にはパフォーマンスであり、美しく注目してゆけば良いものだと思います。秋山氏が呼び出したUFOでもマスコミはUFOらしきものと言っています。プレステージでの出来事やその放映は素晴らしい良いものなのに。ここでもアイデンティフィケーションの能力のなさやうかがえます。だから宇宙人は証拠を提示できないでいるとアダムスキー氏は言っていますが、プレステージの件でよく解りました。それは御体に気をつけて仕事とGAP活動に頑張ってください。

人間個々が独立国家

神奈川県 加藤路徳

最近人を見るにあたって、何かに束縛されていたり、またはそうでない人を見るにつれ、こんな事を思い始めました。はつきり言ってしまうば人間一人一人が皆、独立国家、だと思ふのです。もちろん人間一人一人が個人の考えを持ち、その考えの目標に向かっていっているのですから、自決民族とは言わず、自決人間と言ったほうがよいかもしれません。

元首はもちろん、その肉体を持つ人間、そしてその国家の活動機関は肉体(特に四官)と心。そして国連にあたるものが、宇宙の意識ではないかと思ひ始めたのです。このように考えることにより、人間は平等に創られている事が理解しやすくなりました。さらに自分の「機関」と「国連」を使用することで最良の結論またはヒントが得られると思ひまし

た。すなわち表現することです。

だが一般の方はこの便利な「国連」を利用することを理解していません。こんなことを知っている人はGAPの人達か超能力者の一部かコンタクトライターぐらいのものでしょうか。

最後に質問があります。私は高校生ですから久保田式英語学習術ともいべき英語の勉強法を知りたいのです。これに答えて下さい。

答 なんとと言っても英語を母国語とする外人に直接教わる事。または外人と友達になって英語で話し合うこと。可能であれば海外へ雄飛し、その国(英語国)の大学へバイトでかせぎながら入ること。要するに自分自身を「英語を習得しなければやつてゆけない」という「必要にせまられた立場」に置くことです。

蛇足ながら日本の有名大学というのは日本国内で有名なだけで海外では通用しません。アメリカでは日本の東大、早稲田、慶応などは全く知られていません。したがって日本の有名大学に入れないければ(貴君は入れると思ひますが)思い切つて渡米するが渡英し、あちらの大学を出て英語を完べきにマスターするほうが、これからの国際化時代にそなえてはるかに有利です。そのようにして成功した日本人は沢山います。私はそうしなかつたからいまだに語学で四苦八苦しているのです(編者)。

素晴らしい東京月例会

東京 草野裕子

九月八日の東京月例会に初めて出席させて頂き、久保田先生の素晴らしい楽しいお話や、会員の方(磯目三鶴氏)のとても純粋なまじめさの

にしみ出たお話など聞くことができました。本当に有難うございました。特に先生が会員の方のことを非常に愛情のあふれる言葉で紹介されていたのがとても感動的でした。

さて、この前、心霊的な現象についてどのように解釈したらよいかという質問を書いたのですが、本誌バックナンバーの教冊にその解答がありました。その疑問が解明されたおかげで、友人で少し心霊的なものに頼る傾向の非常に重要な点である「霊的現象とは違う」ということを伝えることができました。

私自身もまだアダムスキーの書物に出会う前、チャネリングをやつてもらいたいと思つたこともありましたが、幸いに料金あまりに高価で、とてむ手が出なかつたので、頼ることなくすみませんが。先生もいろいろ書かれているように、今の若い人たちはUFOや心霊的な本が氾濫しているなかで、とても混乱しやすい状態にあると思います。ただしその反面、心霊がきっかけでアダムスキーに興味を持つ人がふえていくこともたしかだと思ひますので、私自身が一番身近に接することのできる一人でも多くアダムスキーの話を知ることが出来れば良いなと思ひます。

今この時代に日本という国に生まれていてだけでも、日本人というのはかなりの使命があるのだと思ひます。春川氏が言われているように「日本人の10パーセントが平和になるような信念を発するだけで地球上から戦争がなくなる」ということは本当に素晴らしいことですし、そうい



うことが久保田先生をはじめとして長い間GAPの活動を続けてこられた(おそらく大変なご苦労があったと思います)ことの原動力にも通じるような力強い印象を持ちます。中東の問題も先生がおっしゃったように「フセインは悪人ではなく、熟さない善人である」という考え方

で皆がとらえてゆくならば、良い想念が増してゆき、必ず平和的に解決できると思います。先生の素晴らしいフイーリングに満ちたお人柄らしくに接することができて本当に良かったと思います。またよろしくお願ひ致します。

▲一見コマを撮影したように見えるが、秋山眞人氏の透視によると本物のUFOであるという。別な太陽系から来たものらしい。写真はダニエル・フライ提供。詳細は不詳。

英文版「UFO contactee」No.6

B5/12頁/コート紙使用/¥500(送料¥175/3冊まで¥250)

世界のUFO研究界で注目的になっている日本GAP発行英文版ユーコンは、Space Brothers派のUFO研究団体や欧米の個人研究家の間でも絶賛。No.6では春川正一氏の宇宙的体験談の連載記事第4回分、アダムスキーの質疑応答、アメリカGAP会長ダニエル・ロス氏のニュースレターからの抜粋、その他有益な記事写真を満載。重要な保存資料となるものです。久保田八郎・坂本貢一執筆の記事を米人学者が校閲。流麗な英文は英語学習用にも好適です。注文は振替か切手(低額)でどうぞ。 —日本GAP—

編集後記

★本号は金星から転生してきたといわれるイエス関係の特集としました。国内ではほとんど知られていないエルサレムの街の状況も一目で分かるパノラマ写真入りですから、良い参考になると思います。

★その金星とはいかなる惑星なのか。この実状をアダムスキーの解説で「高度に進化した金星人の実態」と題してトップに掲載しました。この記事内容が真実であることを全世界が理解する日はいつか訪れるでしょう。

★UFO目撃体験も四件ほど取り上げてあります。まだ埋もれている事件は沢山あると思いますが、目撃された方は何はおいても当方へご連絡のほどをお願い致します。

★九月二四日に東京で今年度日本GAP総会を開催しましたが、本号には原稿が間に合わなかったため次号に掲載します。

★日本GAP地方支部の活動はこのところ活発に展開しています。最寄りの支部の月例会にご出席下さい。GAP会員でなくても出席可能です。

★今年はまだに見る猛暑の夏でしたが、本号の編集でも残暑きびしい日々が続いています。健康第一を痛感すること願います。

★UFO目撃報告、UFO写真、超能力開発体験、宇宙哲学研究実践、宇宙科学等の原稿や資料を募集しています。原稿書きの苦手な方は面談して下さい結構です(心算は不可)。

日本GAP機関誌・季刊 冬季号
UFO contactee 111号

編集発行人 久保田八郎

発行所 日本GAP

〒136東京都江戸川区本一色1-12-1511

☎03-6511-0958

振替 東京 4135912

一九九〇年一〇月二五日発行

定価九二七円(本体九〇〇円・送料27円)

※本誌掲載の全記事・写真共、他の印刷物への無断転載を禁じます。

第3回 秋田・青森合同支部大会

- 日 時 平成2年11月3日(土) 午後1:00→5:00
- 会 場 「秋田県社会福祉会館」9F 第3会議室
秋田市旭北栄町1-5 ☎0188(64)2700
※JR秋田駅よりバス10分(山王2丁目下車・真向かい)
- 会 費 ￥2,500(全員記念写真代一送料共一￥800は別納)
- プログラム 1:00 支部代表挨拶 伊藤正治・田村嘉彦
(司会佐藤忠義) 1:10 講演「アダムスキー哲学を生かす方法」
日本GAP会長 久保田八郎先生
2:30 超能力開発指導 東京本部役員 遠藤昭則氏
3:10 全員記念撮影・休憩
3:30 全員自己紹介・質疑応答
5:00 閉会

今や国内のみならず国際的アダムスキー研究者として第一線で活躍される久保田先生を久々にお迎えして盛大に支部大会を開催することになりました。親しく先生に接して直接ご指導を頂く絶好の機会です。万障お繰り合わせの上、多数ご出席下さい。両支部会員一同心をこめてあたたかくお迎えし、素晴らしい雰囲気づくりに努力します。

- 夕 食 会 6:00→8:30(希望者のみ)
- 会 場 三井アーバンホテル秋田
☎0188(24)4131
大会会場から徒歩5分
- 会 費 ￥6,000
- 宿 舎 三井アーバンホテル
秋田を幹旋。
秋田市大町2-5-1
シングル ￥6,000
ツイン ￥10,000

▼秋田県社会福祉会館

- 観 光 11月4日(日)
男鹿半島寒風山にて360度回転展望台により宇宙との一体化を体験。参加費＝￥1,500(含昼食代)
- 申 込 大会・夕食会・宿舎・観光の申込はハガキまたは電話で下記へ。
10月20日頃までにお願ひします。
〒011 秋田市山王新町15-4
伊藤 正 治
☎0188(62)2381
- そ の 他 11月月例会は開催します。



絶賛発売中

新アダムスキー全集

全8巻全面改訂・新装普及版刊行開始!

久保田八郎訳・各四六判／新巻数順に順次配本。

超絶した大文明を持つ、太陽系の他の惑星群の人々とコンタクトしたアダムスキーを米政府機関は密かにマークしていた！ UFOや惑星群の驚異的実態と深遠な宇宙思想を伝える本全集は、地球人類に宇宙的覚醒の必要性と真の生き方を示す永遠の古典。UFOと宇宙哲学の研究者にとって必読の名著。旧全集を全面改訂した最終決定版。

アダムスキー／

① 第2惑星からの地球訪問者 352頁・定価1980円

UFO研究者として世界的に著名なジョージ・アダムスキーの、1952年11月20日、米カリフォルニア州の砂漠に着陸した円盤から出てきた金星人との会見から始まる驚異的なコンタクト実録。著者みずから円盤や母船に乗り組み、他の惑星の超絶的大文明の実態を明かにする、本全集の中心の書。写真多数収録。

アダムスキー／

② 超能力開発法 (テレパシー、遠隔透視その他) 182頁・定価1300円

世間に氾濫する通俗的な超能力開発法とは根本から異なる宇宙的能力の発現法を説いたもの。目、耳、鼻、口、の四官をコントロールして、肉体内部の宇宙の意識から来るメッセージを感じ、真の意味でのテレパシー、遠隔透視その他の超能力を身につける方法を具体的に詳述。類書皆無の重要文獻。

アダムスキー／

③ 21世紀/生命の科学 208頁・定価1300円(第3回配本)

アダムスキーが他界する前年に出した12分冊の講座を一冊にまとめたもの。アダムスキー宇宙哲学の総括的な「大金字塔」。特に人体細胞の実態と真実のテレパシー、及び霊界通信の謎等を科学的に解説した超能力開発指導書。心霊現象への接近を警告する画期的な理論を明快に説く、第5巻の続編として必読のテキスト。

アダムスキー／

④ UFO問答100 216頁・予価1600円

1958年にアダムスキーは、世界中から来る質問の洪水を分類して質疑応答集を出した。全部で100問のUFO関係の質問に懇切な回答を与えている。現在の混沌とした世界のUFO研究界に的確な示唆と回答を示すものとして、内容は今も驚くほど新鮮で有用である。UFO研究者の素晴らしいガイドブック。

アダムスキー／

⑤ 金星・土星探訪記 400頁・予価2400円

アダムスキーが母船に乗せられて、想像を絶する進歩をとげた金星と木星を訪れた体験記。特に金星人の少女として生まれかわった亡き妻メリーとの劇的な対面が圧巻。第2部には1958年以来、日本におけるアダムスキーの代理人として啓蒙活動に専念している久保田八郎宛の多数の書簡を収録。

アダムスキー／

⑥ UFOの謎 262頁・予価1600円

UFOの推進原理をはじめ、聖書とUFOとの関連などを詳述して様々なミステリーを解明した重要な文獻。第2部はアダムスキーの世界講演旅行記で、各国GAP網の活動状況が克明に描写されていて1960年代のUFO研究界の事情と一般人の宇宙観がよく理解できる。第1巻の続編。

アダムスキー／

⑦ 21世紀の宇宙哲学 148頁・予価1200円

地球人が真に宇宙的成長をとげるための基本的思想として、マインド(心)と肉体内部に宿る宇宙の意識との一体化を説いた書。既成のあらゆる宗教や哲学では理解し得なかった人間の意識と万物との関係を説いて21世紀の思想を先取りした。第5巻、6巻と合わせてアダムスキー哲学の三部作をなす。

アダムスキー／

⑧ UFO・人間・宇宙 370頁・予価2200円

アダムスキー支持活動団体として世界のトップクラスをゆく日本GAPの機関紙に掲載された、アダムスキーのUFOと宇宙哲学関係の論文、講演録等を編集。他界する直前の最後の講演が圧巻。第2部には訳者・久保田八郎が再三渡来してアダムスキーの今は亡き高弟たちと接したインタビュー記事を収録。

【ご注文のしおり】

全国の書店で発売致しております。店頭品切れの際は、「巻数・書名・定価・出版社名」をそえて書店にお申込みください。お買い求めにご不便な方、お急ぎの方は、直接出版社に「巻数・書名・定価・冊数・住所・氏名・電話」を明記の上、下記宛にご注文ください。

●ご送金は、便利な郵便振替「口座番号[東京8-66324]か現金書留または小額の切手(100円以下)でも結構です。その際、定価に送料310円を加算した金額をお送りください。

●〒104 東京都中央区京橋3-7-13 CAP 中央アート出版社

TEL.03-561-7017(代表) FAX.03-561-7018(営業)

支部名	日 時	会 場	会 費	プログラム・テキスト
東京本部	毎月第2土曜日 午後1:30→6:00	上野公園内「東京文化会館」4F会議室。 ☎03-828-2111。JR上野駅「公園口」下車。改札口の真向かい。 連絡先=日本GAP本部 ☎03-651-0958	会場費 ¥500 セミナー受講料 ¥1000 計¥1500	1:30→2:10 会員による体験講演。 2:15→3:30 久保田会長による講義。 テキスト=「超能力開発法」 テレバシー応用法、近況報告、自己紹介、質疑応答。
大阪支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	大阪府吹田市出口町4丁目「吹田市民会館」 ☎388-7351。JRまたは阪急電車吹田駅下車。 連絡先=平塚和義 ☎06-436-3478	¥300	東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。 テキストその他=東京本部と同じ。
新潟支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	新潟市弁天3丁目「新潟市青年の家」 ☎025-244-6766。JR新潟駅より徒歩3分。 連絡先=星 富治夫 ☎02579-2-5562	¥500	同 上
名古屋支部	毎月第2日曜日 午後1:00→4:30	名古屋市中区金山1丁目5番1号「名古屋市民会館」特別会議室。 ☎052-331-2141代。 JR東海・名鉄・地下鉄の金山橋より徒歩5分。 連絡先=林 国宣 ☎0586-45-6468	¥300	同 上
仙台支部	毎月第3日曜日 午後1:10→4:20	仙台市青葉区1番町4丁目「141(イチヨンイチ)ビル」内5F「エル・パーク仙台セミナー室」 ☎022-268-8300。仙台駅よりバスで県庁市役所前下車、三越デパート隣。 連絡先=笠原弘可 ☎022-295-0725	¥300	同 上
山形支部	毎月第1日曜日 午後1:00→5:00 ※11月のみは第3日曜日に変更。 ※来年1月のみは第2日曜日に変更。	山形県天童市老野森1丁目1-1「天童市中央公民館」 ☎0263-54-1511。天童駅から徒歩10分、タクシー4分。天童市役所の裏側。 連絡先=柴田光明 ☎0233-25-3261	¥300	同 上
札幌支部	毎月第1日曜日 午後1:00→4:30 ※日時・会場は不定につき、高野宛問い合わせること。	中央区北一条西13丁目「札幌市教育文化会館」会議室。 ☎011-271-5821。 連絡先=高野省志 ☎011-783-6393	¥500	同 上
旭川支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00 ※8月より右記の通り会場のみ変更。	旭川市五条4丁目「旭川ときわ市民ホール」1F 302研修室 ☎0166-23-5577 連絡先=川上三秀 ☎0166-61-0044	¥500	同 上
青森支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	青森市松原「青森市民文化センター」教養室。 ☎0177-34-0163。 連絡先=田村嘉彦 ☎0177-38-0416	¥500	同 上
沖縄支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	具市川市栄集野比1213-1「具志川市野外レクセンター」会議室。 ☎09897-2-7722 連絡先=比嘉政広 ☎09893-3-2889	¥500	同 上
秋田支部	毎月第2日曜日 午後1:00→5:00	秋田市八橋運動公園1-2「中央公民館」趣味の間。 ☎0188-24-5377。 連絡先=伊藤正治 ☎0188-62-2831	¥200	同 上
横浜支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	横浜市中区万代町2-4-7「横浜市技能文化会館」7F、703号室。 ☎045-681-6511。JR関内駅、地下鉄・伊勢崎長者町駅より徒歩3分。 連絡先=清水 正 ☎048-866-7048	¥500	同 上
茨城支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	水戸市梅香1-2「三の丸公民館」小集会室。 ☎0292-24-6600。水戸駅北口より徒歩10分。 連絡先=清水勝一 ☎0292-73-1903	¥300	同 上
長野支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	塩尻市大門7番町「塩尻総合文化センター」第1会議室。 ☎0263-54-1253。 連絡先=博田文喜 ☎0263-58-8510	¥500	同 上
紀南会	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00 ※代表が長期療養のため月例会は当分休会。	和歌山県新宮市新宮6682-1「新宮市福祉センター」1F相談室。 ☎0735-21-2760。JR西日本新宮駅下車、徒歩5分。 連絡先=松口幸之助 ☎0735-34-0605(呼・田中)	¥300	同 上
栃木支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	鹿沼市市役所裏「御殿山会館」1F小会議室。 ☎0289-64-4334。JR鹿沼駅から西へ1.5km。東武新鹿沼駅から北へ1.5km、市内行きのバスに乗り天神町下車。徒歩5分。 連絡先=渡辺克明 ☎0289-62-3319	¥500	同 上
南九州支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	鹿児島市与次郎2丁目3-1「鹿児島市民文化ホール」 ☎0992-57-8111。 連絡先=鶴田清則 ☎0993-25-4398	¥500	同 上
高松支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	高松市玉藻町9番10号「香川県民ホール」5F第1会議室。 ☎0878-23-3131。JR高松駅より徒歩7分。 連絡先=関 高明 ☎0875-72-2698	¥400	同 上

A あなたも超能力者に変わる/
テレパシーESPカード
能力開発用

テレパシーと透視力開発用のESPカードはアメリカのテューク大学で科学的に開発されたゼナーカードです。5種類の図形カードが各5枚ずつ、計25枚入っています。これを応用して多種類の練習により人間に内在する超能力の開発に絶大な役割を果たします。堅牢な厚紙製。重量40gの軽量、ポケットに入れて常時携帯して下さい。



25枚1セットケース入り 使用説明書付き
¥900 送料¥120(2~5個¥175)



①オーソン肖像写真 ②シンボルマーク

①1952年11月20日、カリフォルニアの砂漠でアダムスキーが劇的な最初のコンタクトをした金星人は「宇宙からの訪問者」第二部でオーソンという名で出てくるが、これをア氏の記録やアリス・ウエルのスケッチにもとづいて女流画家ガイ・ベッツが描いた名画の写真。(キャピネ判・カラー写真) [上半身写真もあり。定価¥600]
②この金星のシンボル・マークの中央にある眼は「すべてを見透す眼」で、宇宙の意識をあらわし、周囲の四層の星は人間のマインド(心)の発達状態をあらわしている。(サービス判・カラー写真) 上記2点共、重要な資料となります。他所では入手できません。

①¥600 送料¥120 }一括注文の場合送料¥120
②¥300 送料¥62 }

C 大いなる信念と勇気を与えるGAP能力開発テープ

毎月行なわれている日本GAP東京本部月例研究会のなかから、日本GAP会長・久保田八郎先生が宇宙的フィーリングをもってアダムスキーの名著を解説した講義などが収められたテープ。ドライブ中や、通勤・通学電車内で、あるいは就寝前に聞いたりすれば絶大な信念と勇気がわき起こります。

■日本GAP東京本部月例研究会録音テープ①

内容=久保田会長による「生命の科学」(G. アダムスキー著) 解説講義/近況報告/質疑応答(一部)
テープ1本(120分) ¥1300 送料¥200

※このテープは日本GAPでは取り扱いません

■日本GAP東京本部月例研究会録音テープ②

内容=テープ①の内容+遠藤昭則講師によるテレパシー実践講義・テレパシー練習(テキスト付)/質疑応答(全部)
※お申し込みの際はテープ①または②の別をご明記下さい。

テープ2本(90分×2本) ¥1900 送料¥250

◆申込先◆ 〒133 東京都江戸川区本一色1-24-3-202 松村 芳之 ☎03-653-9387 振替・東京0-162644

D 会員募集

日本GAPはUFO研究界の大先駆者・久保田八郎が故アダムスキー氏と提携して1961年に創立したわが国最大のUFOと宇宙哲学の研究大集団/多数の会員と共に宇宙の人間を目指そう/入会案内書をハガキで日本GAPへ申し込みよう!

—日本GAP—



—あなたに超能力が与えられるまで—
日本GAP
〒133 東京都江戸川区本一色1-12-1-511
TEL:03-651-0958

GAP特製
テレホンカード

第3弾テレホンカードは大好評裡に品切れ。ここにデザイン一新の上GAPが放つ第4弾! アダムスキーの肖像写真を入れた優美なデザインによる宇宙的波動を放つこのカードを持つだけでも、高次元なフィーリングが起って良きカルマをつくります。

1枚¥1500 送料1枚まで¥62

E 会員バッジ



ジョージ・アダムスキーが金星人から与えられた唯一のバッジと形、色共全く同様に複製した径18mmの丸い優美なバッジです。薄青色地に金色のシンボルマークが浮彫りされており、縁も金色です。表面には透明樹脂がかけてありますからキズがつかず、光を反射してキラキラ輝きます。男性用は裏側が心棒ネジどめ式、女性用は裏側が安全ピン式です。ぜひお求め下さい。ご注文のさいは男性用・女性用の別を明記して下さい。(無断複製を禁じます)

1個¥2000 送料4個まで¥120



—幸せを呼ぶ—
GAPシール

シールを製作しました。WITH COSMIC CONSCIOUSNESS(宇宙の意識と共に)の文字がシンボルマークを取り囲む優雅なデザイン。径6cm、5cm、4cm、3cm、2cmの5枚1セット。青と赤の2種類あります。自動車の窓、運転台、カバン、書籍・ノートの表紙、その他の持ち物に貼っておけばいつも宇宙的フィーリングに満ちて気分さわやか。良き想念が良い物事を招きよせます。表面光沢。防水加工。裏面のり付。ご注文の際は青、赤の区別をお忘れなく。

1セット¥900 送料5セットまで¥62

◎を除く商品の
申込先・申込方法

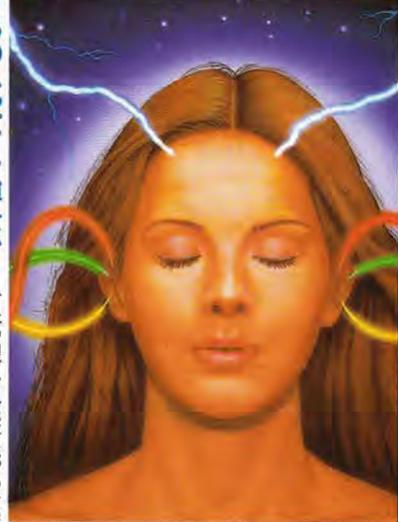
住所・氏名・電話番号・商品名・種類・色・個数等を明記の上右記へ郵便振替または現金書留でお申し込み下さい。

〒133 東京都江戸川区本一色1-12-1-511 日本GAP
振替/東京4-35912 ☎03-651-0958

*商品価格に消費税は含まれておりません。

マインドパワー・潜在能力を開発

「マインドパワーの開発」「充実した人生」これらを簡単に現実のものにしてくれる驚くべきテープがアメリカからやってきました。アメリカの著名な心理学者S・ハルバーン博士の開発した「サブリミナル・プログラム」がそれ。なにせ美しいBGM音楽を聴き流しているだけで確実な効果があるというのですから、これを利用しない手はありません。



あのハルバーン博士があなたのために制作

「マインドパワーの開発」「充実した人生」……これらを現実のものにしたい。これはどんな人でも多かれ少なかれ持っている共通の願望でしょう。ところが、この夢が、とても簡単に実現してしまうテープがアメリカからやってきたのです。それがアメリカでは知らない人はいないほど有名な心理学者S・ハルバーン博士の「サブリミナル・プログラム」です。博士の手になるサブリミナルテープは、米国で昨年一年間だけで五十数万本という驚異的ペースでテープを聴き、その確かな効果が実証されています。

BGMとして聴くだけで効果が!!

このサブリミナルテープ、耳に聴こえるのは、うっとりするような美しいメロディーの心がゆつとりとくすくすする静かな音楽だけです。

（日本の曲でいえば、喜多郎の音楽にイメージが似ている。この音楽だけでなく、ストレスを解消し、気分をさわやかにするすぐれた効果がある。しかし、実はこの音楽に、ハルバーン博士が開発した他に真似できない高度な音響テクノロジーを駆使してある心理学的な言葉のメッセージが耳に聴こえない周波数に送られて入っているのです。（潜在脳に独特の刺激を与える音楽の波長が、特に聴こえないメッセージの波長を潜在脳へ運び、植えつけています。）

この音楽に交って入っている「耳に聴こえない心理学的メッセージ」が、ただテープの音楽を聴いているだけで、潜在能力が開発される、充実した人生へ歩み始める、という現象を引き起こす秘密なのです。BGM音楽として聴き流しているだけで、夢がかなってしまふ。このアメリカを驚かすほどの科学的プログラムがついに日本の皆様にもご利用いただけるようになったのです。

商品お申込み案内書請求の方に試聴用テープを無料進呈!

1 マインドパワー・潜在能力を開発

あなたの心と体をゆつたりとほぐし不安緊張や心と体の疲れを取り除いてくれる宇宙的感覚の波動BGM音楽に、あなたの意識を拡大し、精神力「マインドパワー」や秘められた潜在能力を自然に開発するサブリミナル・メッセージを同調させたのが、このMDシリーズです。会社から帰ってその日の疲れを癒したい時、日常生活のわずらわしさから解放されたい時、静かなBGM音楽を流して気分転換をしたい時……

そんな時にMDシリーズをBGM音楽としてお楽しみ下さい。各種のアイデアで得られる「意識の拡大」レベルの脳波の強化「心の安らぎ」秘められた潜在能力の開発「精神力の強化」「人間性・人格の向上」等の効果が得られ、より大きな人間に成長してゆく自分と今まで以上に拡大していく人生を手に入れることができます。

MDシリーズのお届けするテープの内容は、●完全なる安らぎ●意識の拡大●大いなる自分との出逢い●無限大の心●宇宙意識の目覚め●人間性・人格の向上●愛と慈愛のエネルギー●精神力の強化●使不完的潜在能力の開発●第六感の開発●自由自在な思考●無限の知恵の獲得

(このシリーズのサブリミナルテープのベース音楽には、ハルバーン博士の友人である、ヤンソンの宇宙音楽をはじめ素晴らしい瞑想音楽が使われています。)



2 現状を打破し充実した人生を

「今のままではいけない!」「もっと充実した人生を送るために何かをしなければ……」そんな中で、は感じているだけだと、現状を打破する第一歩を踏み出すキッカケをつかめず毎日を情性に引きずられて何となくおどめしてしまっているという方にお勧めするのがHシリーズです。

現状から抜け出し新しい人生に向けて第一歩を踏み出す動機づけと、毎日がワクワクするような胸のときめきを覚える充実した人生を送るために必要な充実した人生を送るために必要な……

Hシリーズのお届けするテープの内容は、●現状を打破する●目標計画づくりの習慣●情性にまつた脱却●最高の人生を考える●自分の可能性を試す●実行する習慣●必要な読書・勉強の実行●毎日ベストを尽くす●プロフェッショナルをめざす●向上意欲の強化●充実した人生を生かす●大いなる未来へはばたく

(このシリーズには、ハルバーン博士の友人である、ヤンソンの宇宙音楽もA面B面を通してオーディオテープでお使いになれます。)

※このHシリーズには、充実人生計画シート、充実人生コンセプトシートが付いています。



今なら無料試聴でき特別価格で購入できます

●MDシリーズ ●Hシリーズは一年間の会員制の頒布会方式でお届けします。お申込み後、毎月各テープ別のテープを二巻ずつ(テープに1テープ)は毎月2巻お届けします。お支払いは毎月テープ到着後に4,800円(送料300円)。第一回目およびそれ以降もテープ到着後5日間の無料試聴期間を設けていますので、気に入らない場合は自由に返品できます。●今回ご紹介したシリーズ以外にも、「高速学習セット」「魅力的性格シリーズ」等のシリーズがございます。●住所・氏名・年齢・職業・電話番号を明記の上、「□□シリーズ試聴希望」又は「案内書希望」と記載でお申込み下さい。

〒117 東京都港区南青山1-26-4
アメリカカレッジ・リサーチ 967 係
東京 03(347)9466
03(347)9466
受付AM8:00~PM24:00 平日も受付中

サブリミナルテープを無料で差し上げます!!

サブリミナルテープをBGM音楽として聴くだけで

あなたの人生が変わる!

「記憶力・集中力強化」「女性にもてる魅力的性格」「性エネルギーの強化」「恋愛・仕事の成功」「最高の頭脳」等々を全く努力なしに現実のものにしてくれる奇跡のテープ「サブリミナルテープ」がアメリカからやってきました。

発売を記念して先着500名の方に試聴用テープを無料で差し上げます。今すぐお八ガキ・お電話でお申込み下さい。



先着
500名様限り

●お八ガキ
●お電話
●お申し込み

03(479)5864

集中力強化
記憶力強化
恋愛成功
仕事成功
自信アップ

「朝日放送」「文化放送」「TBSラジオ」等でも紹介

あのハルパーン博士が あなたのために制作!!

「魅力的性格」「潜在能力開発」「理想の恋愛の実現」「仕事・勉強の能力向上」「最高の頭脳」...これらを努力なしに現実のものにしたい...これはどんな人でも多かれ少なかれ持っている共通の願望でしょう。ところがこの夢をいとも簡単に実現してしまうテープがアメリカからやってきたのです。それがアメリカでは知らない人はいないほど有名な心理学博士スティーヴン・ハルパーン氏の開発したサブリミナルテープです。

博士の手になるサブリミナルテープは、米国で昨年一年間だけで五十数万本という驚異のベストセラーを続け、その確かな効果が実証されています。

BGMとして聴く だけで効果が!!

このサブリミナルテープ、耳に聴くだけで、うっとりするような美しいメロディーの心がゆつりと流れていく静かな音楽だけです。日本の曲ではない。喜多郎の音楽にイメージが

似ている。この音楽だけでもストレスを解消し、気分をさわやかにするすぐれた効果がある。しかし、実はこの音楽に、ハルパーン博士が開発した他に真似のできない高度な音響テクノロジーを駆使して、ある心理学的な音楽のメッセージが耳に聴こえない周波数に変換されて入っているのです。(潜在脳に独特の刺激を与える音楽の波長が、耳に聴こえないメッセージの波長を潜在脳へ運び、挿入してしまおう)

この音楽に交って入っている、耳に聴こえない心理学的メッセージが、ただテープの音楽を聴いているだけで、「記憶力・集中力等が自然に高まる。自然に理想の恋人ができてしまう。仕事・勉強の能力が驚くほど上がる。知らず知らずのうちにまわりの人から好かれるようになってしまおう」という現象を引き起こす秘密なのです。

「本を読んだり趣味に熱中している時に、BGM音楽として聴き流しているだけで、夢がかなってしまう」「このアメリカの苦勞ならずの科学的プログラムが、ついに日本の皆様にもご利用いただけるようになったのです。

◆数多くの目的別テープを販売中◆

- 勉強の習慣をつける
- 学習効率を上げる
- 記憶力をつける
- 禁煙の実行
- ストレスコントロール
- 積極的思考の習慣づけ
- コミュニケーション能力の強化
- 減量の実現
- 性エネルギーの強化
- スポーツ・運動の習慣づけ
- さわやかな毎日を送る
- 他人を無条件で好きになる
- 勉強の習慣をつける
- 学習効率を上げる
- 記憶力をつける
- 禁煙の実行
- ストレスコントロール
- 積極的思考の習慣づけ
- コミュニケーション能力の強化
- 減量の実現
- 性エネルギーの強化
- スポーツ・運動の習慣づけ
- さわやかな毎日を送る
- 他人を無条件で好きになる

● スティーヴン・ハルパーン博士のプロフィール ●

音楽・音・言葉の潜在意識への作用の研究で世界的にその名を知られる心理学博士。学者であると同時に、瞑想・音楽の神様、としても米国はもちろんヨーロッパ、各国にその名を知られ、世界的なファンを数多く持っている。博士の音楽は鑑賞用の音楽としても高く評価されているが、博士の長年の研究のエッセンスが凝縮した、音楽の薬としての効果も医学・心理・教育関係者間で高い評価を受けている。いろいろな分野で博士の音楽を取り入れている。カイザー・パーメント病院をはじめ全米の一流の医療機関では、博士の音楽を薬品の代わりとして患者に与え、著しい効果を上げている。



先着500名の方に試聴用テープを無料進呈中!!



■ 本社のサブリミナルテープは、雑誌・新聞等で大きく取り上げられたのをはじめ、文化放送「やる気まんまん」、TBSラジオ「日本全国3時で有」等でも「アメリカからやってきた驚くべきテープ」として大々的に紹介されました。

■ 試聴用テープをご希望の方は、「無料サンプルテープ1希望」と明記の上、お八ガキ・お電話でお申込み下さい。

試聴用サンプルテープと詳しい案内書を無料で送ります。(サンプルテープの返品の義務や商品購入の義務は全くありませんので安心して申込み下さい。)

● 今回お届けする「無料サンプルテープ1」はS・ハルパーン博士の自らの作曲になる、7つの波動レベルからなる心と体そして頭脳を最高のくつろぎの状態に導く音楽に、耳に聴こえない言葉を同調させたアメリカで最も人気のあるテープのひとつです。

● 当社では「恋愛成功」「ビジネス成功」「魅力的性格づくり」「潜在能力の開発」等々の数多くのシリーズを販売

しています。これらのシリーズを詳しく紹介した案内書も無料サンプルテープと同時に送らせていただきます。

〈申込方式〉住所・氏名・年齢・職業・電話番号を明記の上「無料サンプルテープ1希望」と下記まで、お八ガキ・お電話で今すぐお申込み下さい。(サンプルテープのお申込みは16才以上の方に限らせていただきます)

〒107 東京都港区南青山1-26-4
アメリカンライブラリー社 968係
電話 東京03(479)5864 (受付AM8~PM24)
日・祭日も受付中